

# 佐渡植物方言語源私考

本 間 建一郎

## 1 はじめに

平成13年2月(2001)に八坂書房編集の「日本植物方言集成」が発行された。これより先、昭和47年4月(1972)に八坂書房は、(社)日本植物友の会編集の「日本植物方言集(草本類篇)」を刊行したが、このたびの「方言集成」は、その後20数年を経た今日、新たに収集された方言に木本類をも含めさらに充実した内容となり、収録されている植物数は野生植物と栽培植物とを合わせ2000種あまり、それに含まれる方言名およそ40000語が収録されている。この「方言集成」には佐渡の植物方言が植物の種類で260種あまり、方言名で580語ほど記載されている。

佐渡の植物名の記録されている古い文献に、相川奉行所が幕府に提出した「佐州産物志(全)」(享保20年、1735)の写し(寛延2年、1749)が残っている。また、相川奉行所の命により田中美清(葵園)の編纂した「佐渡志」(文化3~13年、1806~1816)に335点の植物の記載がある。「佐州産物志(全)」は、江戸幕府八代將軍徳川吉宗の命を受け、本草学者丹羽正伯が、享保19年に全国の諸領にたいし、各領内で産出する産物を記録した「諸国産物帳」の提出を指示した際に編纂されたものである。「佐渡国略記第9巻」(佐渡高校同窓会編:佐渡国略記上巻1986)に、佐渡においても相川奉行所が享保20年に「佐州産物帳」を江戸へ提出したことが記録されている。

今日残っている「佐州産物志(全)」は奉行所の控書の写しと思われる。各領から提出された「産物帳」に載せられている植物名の多くは各領の地方名で記録されており、今日それらの地方の植物方言を知る手がかりとすることができる。

「諸国産物帳」の調査研究をされている安田 健博士はその著書「享保・元文 諸国産物帳集成 第三巻 佐渡・信濃・伊豆・遠江」に国立国会図書館収蔵の「佐州産物志(全)」を載せて解説し「佐渡は古くから独自の文化を作り上げた場所柄であるだけに、動植物の呼称には本土と異なるものが多いが目立つ。その中には今日まで残るもの、あるいはすでに消えた呼称もあるのではないかと思います。その詳細な検討は同地の事情に詳しい方のご検討を仰ぎたい」と記されている。植物方言はその地域に住む人々と自然との関わりが深いほど多く生まれるものであろう。いわば方言はその土地の文化の所産である。現今その土地の方言が忘れ去られようとするとき、いま「日本植物方言集成」の発行を機に、佐渡各地の知人の協力を仰ぎ、これに記載の佐渡方言を基に、各地の方言の分布を調査した。その結果を踏まえてこのたび佐渡植物方言の語源の解明を試みた。安田博士の期待に沿えるかどうかを危惧しながら、いくつかの文献を頼りに偏見と独断を以て試みた。諸賢のご批判と、ご叱正を頂ければ幸甚の至りである。また、この作業にご協力を頂いた各氏に深甚の謝意を表する。

凡 例 1) 植物名の和名はカタカナで表し、漢名を付し、漢方の薬効を記した。2) 方言名はひらがなで表した。3) 「方言集成」に記載されている方言のうち佐渡のものには※印を付け、佐渡の記録のないものには\*印を付けた。4) 「佐州産物志(全)」に記録されているものには◎印を、「佐渡志」に記録のあるものには□印を付記した。5) その他のものは無印とした。

## 2 佐渡の植物方言と分布

### 1 アオダモ(コバノトネリコ)(モクセイ科)

くろたもぎ※ 外海府

たもぎ 中興 大和田 下久知 水津

(ノート): タモギはこの木の材が強靱でよく撓むことから「撓む木」からといわれる。タモ、ダモ、タモギ、タミノキ等に転訛する。この木の枝を切って水に挿すと、水が青くなることから名付けられたといわれる。佐渡に自生するものにアオダモ、ヤマトアオダモの二種がある。海府地方では、樹皮が灰褐色のアオダモをクロタモギ、淡褐色で滑らかなヤマトアオダモをシロタモギと区別する。

### 2 アオサ(アオサ科)石専

あおさ\*◎ 赤泊 片野尾、 分布;三重 山口 香川

あおのり 長江 平松 北小浦

あまのり◎

あまも◎ 沢根

いとあおさ(古)※◎ 水津

(ノート): アオサは海岸の浅いところの岩に着生して生じるが、アオノリと一緒に認識しているようである。またアマモ、アマノリはイワノリ(紫菜)をさすがこれらを含めてアオサにしているものと思われる。

### 3 アオミドロ(ホシミドロ科)

あおさ 吉井本郷

あわさ※ 長木 中興 大和田 下久知、 分布;新潟

みずあか※ 長江、 分布;新潟

(ノート): アオミドロは淡水中に繁殖する糸状のホシミドロ科の植物であるが、田植え直後の水田などではこれが繁殖すると水面が泡立ちイネの幼苗に付着し倒伏させ腐敗枯死の原因になる。

### 4 アカマツ(マツ科)

おんなまつ\* 長木、 分布;青森 茨城 群馬 千葉  
神奈川 静岡

めまつ\* 高千、 分布;新潟 青森 秋田 山形 茨城  
静岡 京都 和歌山 島根 高知 大分 鹿児島

(ノート): マツの樹形からアカマツは雌松、クロマツは雄松に対比させたもの。

5 アカメカシワ (トウダイグサ科) 楸樹

あかめのき\* 加茂 高千 長木 水津 片野尾 赤泊  
徳和 羽茂 分布;千葉 石川 福井 静岡 和歌山  
(ノート): 枝先の幼芽や新葉が赤味を帯びる。また、カシ  
ワはこの木の葉で食物を包んだことからといわれる (炊ぐ  
木)。高千地区では神棚に供える塩を盛る皿かわりに葉を  
使用する (北見健彦氏)。

6 アカモク (ホンダワラ科)

あまも◎

とめも◎

ながも 徳和 佐渡全域

7 アキカラムツ, カラムツソウ (キンボウゲ科)

たかとー◎ 中興 羽茂

(ノート): タカトウは高当薬の簡略語であろう。当薬はセ  
ンブリであり苦味健胃薬である。アキカラムツにも苦味が  
あり健胃薬に用いた。この植物が草丈の高いところからタ  
カトウヤクと呼ばれタカトウとなったものと思われる。

8 アキグミ (グミ科)

はまぐみ 高千 下久知 水津

(ノート): ハマグミはこのグミが海岸地帯に多く見られる  
ことによるものと思われる。

9 アケビ (アケビ科) 木通 通草, 蔓茎一利尿剤

あくび□ 加茂 二宮 高千 沢根 長木 中興 大和田  
吉井本郷 立野 長江 北小浦 下久知 水津 片野尾  
畑野 赤泊 徳和 羽茂

(ノート): アクビはアケビの転訛。アケビはアケミで実が  
裂開するところからと云われる。

10 アジサイ (ユキノシタ科) 紫陽花

あづさい◎

あんさ※ 水津

ななばけ※ 分布;三重 滋賀 奈良 山口 香川

(ノート): アジサイはアズサイの変化, アズは集まるの意  
で花が多数集まっているところから。サイはサ (真) 藍で  
花色から。アンサはアジサイの転訛。ナナバケは七化けで  
花色が生育環境で変化するところから。

11 アスナロ (ヒノキ科) 羅漢栂 葉茎一黄疸薬

あてび\* 高千 沢根 長木 中興 吉井本郷 立野 長  
江 平松 北小浦 下久知 水津 片野尾 畑野 新町  
赤泊 新穂 徳和 分布;石川 福井 岐阜 静岡  
京都

ひのき\* 中興 分布;岩手 千葉 青森 宮城 秋田  
栃木 群馬 岐阜

ひば\* 中興 分布;青森 岩手 宮城 福島 山形 群  
馬 長野 静岡 石川

(ノート): 佐渡におけるアスナロの一般的呼び方はアテビ  
(当て松) である。ヒノキ (檜木), ヒバ (檜葉) は少数派

である。アテビはその材が優れているから「貴檜」である  
と言う説もある。アスナロはヒノキによく似ていて、「明  
日はヒノキ」になろうと言う意だと言われる。佐渡に自生  
するアスナロは球果が円い北方系のヒノキアスナロであ  
る。佐渡ではヒノキをアスナロと呼ぶ。

12 アセビ (ツツジ科) 馬酔木 掃木, 葉一殺虫剤

いせじろ※

からしきび※ 中興 吉井本郷

こしきみ※

これきみ※

しきび\* 水津 分布;埼玉

(ノート): アセビは佐渡に自生はなく、庭園に植栽される  
常緑の小灌木である。葉は小形でシキミに誤認されてい  
るのであろう。「イセジロ (伊勢白), カラシキビ (唐シキ  
ビ), コシキビ (小シキビ), コレキミ」は品種名であらう  
か。「シキビ」はシキミ科のシキビと同じ系統の植物に見  
ているもの。

13 アブラナ (アブラナ科)

わかな□

(ノート): ワカナは早春に成長を始める菜の意か。

14 アマ (アマ科) 亜麻, 種子 (煎剤) - 腸疾患の包摂剤  
やまそ※

(ノート): ヤマソ (山麻) はカラムシを指す。アマ (亜麻)  
は中央アジア原産の繊維植物。この糸で織った布をリンネ  
ルと言う。漢名の亜麻はラテン語名 *Amania* からと言う。  
又、大麻に次ぐから亜麻だとの説もある。

15 アマガキ (カキ科)

きざわし 高千 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷  
立野 長江 (きざがき) 平松 北小浦 下久知 水津  
片野尾 湊 新町 赤泊 松ヶ崎 徳和 羽茂

(ノート): キザワシは「木酢, 柳柿, 樹淡, 木淡, 木練」等  
がある。キザガキはこの転訛。

16 アマチャズル (ウリ科) 千歳薬

あまちゃ◎ 沢根 中興 大和田 長江 北小浦 下久知  
新町 赤泊 松ヶ崎

17 アマドコロ (ユリ科) 甘野老 萎蕤 黄精 偏精,  
根茎一関節炎, 腰痛

へびのでーはち 水津 片野尾

(ノート): アマドコロの名は地下茎がトコロに似ているが  
トコロとは違って甘味のあることによる。ヘビノデーハチ  
は「蛇の大八」で一般にテンナンショウに当てた方言。こ  
のアマドコロの若芽の茎の模様がテンナンショウに似てい  
るところからと思われる。

18 アマナ (ユリ科) 山慈姑 鱗茎一腫瘍

かたくりな◎ 中興 分布;南部地方

ごわじ 高千

(ノート): アマナもカタクリと同様に根から澱粉を採り、また茎葉を食用にしたのでカタクリナの呼称があるものと思われる。ゴワジは良く分らないが「御和尚」ゴワジョウの転訛か。

19 アマモ (ヒルムシロ科) 甘藻

うみがま◎

(ノート): アマモは「リュウグウノオトヒメノモトユイノキリハズシ」と言う長い名を持っている。葉の形から海に生える蒲の意でウミガマであろう。

20 アラメ (コンブ科)

あらめ\* 沢根, 分布; 和歌山

かじめ※ 高千 立野 北小浦 水津 片野尾, 分布; 石川 静岡 山口

(ノート): 佐渡の近海で採取するものはツルアラメである。アラメまたは別名カジメとよばれる。しかしカジメは搗布で別種。

21 イカリソウ (メギ科) 淫羊藿 葉-陰痿の薬

つるはな※

つるばな※

(ノート): 佐渡に自生する種類はトキワイカリソウと云われる。その分布は小佐渡の西部寄りで大佐渡へは新穂から水渡田を通して安養寺まで続く。花は四片の花弁に長い距があり錨状で下をむいて釣り下がっているところからツルハナ、ツルバナと言われる。

22 イタドリ (タデ科) 虎杖 根-通経剤, 淋疾薬

したどり※◎

すいかっぱん※ 二宮 沢根 長木

すいかんぽー※ 下久知, 分布; 埼玉

すいかんぼん※ 大和田

すいかんぼんぼん 沢根 中興 泉 立野

すいこ※ 羽茂, 分布; 石川 長野 香川

すっこんこん 金泉

すっぱん※ 高千 松ヶ崎, 分布; 三重 奈良 和歌山 京都 兵庫 岡山 広島 山口 島根 香川 愛媛 高知

すっぱんすいか※ 北小浦

すっぱんぼん※ 金泉 新町, 分布; 大分

たけすいこ※ 分布; 長野

たけずっぱん※

ぼんぼん※ 加茂 中興 大和田, 分布; 石川 長野 岡山 広島 山口 愛媛 高知

ぼんぼんすいか※ 二宮 長江 平松, 分布; 新潟 大分

ぼんぼんずい 沢根

ぼんぼんずいか※ 吉井本郷 立野 長江 北小浦 水津 両津 松ヶ崎

ぼんぼんずいきよ 水津

ぼんぼんずいこ※ 長江 水津 赤泊, 分布; 新潟

ぼんぼんずいこん※

ぼんぼんまいか※

やまだけ※ 分布; 広島

(ノート): イタドリの古名を「たじひ」という。蛇のママシを「たじひ」と云い茎の模様からイタドリにその名をあてたものか。イタドリは早春わかい幼茎を山菜として利用し、また若い芽を揉んで傷口に擦り込み出血、痛み止めに用いたという。佐渡に自生する種類にイタドリとオオイタドリの二種がある。

シタドリはイタドリの転訛。ヤマタケ、タケスイコ、タケスッポンは幼茎を竹の子(筍)に見立てたもの。他の方言は「ぼんぼん」と「すいか」から成り立ち基本形は「すいかんぼんぼん」であろう。「すいか」は幼茎の食味が酸っぱいところから「ぼんぼん」は採取するときのポンという音感からであろう。

23 イタヤカエデ (カエデ科)

いたや\*◎ 高千 沢根 中興 大和田 吉井本郷 立野 北小浦 下久知 水津 片野尾 新穂 徳和 羽茂,

分布; 秋田 栃木 京都 茨城 新潟 長野 富山 石川 鳥取 熊本

(ノート): 「いたや」の名は葉が板屋のように密に重なり着生し雨露の漏れるのを防ぐ事からという。佐渡に自生する種類をアカメイタヤという。

24 イチイ (イチイ科) 桧

おんこ※ 沢根 長木 中興 大和田 下久知 水津 徳和, 分布; 北海道 青森 岩手 宮城 山形 埼玉 神奈川 静岡 高知

とが※◎ 高千, 分布; 新潟 長野 島根 鳥取 岡山

もみ\*◎ 沢根 中興 大和田 吉井本郷 立野 長江 北小浦 新町 赤泊 畑野 徳和, 分布; 山形

(ノート): 笏を作る材にするところから第一の位である「イチイ、一位」と名づけられたと言う。「おんこ」はアイヌ語起源という。「とが、もみ」はマツ科の植物で本来別種である。葉の形状が似ているところから誤称されたもの。佐渡では「もみ」が多い。

25 イチジク (クワ科) 無花果 果実-緩下剤

いちじく 沢根

とーがき※ 外海府 加茂 二宮 高千 長木 中興 新穂 吉井本郷 立野 長江 平松 北小浦 下久知 湊 赤泊 新穂, 分布; 山口 福岡 山梨 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 鳥取 島根 岡山 広島 香川 愛媛 長崎 熊本 大分

とんがき 水津

(ノート): 小アジア原産「イチジク」の名称は果実が一月で熟すとか、一日で熟すからといわれる。また、イチジクの漢名は「映日果」で「映日; アンジツ」はイチジクのペルシャ語の「アンジル」を漢字にしたものという。このアンジルがアンジツ果-インジツカーイチジクとなったとい

われる。「とーがき、とんがき」は唐柿で柿と同様に木に着生したまま熟するところからと云われる。

26 イチョウ (イチョウ科) 銀杏 鴨脚子  
いちようのき 北小浦  
ぎんなん◎□ 中興 大和田 吉井本郷 下久知 水津  
新町 赤泊 畑野 羽茂  
ちちのき\*□ 分布; 神奈川  
(ノート): イチョウの名称は漢名の「鴨脚」の中国音の「イチャオ」や「ヤチャオ」からの転訛という。「ぎんなん」は実で銀杏(ギンキョウ)の中国音のギンナンからである。また「ちちのき」はイチョウが太木になると横枝から気根が乳頭状の瘤となって垂下するからである。また公孫樹といわれるのは実の成るのが孫の代になる意。

27 イヌガヤ (イヌガヤ科)  
しょーび※ 分布; 山形  
ひゅーび\* 中興 分布; 福島 宮城 群馬  
ひょーび\* 長木 大和田 吉井本郷 高千 徳和  
分布; 奥州 山形 福島 新潟 富山 福井 長野  
ひょーぶ\* 徳和 分布; 宮城 秋田 山形 富山 石川 長野 静岡  
(ノート): イヌガヤは犬樵でカヤ(樵)に似て非なるところから。佐渡に自生するものはハイイヌガヤという。方言の「ひょうび」が代表的で他はその転訛。この「ひょうび」の語源のひとつは、この実から灯油用の油を採ったことから「火の実」→火のミー火のビーヒョウビ」となったものという。もうひとつは、イヌガヤは古くは「加閉、カヘ」といい、その実を「閉の実」すなわち「閉実、ヘミ」といい「ヘミーヘビーヘイビーヒョウビ」となったという。

28 イヌショウマ (キンポウゲ科) 犬升麻  
いわんたいら※ 中興  
(ノート): イヌショウマ 佐渡に自生の記録は無い。  
名前のイヌショウマは升麻(サラシナショウマ; 晒し葉升麻)に似て非なるものの意。イワンタイラは「岩のタラ」の転訛で岩場に生える「タラ」の意か。

29 イヌツゲ (モチノキ科) 柞木  
びんかか※□ 外海府 高千 沢根 長木 中興 大和田  
吉井本郷 立野 長江 北小浦 水津 片野尾 両津  
畑野 赤泊 徳和 羽茂  
びんかが※ 二宮 沢根 下久知  
びんかかず※ 分布; 山梨 長野 宮城 秋田 山形 新潟 山口 愛媛  
(ノート): 「びんかかず」は「髷かかず」である。イヌツゲの材質は粗悪で櫛を作るに耐えず、髷搔き櫛は作らなかったで「びんかかず」の名が生まれたといわれる。

30 イヌビユ (ヒユ科) 犬菟  
ひゅ 高千 分布; 香川  
ひゅー 中興 羽茂

ひょー※◎ 長木 中興 大和田 吉井本郷 分布; 岩手 千葉  
ひよくさ◎□  
まびゅー※ 長木  
(ノート): ヒユはインド原産の一年草、イヌビユは畑の雑草、いずれも救荒植物として採食した。これを食べると体が冷えるので「ヒユ; 冷ゆ」の名になったといわれる。この植物は茎丈が高く見えるので「菟」の字を当てるといふ。「まびゅう」は「真菟」である。

31 イノコズチ (ヒユ科) 牛膝 根-駆瘀血剤  
ていそー (古) ※  
ていそく□  
(ノート): イノコズチは古くは「為乃久豆知」と書いたがこれは「為乃久豆和」の誤記で「猪の轡」の意であろうとする説がある。即ち茎枝を切り取ると「轡」の形になるという。「ていそく」は鼎足の転訛か。鼎は三本足で立っているが、イノコズチは枝が対生に着いており、茎を節で切り取り両枝を適當の長さにし、釣り合い人形(野次ろうべい人形)を作る遊びがある。この枝の釣り合いを鼎の足の釣り合いに見立てたものか。

32 イボクサ (ツユクサ科)  
べっちょぐさ※  
ほしくさ※  
(ノート): イボクサは水田など水湿地の雑草。「べっちょぐさ」は幼児がこの草の茎を節のところで抜き取り葉鞘に抜き挿ししてあそんだことから。また、「ほしくさ」は桃色で三弁の小花を星に見立てたものか。

33 イワカガミ (イワウメ科)  
きつねのかおつき※  
むじなのふとん※  
(ノート): 佐渡に自生するものはオオイワカガミである。「きつねのかおつき」は葉の形に依るものか。「むじなのふとん」はこの植物が密生しているところからの譬えであろう。

34 イワナシ (ツツジ科)  
やまなし 高千 中興 大和田 吉井本郷 立野 下久知  
(ノート): 山地の林床に生育する日本海型の植物。  
その実を食べる。

35 イワニガナ (ジシバリ) (キク科)  
ちちくさ\* 立野 北小浦 下久知 新町 赤泊 分布;  
群馬 静岡 新潟 和歌山 鹿児島  
(ノート): 茎葉を切ると切り口から白い乳液が出る事による。

36 イワノリ (アマノリ) (ウシケノリ科)  
あまも※  
のり\* 高千 分布; 岩手 和歌山

(ノート): イワノリといわれるものはウップルイノリを主に、多くの種類の総称である。漢名は紫菜、これをアマノリという。一般的に「のり」といわれる。

37 イワヒバ (イワヒバ科) 茎葉-下血脱肛

いわまつ※ 高千 大和田 分布; 三重 和歌山 香川  
福岡 島根 岡山 広島 熊本 長崎 鹿児島

としょ※ 中興 下久知

ねずみさし 水津

ひば 北小浦

(ノート): イワヒバは奥山の岩上に着生する。盆栽として愛培され、その形状から「岩松、杜松、鼠刺し、桧葉」等と言われる。

38 イワユリ (ユリ科) 鱗茎-利尿剤、乳房の腫れ

いわゆり※ 高千 水津 分布; 山形

げんれんぼう※ 外海府 片野尾

(ノート): 「いわゆり」は岩百合である。

「げんれんぼう」はゲンレン坊主で、「げんれん」にはどんな意味があるのでしょうか、イワユリの咲く頃に山地で咲くレンゲツツジがある。この両者は、花の形、色が良く似ていて、このイワユリの方言はこのツツジに関係があるのではないだろうか。イワユリの草丈は低く可愛らしく「坊主」と呼ばれ、レンゲツツジに対比し「レンゲ」を「ゲンレン」と反対に呼び「ゲンレンボウズ」としたたのではなからうか。

39 インゲンマメ (マメ科) 隠元豆 緑豆、種子-巴布剤

ささぎ※ 長木 中興 大和田 立野 長江 北小浦 下久知 水津 片野尾 畑野 両津 新町 高千 松ヶ崎 羽茂 分布; 北海道 青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島 山梨 岐阜 山口

ささげ※ 高千 沢根 長木 吉井本郷 平松 赤泊 分布; 北海道 青森 岩手 宮城 秋田 新潟 長野 岐阜 愛知 京都 鳥取 山口 宮崎

(ノート): インゲンマメの類は一般にササゲ、ササギとよぶ。ササゲは小豆と同様の用途がある。莢の長いものを十六ササゲと称し莢を食べる。ササゲの語源は莢が上を向いて着くところから捧げる意といわれる。

40 ウグイスカグラ (スイカズラ科)

あずきいちご※ 分布; 兵庫 島根 岡山 香川

(ノート): 佐渡に自生の記録がない。

ウグイスカグラの語源には「ウグイスの隠れる木」とか「ウグイスの狩座(カクラ)」などがある。「アズキイチゴ」は紅熟した漿果を小豆に見立てたもの。

41 ウケザキオオヤマレンゲ (モクセイ科)

ぎよくせい※

(ノート): 佐渡に自生の記録がない。

「ギョクセイ(玉璽)」園芸品種、延宝年間に中国より渡来する。

42 ウコギ (ヤマウコギ) (ウコギ科) 五加木 樹皮-止痛薬、強壯剤

いっかき※◎

いっかきのきのは◎

いっかきのは※

ねずみさし※ 沢根 中興 立野 平松 北小浦 下久知 水津 新町 畑野 赤泊

(ノート): 漢名、五加木(ウコギ)

葉は五裂し一体となる→向木→ウコギ。「いっかき」は「五加木」の読み、「ねずみさし」は鼠刺しで枝条に刺針の多いことから。

43 ウツボグサ (シソ科) 夏枯草 花穂-利尿剤、淋疾うるき

しよろーな◎

じよろーな※◎

じよろさんばな 水津

すいすいばな※ 加茂 中興 分布; 滋賀 島根 和歌山 熊本

すいばな※◎ 分布; 新潟 長野 岡山 広島

ちちすいばな 加茂

(ノート): 「ウツボグサ」は花穂の形を矢をさす靱に見立ててもの。「うるき」は漢名、滁州夏枯草。和名、宇流木(ウルキ)。「しよろーな、じよろーな、じよろさんばな」はこの花の煎汁が淋疾に効ありと言われ遊女の薬とされたものか、「すいばな、ちちすいばな」は子供たちが花の蜜を吸ったことから。

44 ウバユリ、オオウバユリ (ユリ科)

はきだめかぶら 徳和

やまかぶら※◎ 高千 中興 大和田 分布; 新潟 石川 長野(ヤマカブ 山形(ヤマカブラ))

(ノート): 花時にすでに葉(歯)が枯死するので姥に譬えて「ウバユリ」という。「はきだめかぶら、やまかぶら」は幼茎の球根は大きく、カブラにたとえて、焼いて食べる。

45 ウマゴヤシ (マメ科) 苜蓿

おーかたばみ◎

かたばみ 水津

(ノート): ウマゴヤシは飼料として馬を肥やす意。「かたばみ」は葉の形がカタバミに似るところから。

46 ウマノアシガタ (キンボウゲ科) 毛茛

うまぜり※ 加茂 中興 大和田 分布; 群馬 兵庫

(ノート): 葉の形が馬の足形に似る意。

「うまぜり」は草形が芹に似て大形で馬の芹とする。

47 ウラシマソウ (サトイモ科) 虎掌

へびのたつ 平松

へびのでーはち 長き 中興 水津 赤泊 徳和

へびんでち 長江

(ノート): 「ウラシマソウ」は肉穂の先の細長い鞭状部を

浦島太郎の釣り糸の垂れた物に擬したもの。

「へびのたつ→蛇の龍」, 「へびので→はち, へびんでち→蛇の太八」は茎の模様や佛焰花の形から蛇を連想したもの。

48 ウリ (ウリ科) 瓜 果蒂-催吐剤, 種子-利尿剤  
あじうり※

(ノート): 「あじうり」は味瓜で甘い瓜。

49 ウリハダカエデ (カエデ科)

うりのき※ 水津 片野尾, 分布; 青森 秋田 群馬  
栃木 埼玉 石川 長野 兵庫 島根 徳島 長崎

ゆりのき※

(ノート): ウリハダカエデは樹皮の緑色の模様を瓜の実に皮に擬したもの。「うりのき」は瓜の木で「ゆりのき」はその転訛。

50 ウワバミソウ (イラクサ科) 赤車使者

うたうたいな※◎

しずくさ※□

しずくち※ ノート; シズクサの誤写であろうか

しずくな※◎ 分布; 岐阜 徳島

しずしずな※◎

みずな※ 高千 大和田 立野 新町 徳和, 分布; 長野 島根 山形 新潟 岐阜

みずぶき 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野 平松 下久知 水津 片野尾 赤泊 徳和 羽茂

みずぼーき◎ ノート; ミズボーキの(ボーキ)はミズブキのブキ(フキ)の訛語であろう

(ノート): 「うたうたいな」は美味なこの山菜はひと所に群生し, これを見つけると歌を唄いたくなる程の意か。「しずくさ, しずくち, しずしずな」は「しずくな」の転訛。シズクナは滴葉で切り口から液滴が出ることによるものか。「みずな, みずぶき, みずぼうき」はこの植物が水湿地に生えているから。

51 エゴノキ (エゴノキ科) 齊墩果

じしゃ※◎ 高千 片野尾 赤泊, 分布; 山形 千葉 新潟 石川 福井 岐阜

じしゃのき※□ 加茂 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野 長江 下久知 水津 高千 徳和,

分布; 岩手 山形 福島 新潟 佐賀 長崎 熊本

ちしゃのき※ 分布; 福井 岐阜 静岡 愛知 三重 滋賀 兵庫 奈良 和歌山 岡山 山口 香川 高知 佐賀 長崎 熊本

(ノート): 「エゴノキ」の語源はこの木の実の果皮にサポニンが多く含まれ, 口にすると蕨(えぐい)ところから。方言名は古名「チサノキ; 知佐木」の転訛。この木を正月の「メエダマ; 繭玉」を飾る木にする。

52 エゾエノキ (ニレ科)

くろえのき※ 分布; 大分

くろよのみ※

よのき\* 高千 沢根, 分布; 富山

よのみ※ 沢根 長木 中興 立野 下久知 水津 片野尾 畑野 新町 赤泊

よーのみ 吉井本郷

よのみのき 沢根

(ノート): 佐渡にはエノキとエゾエノキがある。前者は赤い実, 後者は黒熟した実をつける。エノキの語源は「枝の多い木」とか「小鳥の餌になる実をつける木」といわれる。エノキは一般にエノミ, エノミノキとよばれるがヨノミノキ等に転訛する。クロヨノミはエゾエノキを区別した呼び方である。

53 エゾミソハギ (ミソハギ科) 葉茎-収斂剤

はぎ 片野尾

ぼんばな\* 高千 大和田 吉井本郷 立野 平松 北小浦 下久知 水津 湊 畑野 赤泊, 分布; 新潟

みそはぎ\* 中興 大和田 立野 平松 水津 湊 新町 畑野, 分布; 新潟 京都

(ノート): ミソハギは襖萩(ミソギハギ)の転という。佐渡にはミソハギとエゾミソハギの二種がある。エゾは蝦夷で北海道を言う。この種は茎に毛があり葉は心形でやや茎を抱く。花は総状に茎の上部に集まる。方言の「ぼんばな」お盆に仏前に供える花の意。

54 エダマメ (マメ科)

あぜまめ\* 高千 沢根 立野 北小浦 下久知 水津 新町 畑野 赤泊, 分布; 新潟 富山 石川 山梨 長野 岐阜 静岡 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 山口 香川 愛媛 福岡 佐賀 熊本

まめ 中興

(ノート): エダマメは大豆の未熟の莢を採って実の豆を食べるものをいう。「あぜまめ」は水田畦畔に植えた大豆で, これを間引いて利用した。

55 エノキ (ニレ科)

あかよのみ※

えのみのき※ 大和田 畑野, 分布; 山形 八丈島 宮城 福井 長野 静岡 三重 鳥取 島根 岡山 広島 山口 愛媛 高知 福岡 長崎 熊本

よのき\* 加茂 二宮 高千 沢根, 分布; 新潟 富山 岐阜 福井 滋賀 三重 和歌山 兵庫 鳥取 島根 香川 愛媛

よのみ※ 高千 沢根 長木 中興 立野 北小浦 下久知 水津 片野尾 新町 徳和 羽茂, 分布; 山形 石川 福井 静岡 三重 滋賀 奈良 和歌山 山口 徳島 愛媛 大分

よーのみ 吉井本郷

よのみのき\* 加茂 沢根, 分布; 新潟 富山 石川 福井 長野 静岡 滋賀 三重 兵庫 奈良 和歌山 鳥取 島根 徳島 香川

(ノート): 「あかよのみ」は赤い実を着けるエノキを指す。

56 エノコログサ (イネ科)

いんのを※

たんちく◎

ねこじゃらし\* 高千 長木 分布;長野 茨城 群馬  
埼玉 東京 神奈川 熊本

(ノート): エノコロは子犬でその手触りからの名称。

「いんのお」は狗の尾である。「たんちく」は良く分らない、案ずるに、「たん」は丈の、「ちく」は丈の小さいの意か。稗、粟などに比べて草丈の低いことから「丈のチク」と名付けたものか。

57 エビズル (ブドウ科) 蓂蓂

いぬえび□

くろぶどう\*◎□ 分布;奥州 宮城

すいび※ 高千 中興 大和田 吉井本郷 水津 片野尾

すいぶ 高千

すいぶどー 長木

すえび□ 分布;新潟 富山

すび※ 二宮 沢根 立野

(ノート): エビズルは葡萄の古名。「いぬえび」は犬葡萄で葡萄の本物でない意。「くろぶどう」は実が黒熟することによる。「すいぶどう」は実の酸味から。「すいび」は「酸い実」の転訛。

58 エンレイソウ (ユリ科) 延齡草, 延年草

がぜつな※□

くろんぼー 徳和

さがりいちご※ 高千 立野 北小湊

さはいいちご※

ほうずき 片野尾

やまほーずき※ 吉井本郷 立野 下久知 羽茂

(ノート): 語源のエンレイソウはアイヌ語のエマウリがエムリ→エンレイと転訛したという説がある。

「がぜつな」はガゼツ菜でエンレイソウの根が東南アジア原産の芳香健胃剤の「莢蓂; ガジュツ」(ショウガ科)に似ているところから、「くろんぼ」は実の黒熟から、「さがりいちご」は下がり苺、「ほうずき」は実をホウズキに見立てたもの、「さはいいちご」はよく分らない、群生して沢山生えるところからか。

59 オウチ (センダン科) 棟, 樹皮一驅虫剤, 果実一疳痛

せんだん◎ 大和田 下久知

(ノート): 古名オウチの花は藤花に似て上向きに咲く故、仰藤(アフフジ)即ち仰向くの説、また京都の獄門にあるこの木に梟首するところから逢う血(アフチ)かとの説などがある。和名センダンは「梅檀は双葉より芳し」の梅檀(紫檀, 白檀)とは別物である。

「オウチ」は枝が広がるので「蔽う地」、また花色から「淡藤; アフフジ」の転訛。「センダン」は実が枝一面に着くので、大津三井寺の鬼子母神に供える千団子に擬したものなどの説がある。

60 オウバイ (モクセイ科) 迎春花

おーしゅくばい◎ 中興

(ノート): 中国原産。梅花に似る黄花。

「オウシュクバイ」は鶯宿梅で紅梅の銘花、オウバイとは別種、名前の誤用。

61 オオカメノキ (ムシカリ) (スイカズラ科)

おーば※ 吉井本郷

むしかり 長江

やまもち※◎

(ノート): 「オオカメノキ」の名は「大莢蓮の木」の莢蓮(ケイメイ)が「カメ」に転じ「オオカメノキ」になったとする説がある。「おおば」はガマズミ(莢蓮)に比べて葉が大きいことによる。「むしかり」はこの葉がよく虫に喰われるので「虫喰われ」だろうとする説がある。「ヤマモチ」は産物志に「賤民 春、葉ヲ採テ糧トス」とある。若葉を採って主食に混ぜて増量にしたものであろう。またこの葉は大形で餅や団子を包むのに用いたものでこの名になったのであろうか。

62 オオデマリ (スイカズラ科) 繡毬花

てまりばな\*◎ 中興 赤泊 分布;和歌山

(ノート): テマリバナはオオデマリの別名。

63 オオバコ (オオバコ科) 茅苳 車前 葉, 種子一眠病, 利水剤

いんびき※

おんばくろー※

おんばこ\*□ 高千 二宮 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野 長江 下久知 水津 片野尾 畑野 新町 羽茂 分布;北海道 群馬 埼玉 東京 愛知 長野 和歌山 大阪 鳥取 島根 山口 愛媛 福岡 長崎 熊本 大分 宮崎

すもーとりぐさ※◎ 高千 大和田 平松 赤泊,

分布;山形 群馬 千葉 静岡 奈良 岡山 香川 福岡 長崎

すもっとり※

すもとり※ 外海府, 分布;島根 山形 愛知

(ノート): オオバコは大葉子で「おんばこ」等はこの転訛。オオバコには殺したカエルを葉で包み花穂で叩くと生き返るという伝説があり、カエルッパという方言がある。「すもーとりぐさ」等は、相撲取りで花穂を互いに絡ませて引ぱり切れたほうが負けという子供の遊びによる。「いんびき」は犬糞で偽の蛙の意ではなかろうか。

64 オオマツヨイグサ (アカバナ科)

つきみそう\* 高千 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野 長江 平松 下久知 水津 片野尾 両津 新町 畑野 赤泊 徳和 羽茂 分布;岩手 福島 群馬 静岡 長野 新潟 和歌山

(ノート): オオマツヨイグサ(大待つ宵草)を一般にツキミソウ(月見草)と呼んでいる。和名のツキミソウは別種

である。

65 オキナグサ (キンボウゲ科)

せかいそー※ 分布; 京都

ぜがいそー◎□ 分布; 京都 長野 山口 福岡

ちんじ (古) ※ 分布; 岩手 長野 福岡

(ノート): 「ぜがいそー」(善界草) は能舞の善界を演ずるとき被る白熊(はくま)の鬚の形にオキナグサのほうけた花を見立てたものか。「ちんじ」はオキナグサの白頭の形が稚児の頭に似るところから「ちごばな」の名がある、この稚児(ちじ)が転訛して「ちんじ」になったものか。

66 オシダ (オシダ科) 貫衆, 根茎-条虫駆除薬

きじのお□

(ノート): 「きじのお」は別種で誤用である。

67 オトギリソウ (オトギリソウ科) 小連翹 葉茎-傷薬

おとぎりす※ 分布; 山形 東京 奈良 和歌山 新潟  
島根 宮崎 三重

おとぎりそー\*□ 分布; 山形 島根 岡山 鹿児島

ちちすいばな※ 高千 下久知, ノート; オドリコソウの誤植か

(ノート): 「オトギリソウ」は弟切草である。昔、鷹飼いの名人がこの草が鷹の傷を治す秘薬としていたのを、弟が他人に洩らしたので怒って切り殺したことによるという。「ちちすいばな」はオドリコソウの方言で、オトギリソウはその錯誤と思はれる。

68 オトコエシ (オミナエシ科) 敗醬, 根-利尿剤, 駆瘀血

おーづちな\*◎ 分布; 茨城 (おーつち)

(ノート): オトコヘシはオミナヘシと共に漢名敗醬という。この両者は臭気があり醬(ヒシオ)にあてたものであろう。そして敗醬(ハイショウ)が転訛して「ヘシ」になり、白花は「オトコヘシ」に、黄花のものは「オミナヘシ」となったといわれる。

「おおづちな」は、古名の於保都知, 知女久佐(血眼草)で赤目膜障を治すという。

69 オドリコソウ (シソ科) 続断, 根-瘡瘍, 花-浄血剤

うばがち※

ちすいばな※

ちちすいばな※ 赤泊 羽茂

ちちばな\* 長木 徳和, 分布; 青森

(ノート): 白色の唇形花が茎節に輪生する様が踊り子の踊る様を思わせ、オドリコソウの名になったといわれる。この花には蜜があり子供たちは好んでこれを吸ったものである。「うばがち」は乳母が乳。「ちちすいばな」は乳吸い花である。

70 オニグルミ (クルミ科) 小胡桃, 果肉-強壮剤, 果皮-

染料

くるみ◎ 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野

長江 平松 北小浦 下久知 片野尾 畑野 新町 羽茂, 分布; 青森 岩手 宮城 山口

(ノート): 山野の澤沿いに生えるオニグルミは単に「くるみ」という。

71 オニドコロ (ヤマノイモ科) 解毒, 根-風湿, 諸瘡

かんどころ※◎

ところ\* 高千 沢根, 分布; 秋田 山形 福島 新潟  
和歌山 鹿児島

やまいも 北小浦

(ノート): 「トコロ」はトクル, トロクの転という。

正月の蓬葉飾りの三方の盤に「米, 熨斗鮑, 勝栗, 昆布, 野老, 馬尾藻, その他」を盛り付けた。

「かんどころ」は「燗どころ」である。「やまいも」は「じねんじょ」と同一視しているものか。

72 オニフスベ (ホコリタケ科) 馬勃, 菌体-止血剤

うまのくそたけ (古)

うまのほこりたけ (古)

ぢほこり□

ほこりたけ (古) 長木 羽茂

むじなのたばこ 徳和

やぶたまご

(ノート): 内部ははじめ白色で食用になる。のち乾いて古綿のようになり、叩くと胞子が埃になって出る。「ぢほこり」は地埃。「むじなのたばこ」は胞子の飛散を煙に見立てたもの。「やぶたまご」は古名「やぶだま」の転か。

73 オニユリ (ユリ科) 鱗茎-利尿剤, 乳房の腫れ

やまゆり\* 水津, 分布; 青森 静岡

ゆり\* 高千 沢根 長木 中興 吉井本郷 立野 長江  
北小浦 下久知 新町 畑野 羽茂, 分布; 青森 岩手 新潟 島根

(ノート): 従来、観賞用または食用球根を採取するため栽培されたが逸出し野生化したものがある。

74 オノエヤナギ (ヤナギ科) 樹皮-解熱剤

いやなぎ※

ひられやなぎ※

(ノート): ヤナギの語源は魚を捕る梁木に使用したことによると言われる。方言「いやなぎ」は「斎やなぎ」で木幣などを作る原材料にしたもので、神聖な、清浄なヤナギの意であろうか。「ひられやなぎ」は「ヒダレ柳」の転訛で、冬季枝から垂れ下がる氷垂れによるものか、または「シダレ柳」が転訛して「ひだれ→ひられ」となったものか。

75 オミナエシ (オミナエシ科) 敗醬, 女郎花, 根-利尿剤, 駆瘀血

おみなめし\*◎ 分布; 兵庫 岡山 福岡 佐賀 熊本

ちとめくさ※□ 立野

(ノート): 「おみなめし」はオミナエシの転。「ちとめくさ」はこの草を採んで傷口に当て止血に用いたものか。



76 オモダカ (サジオモダカ) (オモダカ科) 沢瀉, 球茎－利尿剤

くちあけ※

くちさけ※ 羽茂 分布; 伊豆

くわらつ※ 長木

ななとーぐさ※◎□

(ノート): オモダカは葉の形から「面高」とした。

「ななとーぐさ」は枝の輪生する花茎を「七重の塔」に見立てたものか。「くわらつ」はこの葉の形を鍛と柄(だつ)に見立てたもの。「くちあけ, くちさけ」は葉の形を顔に見立て、葉脚の二片を、口を開けた、または裂けた状態に見立てたものか。

77 オランダイチゴ (バラ科)

かんいちご 大和田

せーよーえちご※ 沢根 中興

ままっこえちご※ 分布; 岩手

(ノート): 「かんいちご」は漢イチゴ, 「せーよういちご」は西洋イチゴである。「ままっこえちご」は幼児語で「飯(ママ)っこイチゴ」であろう。

78 カエデ (カエデ科) 楓, 機, 雞冠木, 雞頭樹, 野雞楓

はなのき※ 中興 大和田 立野 北小浦 分布; 青森 岩手 秋田 山形 群馬 新潟 富山 岐阜

もみじ 沢根

(ノート): カエデは葉の形が蛙の手に似るところからカエルデ→カエデの転であるといわれる。モミジはカエデの葉の紅葉が美しいので色を採み出したということでモミジであるという。「はなのき」はカエデ科の一種であるが佐渡には自生していない。ところが佐渡では山野のカエデを総て「はなのき」と呼ぶ。

79 ガガイモ (ガガイモ科) 蘿摩, 種子－強壯剤

がんがらべ※ 外海府 分布; 新潟 (がんがらび)

ところ※ 沢根 中興 立野 北小浦 水津 片野尾 羽茂 分布; 山口

はんや※◎ 中興 分布; (ばんや) 長野 東京 三重 むじなのち (古) ※

(ノート): 古名カガミ 耀美

「がんがらべ」は裂開した果のガラガラとした感じから、この莢には縫い針をいれて仕舞った。「ところ」は蔓の茎葉がトコロに似るところから。「ばんや」は 果には種子に着いた綿毛があり、熱帯産のパンヤに似ており和のパンヤという。「むじなのち」は茎を切ると白い乳汁が出る、これを猪の乳に見立てたもの。

80 カキ (カキ科) 柿, 莢片－吃逆の薬

だらり※ 沢根 二宮 中興 大和田 立野 北小浦 水津 片野尾 畑野 新町

(ノート): 「だらり」は柿の一品種。かつての農家の庭には「栗の江, 真光寺だらり, 蜂屋, 弁当がき, きざわし, メメがき」等の柿の木が植えられていた。今はこれらの木は

伐採され、八珍(平種無し)が経済栽培されている。

81 カキドオシ (シソ科) 積雪草 胡薄荷, 葉茎－強壯剤, 小児の疳取り

かいねぐさ (古) ※

かいねだわら※□ 分布; 奥州 (かいねだばら)

(ノート): 「かいねぐさ」は垣根草, 「かいねだわら」は良く分らないが垣根をめぐる意か。「だわら」は「たはる」の転。

82 カシワ (ブナ科) 榎, 樹皮－痢疾の止瀉剤, 種子－収斂剤

かしやぎ※ 高千 羽茂 分布; 山形

かしやぎ※

かしわぎ※ 北小浦, 分布; 青森 岩手 広島

けいば 中興

ならのき 立野 北小浦 下久知 水津 新町 畑野

(ノート): カシワは炊ぐ葉(カシワバ)でこの木の葉で餅や団子を包むことによる。「かしやぎ, かしやぎ, かしわぎ」はカシワの転訛。「けいば」は替え葉で、この木の古葉は新芽の葉が出てから落葉するところから目出度い木とされる。「ならのき」は榎の木である。

83 カゼクサ (イネ科)

みちしば※ 沢根, 分布; 山形 千葉 神奈川 新潟 長野 鳥取 山口

(ノート): 「みちしば」は道芝で農道などの踏みつけに生える。

84 カタクリ (ユリ科) 山慈姑, 根－澱粉, 粘滑飲料

かたこ※ 高千 水津, 分布; 石川 福井 京都 岩手 秋田 山形 新潟

かたばな※◎ 新潟 (かたはな)

ぶんだいゆり※ 東京

(ノート): 「かたこ, かたばな」は一輪の花が一方に傾いて咲くところから。「ぶんだいゆり」は文台ユリで、カタクリの短小な姿を文台に譬えたものか。

85 カタバミ (カタバミ科) 酢漿草, 酸漿草, 葉茎－諸瘡の薬

すすめげさ※

すすめぐさ※□ 分布; 新潟 富山 長野 兵庫 山形 静岡

すすめのあいきょー※

すすめのちょーちん※

すすめのはかま※ 外海府 豊田 大和田 加茂,

分布; 宮城 山形 福島 新潟 青森 秋田 岩手

ちんちんもぐさ※□ 二宮

ちんちんもげき※

みっば※ 中興 立野 下久知 片野尾 新町, 分布; 北海道 岩手 静岡 新潟 島根 大分 鹿児島

(ノート): カタバミの語源には、酸っぱくて辛うじて食べ

られる(傍食み)と言う意と、葉の形が切れ込んで欠けているという意とがあると言う。「すずめぐさ、すずめげさ」は雀草。「すずめのあいきょう」は雀の愛嬌。「すずめのちょうちん」は雀の提灯、実のかたちを見立てたものか。「すずめのはかま」は雀の袴で小葉の形を袴に見立てたもの。「ちんちんもぐさ、ちんちんもげき」はチンチン艾で幼児語であろう。「みっば」は三つ葉であろうか。

86 カナムグラ(クワ科) 蓴草、花-苦味健胃剤

すいじんのて※

すいじんのら※ ノート: 'ラ' は 'テ' の誤植か?

(ノート): カナムグラは鉄ムグラで茂れる丈夫な茎の蓴草の意。「すいじんのて、すいじんのら」は五裂する葉の形を人の手に見立て、また別名を「やえむぐら」といい詩に読まれ「粋人の手」と云ったものか。

87 カブ(アブラナ科) 蕪菁、全草-食料

かぶな※◎ 分布: 東国 新潟 広島 山口 福岡 長崎 大分 宮崎

かぶら\* 高千 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野 長江 平松 北小浦 下久知 水津 片野尾 畑野 新町 新穂 赤泊 羽茂 徳和 分布: 大阪 三重 岡山 愛媛 福岡

(ノート): 「かぶ、かぶな、かぶらな、かぶら」  
“カブ”は株から, “ナ”は菜, “ラ”は接尾語で特に意味はない。

88 カボチャ(ウリ科) 南瓜、種子-条虫駆除剤

とーがんうり※◎

ぼーふら\*◎ 分布: 江戸 西国 兵庫 鳥取 島根 広島 山口 徳島 香川 高知 岡山

(ノート): 「かぼちゃ」は渡来先のカンボジア国から。「ぼうふら」はポルトガル語のウリ科植物。「とうがんうり」は冬瓜で別種の誤用。

89 ガマズミ(スイカズラ科) 莢蒾

あかまんま 長木

がねずみ 加茂

がますいび※ 中興

がますいび※ 加茂 羽茂

がますいぶ 徳和

がますび 二宮

がますみ※ 沢根 中興 大和田 吉井本郷 長江 平松 下久知 新町 畑野

がますめ 沢根

がまんずいぶ 片野尾

(ノート): 「ガマズミ」は漢名の莢蒾がケイメイ→ケメ→ガメ→ガマに転訛しそれにズミ(酸実)がついてガマズミになったと言われる。「あかまんま」は赤く熟した実を赤飯に見立てたもの。「がねずみ」はガマズミとガネバラ(サルトリイバラ)の混成語。他はガマズミの転訛。

90 カマツカ(バラ科)

うしころし 片野尾

うしころし\* 外海府 高千 長木 大和田 立野 北小浦 徳和 羽茂 分布: 埼玉 愛媛 高知 長野 静岡 岐阜

うしころし 吉井本郷

ねんば※ 外海府

(ノート): カマツカの枝は強靱で鎌の柄にする。また、牛の鼻環にするので「うしころし」の名がある。「ねんば」は捻木の葉の意、嫩葉を糴飯に用いた。

91 カヤ(イチイ科) 榧、種子-駆虫剤

かや 沢根 中興 大和田 吉井本郷 立野 長江 平松 北小浦 下久知 水津 片野尾 畑野 赤泊 羽茂 徳和

しば※

(ノート): カヤの葉を燻して蚊遣りにしたのでカヤと言うと云われる。「しば」は芝で茅(カヤ)の錯誤による誤植。

92 カヤツリグサ(カヤツリグサ科)

かんざしばな※ 新町

(ノート): カヤツリグサは茎を切り両端より引き裂くと四角になるので蚊や吊り草と云ったという。「かんざしばな」は花穂を簪に見立てたもの。

93 カラスノエンドウ(マメ科) 野豌豆、翹搖、苞蒾

いしえんどー※ 中興

えんどー 片野尾

しーびー 長木

つるひろえんどー

のえんどー\*◎ 分布: 岡山

へびえんどー 吉井本郷

(ノート): 種子が黒いので“カラス野豌豆”か。

食べられない野豌豆に“石、蔓、蛇、”などの冠詞を付けたもの。「しーびー」は良く分らないが、子供たちの遊びに、この実の若い莢の先を切り落とし中の種子を出して、切り口を咥えて吹き、笛を作って遊ぶときの名前だろうか。

94 カラスビシャク(ハンゲ)(サトイモ科) 半夏、球根-

鎮嘔、鎮咳剤

つぐろえ(古)※

つぶろこ※◎□

はんげ\* 中興 分布: 島根 広島 山口 岡山 京都 新潟 青森

ほそくみ□

(ノート): カラスビシャクは烏柄杓で佛焰花の形からという。「はんげ」は漢名半夏、半夏の頃に咲くからという。「ほそくみ」(古名) 保曾久美で細汲みかという、柄杓の細い形からか。「つぶろこ」は地下の球根や葉柄の珠芽を指して云う。「つぐろえ」はツグロ柄でフグロ柄の転か、葉柄

に着いている珠芽をふぐり（陰莖）に見立てたものか。

95 カラスムギ（イネ科）燕麦，雀麦，栄養料

しほこ※□

じねご※◎ 中興 片野尾 羽茂， 分布；石川 徳島  
愛媛 福岡 長崎 大分

（ノート）：「しほこ」は穂は円錐花序をなし長い枝があるので枝穂子であろうか。「じねご」は実が脱落し易く，実生を生じやすく自然子か。

96 カラムシ（イラクサ科）芋麻

かなびき 外海府 中興

やまそ（古）※◎□ 高千 沢根 長木 羽茂， 分布；  
新潟 富山 福井 滋賀

（ノート）：カラムシは麻糸を採るとき柄（枝）を蒸すことによる。「かなびき」はカナ引きでカナ即ち糸を採る物の意。

97 カリヤス（イネ科）蒴苳，青茅，全草－染料

やまわら※

（ノート）：佐渡に自生の記録がない。「カリヤス」はこの草の茎が刈りやすいことから。「やまわら」は山薬である。

98 カリン（バラ科）榲桲，果実－健胃剤

あんちく※

あんらく 加茂 長木 中興 大和田 徳和

（ノート）：「カリン」は木理がくわりん（花欄）に似ることによる。「あんらく」（菴羅果）は神社の庭に植えられて「あんらん樹」と云われるところから。「あんちく」はアンラクの転訛。

99 カワヤナギ（ヤナギ科）水楊，樹皮－解熱剤

いやなぎ※

やすもと※

（ノート）：「いやなぎ」は堰柳，川の流れを堰きとめる柳の意か。「やすもと」は良く分らない，箬もと，枝で川魚を突いたり，捕った魚を枝に挿したりすることによるか。

100 カワラナデシコ（ナデシコ科）瞿麦，石竹，種子－通経利尿剤

ところてんばな※ 高千

なでしこ※ 水津 片野尾， 分布；青森 山形 島根  
熊本

（ノート）：「なでしこ」は撫子，可憐な花容による。「ところてんばな」は子供の遊びに，この花を採り藨筒をつまんでしごとと花卉がトコロテンのように押し出されるところから，と言う。

101 カワラニンジン（ノニンジン）（キク科）青蒿，茵陳蒿，葉茎－発汗剤，香料

かわらよもぎ※◎□ 中興

（ノート）：佐渡に自生の記録がない。「かわらよもぎ」別

種カワラヨモギは川岸の砂地や海浜にはえ，葉は細裂，白毛を着ける。ハマウツボが寄生する。

102 カワラハハコ（キク科）白蒿

しろよもぎ※ 羽茂， 分布；青森

（ノート）：川辺の砂地に生育，植物体は絨毛や白毛を着け白色。

103 カワラマツバ（アカネ科）牛尾蒿

ひいなのおぶら

（ノート）：「ひいなのおぶら」は雛のおばら（肋骨）の転訛，植物の姿から。

104 カンアオイ（ウマノスズクサ科）杜衡，根－吐剤

ちょーじゃのかま（古）※ 分布；新潟

ぶんぶくちゃがま※ 吉井本郷 羽茂，分布；山形 新潟  
福岡

（ノート）：「ちょうじゃのかま」長者の釜，「ぶんぶくちゃがま」文福茶釜は花の形からの見立て。

105 カンボク（スイカズラ科）肝木

おがたまのき◎

（ノート）：カンボク（肝木）その意不明，材は楊枝を作る。モクレン科に同名の植物がある。「おがたまのき」は招霊の木，神前に捧げる。

106 キイチゴ（バラ科）懸鉤子

いばらのみ 羽茂

さがりいちご※□ 外海府 高千 大和田 立野 北小  
浦， 分布；兵庫 山口 愛媛 埼玉 鳥取 島根 高  
知 大分

（ノート）：「いばらのみ」は茨の実，「さがりいちご」は下がり莓で実が枝から垂れ下がるさまによる。

107 キカラスウリ（ウリ科）括蕒，根－解熱，止渴，鎮咳

剤，澱粉－天花粉，湿疹，種子（瓜呂仁）－喘咳，胸痛  
からすうり※ 長木， 分布；青森 岩手 秋田 山形  
宮城 新潟 山口

からすのきんたま 吉井本郷

からすびな※

（ノート）：キカラスウリは実が黄熟するもの。「からすうり」烏瓜，「からすのきんたま」烏のキンタマ，「からすびな」烏雛など，カラスは「烏が好んで食べる，種子が黒い」からという説があるが，この植物に対する蔑称であろうといわれる。

108 キクザキイチゲ（キンポウゲ科）菟葵

たねつけばな※ 吉井本郷 高千

（ノート）：キクザキイチゲは“菊咲き一華”である。「たねつけばな」はこの植物が田植えの頃に咲くことによるものか。また春野菜の蒔き時と重なることによる。

109 キササゲ (ノウゼンカズラ科) 榎, 梓, 楸, 果実-腎臓病, 利尿剤

あかめかしわ◎ 両津

あずさ\*◎ 分布; 岡山

かみなりささげ※ 中興, 分布; 新潟 佐賀 岩手 千葉 石川 和歌山

きささぎ\* 水津, 分布; 山形

(ノート): キササゲは木ササゲ, 実莢がササゲ(豇豆)に似る。漢名梓にはキササゲとアカメカシワの両説がある。「あかめかしわ」は葉形が似ているところから。「あずさ」(カバノキ科)は梓で誤用。「かみなりささげ」は中国の伝説の, この木を庭に植えると雷が落ちないという故事による。「きささぎ」はキササゲの訛語。

110 ギシギシ (タデ科) 羊蹄, 根-止瀉剤

うしずいか※ 高千 大和田 吉井本郷 立野 北小浦

うしずいこー 徳和

うまずいか※ 加茂 中興

ぎじぎじ 片野尾

きりきりな※

ぎりぎりな※

げじげじ※ 畑野, 分布; 島根 山口

へびすいこ※ 羽茂, 分布; 長野

へびのだいおー※ 二宮

(ノート): ギシギシは古い京都方言で意味不明といわれているが, 幼児の遊びに, この植物の地際の芽を切り取って, 芽を覆っている薄膜(葉鞘)の袋を採って息を吹き込んで膨らませ歯でかんでギシギシという音を出して楽しんだことによるものか。ギシギシはスイバに似て大形である。それ故に牛, 馬が名付けられる。蛇は食べられないスイバの意。「ぎじぎじ, げじげじ」はいやな雑草の意。「へびのだいおう」はダイオウ(薬草)の偽物の意。「きりきりな, ぎりぎりな」はこの若芽を摘んで食べるが, 沢山食べ過ぎると下痢すると言う意か。

111 キツタ (ウコギ科) 常春藤

つた\* 長木 大和田 吉井本郷 立野 長江 下久知 水津 片野尾 徳和, 分布; 青森 埼玉 新潟 島根 愛媛 熊本

(ノート): キズタは木蔦で常緑である。

112 キツネノボタン (キンボウゲ科)

うまぜり※ 大和田, 分布; 秋田 山形 長野 福岡 大分

(ノート): 「うまぜり」は「セリ」に比べて大形で食用にならないことによる。

113 キノコ類

みみ 外海府 加茂 金泉 二宮 高千 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野 長江 平松 北小浦 下久知 水津 片野尾 湊 畑野 新町 赤泊 徳和 羽茂

(ノート): 佐渡ではキノコをミミとよぶ。

114 キハダ (ミカン科) 黄蘗, 樹皮-収斂剤, 打撲傷外用  
きわら※ 沢根 大和田 下久知

しこのへ(古)\*◎ 果実名, 分布; 岩手 東京 青森 秋田

しころのき\* 分布; 北海道 青森 岩手 秋田 山形 滋賀

(ノート): 「きわら」はキハダの転訛。「しこのへ」は四国米(薬店名)の訛という。「しころのき」はキハダのアイヌ語起源説でシケレベニ→シコノヘイ→シコロと変化したものと言う。

115 ギボウシ (ユリ科) 紫菀, 玉簪花

あまんぜー※ 新聞

いろうな(古)\*◎

きしきし※ 吉井本郷

きんぼーし

ぎしぎし 赤泊

ぎほき※

ぎぼき※

ぎぼし\* 水津, 分布; 和歌山 山口

ぎりめき◎

ぎりりす※

ばめき※

めんば※ 高千 長木 羽茂

(ノート): ギボウシは擬宝珠(欄干の飾り), また葱宝珠, 葱坊主などの説がある。別名に「とくだま」がある。これは「榎を買いて珠を返す」の古言による。綺麗な箱(榎)に珠を入れて売ろうとしたが, その見事な箱(榎)だけを買って中に入れた珠を返したということで, この植物は花はあまり美しくなくて葉が綺麗だという意。また「うるい」の名がある, 葉の表情が瓜の皮に似ることからと言う。「あまんぜい」は甘い菜, 「いろうな」は医王菜(薬師菜)の意, 「きしきし, ぎしぎし」は沢山の縦脈のある葉の様子からの表現。「きんぼうし, ぎほき, ぎぼき, ぎぼし」はギボウシの転訛。「めんば」はこの葉に目鼻を開けて面を作って遊ぶことから。「ぎりめき, ぎりりす, ばめき」は良く分らない。

116 キュウリグサ (ムラサキ科) 鵝腸草

かわらけな※ 分布; 和歌山

なぞな※

(ノート): キュウリグサは葉を揉むと胡瓜の匂いがする。別名タビラコと言うが, このタビラコには「カワラケナーホトケノザ(コオニタビラコ)(キク科)」と「キュウリグサ(ムラサキ科)」があり混同している。「かわらけな」は川柳の「行灯にペンペン草の影は藤」すなわち行灯にペンペン草を吊るせば夏になって虫が寄りつかないという迷信である。この行灯の火皿はカワラケで行灯そのものを意味しカワラケが草の名に転訛したものか。しかしペンペン草はカワラケナではない。「なぞな」はナズナ(ペンペン草)

サ)の転訛。キウウリグサ、かわらけな、なぞなに錯誤があると思はれる。

117 ギョウジャニンニク(ユリ科) 茗葱, 野葱 根-腺病  
質患者に用う

あいばかま※◎ 分布; 北国

こびえにんにく□

(ノート): ギョウジャニンニクはニンニク(大蒜)に比べて臭気が弱く、修行中の行者が食べても良いという意。「あいばかま」は二枚の葉をもつ湾曲した鱗茎が淡褐色の網状の繊維の袴で包まれていることによる。「こびえにんにく」は小比叡ニンニクで叡山ニンニクなどを真似たものの。

118 キランソウ(シソ科) 鬼蘭草

じごくのかまのふた\* 長木 羽茂, 分布; 和歌山

ほたるそう\*◎ 分布; 伊豆, 八丈島(ほたるそう)

(ノート): 「じごくのかまのふた」は枝を四方に広げ地面を蔽う様を地獄の釜の蓋に譬えたもの。「ほたるそう」は蛍草で紫色の小花を蛍に見立てたものか。

119 キリノキ(ゴマノハグサ科)

きんのき 高千

(ノート): 「きんのき」はキリノキの撥音便。

120 キリンソウ(ベンケイソウ科) 麒麟草, 葉-腫瘍に貼付

じぞうのみみ◎

(ノート): 「ハハコグサ」を佛耳草というが、「じぞうのみみ」はキリンソウであると思われる。

121 クガイソウ(ゴマノハグサ科) 威靈仙, 小鷹尾草, 根-痛風薬, 利尿剤

かつへしそー◎

やまつつじ※◎ 中興 立野 片野尾

やまつつみ※

(ノート): クガイソウは九蓋草で輪生する葉が傘状に幾重にも重なることから。「かつへしそ」は渴えし草で、瘡渴(ショウカチ; のどが渇き尿の出ない病気)を治す薬効による。[やまつつじ, やまつつみ]は紫色の花穂が綺麗なのでツツジに見立てたものか。

122 クコ(ナス科) 枸杞, 果実, 葉-強壮剤, 根皮-解熱剤

ねずみさし※ 中興 立野 北小浦 片野尾 湊 畑野

(ノート): 若葉を食うので喰う木でクコであるという。

「ねずみさし」は枝に刺針が着いているので。

123 クサギ(クマツヅラ科) 臭梧桐

くさぎ\* 中興 大和田 徳和, 分布; 新潟 栃木 埼玉 千葉 神奈川 山梨 静岡 愛知 岐阜 香川 福岡 鹿児島

と一のき※ 大倉, 分布; 宮城 福島 伊豆八丈島 長

野 青森 秋田 茨城 埼玉 神奈川 富山 福井 山梨

ふ一のき 片野尾

(ノート): 「くさぎ」はこの木の葉に特有の臭気がある。

「とうのき」は桐の木で葉や材質が桐に似ることから。臭桐の名がある。「ふうのき」はホウノキでこれも軟らかい材質の似ることから。

124 クサスギカズラ(ユリ科)

せんぼんすぎ 二宮

(ノート): 「せんぼんすぎ」は千本杉, 杉葉のようにして細い葉が沢山あることによる。

125 クサニワトコ(スイカズラ科) 蒴藋, 葉-腫瘍

そくず

そくぞ◎

(ノート): 「そくず, そくぞ」は蒴藋(サクダク)がソクズに転訛したとする。他に「くさたず」の名もある。

126 クサネム(マメ科) 沙苑蒺藜

あきほこり\* 中興 大和田, 分布; 新潟

(ノート): 「クサネム」は水田にも生える雑草で、秋イネなどが倒伏してもこの草は「生い茂る」ので「あきほこり」という。稲と一緒に刈り取るとクサネムの種子が玄米に混入する。

127 クサボタン(キンボウゲ科)

もざえむな◎

(ノート): 「もざえむな」をクサボタンにあてる。しかしその意はわからない。

128 クヌギ(ブナ科) 橡, 樹皮-瘡質の止瀉剤

くぬぎ\* 水津, 分布; 宮城 香川 愛媛

どーぐり 片野尾

どんぐり\* 高千 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷

立野 北小浦 下久知 湊 畑野 新町 赤泊 羽茂, 分布; 秋田 大阪 島根 岡山 愛媛 福岡 長崎 大分

(ノート): 「クヌギ」は薪の木, 食の木, 木の木, 国の木などからという。「どんぐり」は鈍栗, 食べられない栗の意。「どうぐり」はドングリの転訛。

129 クマノミズキ(ミズキ科)

かたし※ 大和田 北小浦, 分布; 群馬

(ノート): 「かたし」の名は, 材を薪に割るとき真っ直ぐに割れないで片われしやすいからという。

130 クマヤナギ(クロウメモドキ科)

ととら※◎ 加茂 大和田

ととらふじ 高千

(ノート): 古名 久万豆豆良(クマツヅラ)のツヅラ→トラの転訛か。クマヤナギ(熊柳)は別名クロガネカヅラ,

熊葛、山藤、勝弦などがある。佐渡ではこの木でナンバ(かんじき)を作る。

131 クララ (マメ科) 苦参, 根-解熱剤

うじころし※ 中興 大和田 立野 水津 片野尾 赤泊 分布; 山形 新潟 群馬 長野

くらら※

せんぶり※□ 中興 立野 北小浦 下久知 畑野 新町 まとりぐさ※

(ノート): 古名 末比利久佐, 末止利久佐

根の煎汁は苦くて、口にすると眼が眩むほどでクララと云われる。「うじころし」はこの草を便所のウジ殺しに使った。「せんぶり」はセンブリ同様薬用にした。

「まとりぐさ」は真鳥草で大きな複葉の葉が翼を広げたワシ(真鳥)の姿を連想するところから。またこの植物の莢は大きくて中の豆が膨らんでいることから実採り草→マトリグサとなったものか。

132 クルミ (クルミ科) 胡桃, 果肉-強壯剤, 果皮-染料  
くるび 水津 徳和

こーくり※ 加茂

こーくるび※ 沢根 中興 大和田 北小浦

こくろび 片野尾

(ノート): 中国より渡来 呉桃子という、呉実(クレミ)→クルミの転か。「こくくり、こくくるび、こくろび」は核果が皮を被っているんで皮栗(カワクリ)→コウクリの転訛か。

133 クロウメモドキ (クロウメモドキ科) 鼠李, 果実-下剤

しめっぱり※

(ノート): 「しめっぱり」は甕にくべてもなかなか燃えにくい木から湿っぱりというか。

134 クログワイ (カヤツリグサ科) 薊薊, 根- (烏芋) 黄疸出血

いのみ (塊根) ◎ 中興 大和田 吉井本郷

(ノート): 「いのみ」は薊の実でクログワイの塊茎である。夏の水田の草取りにクログワイの小さな塊茎を採り苗圃に入れて持ち帰り食べた。粉質でほんのり甘い味がした。

135 クロマツ (マツ科)

おとこまつ 長木

おにまつ※ 中興 吉井本郷 羽茂

おまつ 新町

しろまつ 中興

しろみどり※ 大和田

(ノート): 「おとこまつ, おにまつ, おまつ」はアカマツの「めまつ」に対していう。「しろまつ, しろみどり」はクロマツの芽が白い毛に包まれているところから。

136 クロモジ (クスノキ科) 枸樟, 根-香料

くろもじ※ 水津 分布; 新潟 富山 埼玉 愛知 三重 奈良 大阪 熊本

くろもんじ※ 沢根 長木, 分布; 山形 新潟 富山 千葉 埼玉 東京 山梨 静岡 愛知 岐阜 三重 兵庫

くろもんじゃ※ 加茂 高千 沢根 中興 大和田 吉井本郷 立野 長江 平松 北小浦 畑野 赤泊 徳和 羽茂 分布; 新潟 神奈川 山梨 静岡 愛知 高知 愛媛

じしゃのき※ 中興 下久知 片野尾

(ノート): 「くろもじ, くろもんじ, くろもんじゃ」は樹皮に黒い模様があることによる。「じしゃのき」は本来エゴノキの方言。

137 ケイトウ (ヒユ科) 鶏冠花, 花-痔薬

きーとん 片野尾

けーとーげ※◎□

けーとぎ※ 平松 赤泊 徳和 羽茂, 分布; 山形 福島 栃木 千葉 岐阜 京都

けーとん※ 下久知 水津, 分布; 静岡

けーとんぎ 北小浦

けーとんじ※ 長木 中興 大和田

けとんげ 両津

けとんじ※ 加茂 二宮 中興 吉井本郷 立野 長江

(ノート): これらの方言は鶏頭花(ケイトウゲ)の転訛。

138 ケシ (ケシ科) 罌粟, 米袋花, 種子-止瀉剤

けしのみ※ 下久知 片野尾 新町

(ノート): 「けしのみ」はケシの実。

139 ケヤキ (ニレ科) 榲

きやき※ 高千 沢根 中興 吉井本郷 立野 水津 片野尾 羽茂 分布; 富山 岐阜 静岡 福井 和歌山

(ノート): 「きやき」はケヤキの訛り。

140 ゲンノショウコ (フウロウソウ科) 牛扁草, 現の証拠, 葉茎-止瀉剤

こーぼーぐさ※ 分布; 新潟

せきりばな※ 分布; 新潟

(ノート): 「こーぼーぐさ」は弘法草, 「せきりばな」は赤痢花。ゲンノショウコは民間薬として下痢止めに薬効があるといわれ、弘法大師に教えられたと言う伝説による。

141 ケンボナシ (クロウメモドキ科) 枳根, 果実-利尿剤

けんぶんなし※ 羽茂, 分布; 静岡

けんばなし※ 沢根 中興, 分布; 新潟 群馬 奈良 三重 徳島 高知 香川

てんばなし※ 長木 中興 大和田 吉井本郷 水津 片野尾 赤泊 徳和, 分布; 山形 島根 広島 高知 大分 宮崎

(ノート)：方言はケンボナシの転訛。多肉の果柄を食べる。

142 コウゾリナ (キク科) 毛蓮菜, 毛蓮薺

かやむぐり※□ 加茂 二宮 高千 沢根 長木 中興  
大和田 吉井本郷 立野 長江 北小浦 赤泊 徳和  
羽茂

かやもり※

やぶぐるま

やむぐり

(ノート)：「コウゾリナ」は髪剃り菜, 茎葉に剛毛がありざらざらしていることによる。「かやむぐり, かやもり, やぶぐるま, やむぐり」は早春これを山菜として採取するが, ススキ (カヤ) の枯れ野にいち早く芽生えてくることによる。

143 コウヤマキ (コウヤマキ科) 高野槇

こーやまつ※ 沢根 中興 下久知, 分布; 広島 岐阜

(ノート)：高野松である。高野山に日生する松の意。

144 コクサギ (ミカン科) 和常山, 恒山, 根一臍下の動悸の葉

くさぎ※◎ 高千 中興 羽茂, 分布; 静岡

(ノート)：茎葉に異臭があり「くさぎ」という。

145 コシアブラ (ウコギ科) 金漆樹

おしょのき※

(ノート)：樹液を塗料にした。漉して用いるので「漉し油」という。また主として北陸地方で生産されたので「越し油」であろうという説がある。「おしょのき」は“うしのき”の転。牛がこの葉を好んで食べることによる。

146 コデマリ (バラ科) 麻繡毯

すずかけ◎ 下久知

(ノート)：「すずかけ」は篠懸け (鈴掛け), 修験者の衣服の上に覆う衣の襟の円い飾りに見立てる。

147 コナギ (ミズアオイ科)

つばきくさ※ 中興

つばきば※ 吉井本郷 下久知

つばくさ 大和田

(ノート)：水田雑草, 葉の形, 光沢などツバキの葉に似ることによる。

148 コノテガシワ (ヒノキ科) 側柏, 葉一止血剤, 種子一滋養強壮剤

このてがえし 加茂

(ノート)：中国原産の針葉樹, ヒノキに似るが葉の表裏の区別がはっきりしない, 「このてがえし」はこの特徴によるものか。

149 コブナグサ (イネ科) 小絹草

かりやす※◎ 分布; 伊豆八丈島 三宅島 山口

(ノート)：一般にコブナグサを「かりやす」と称し, 衣料の染色に用いる。

150 ゴボウ (キク科) 牛蒡

ごんぼー※ 金泉, 分布; 岩手 福島 群馬 京都 和歌山 岡山 福岡 佐賀

(ノート)：「ごんぼう」はゴボウの訛り。

151 ゴマギ (スイカズラ科) 胡麻木

いたちのしりかけ※

いたちのへっぴり※ 内海府

ばっと※

ばっとー※ 外海府

(ノート)：ゴマギは胡麻の特有の臭気がある。佐渡には日本海型のマルバゴマギがある。「いたちのしりかけ, いたちのへっぴり」はこの木の葉の臭気による。「ばっと, ばっとう」はよくわからないが, 汚いという幼児語に「ばっちー, ばってー, びってー, べってー」などがある。ゴマギの悪臭についてこれらの言葉の転訛だろうか。

152 サイカチ (マメ科) 皂莢, 莢果一祛痰剤

さいかし※◎ 分布; 山口

さいかちばら※ 片野尾, 分布; 埼玉 神奈川 長野 静岡

さいかちいばら※ 水津, 分布; 富山

(ノート)：「さいかし」はサイカチの転訛, 「さいかちばら, さいかちいばら」はこの木に刺があることによる。

153 サイハイラン (ラン科) 球根一粘滑剤

こーぐり 吉井本郷

ほーくり※ 加茂, 分布; 長野

(ノート)：サイハイランは花穂の形状を采配に見立てたもの。「ほうくり」は根茎の形が栗の実に似ており, それに一枚の葉が着いており葉栗 (ハクリ) と言われ, それがホウクリに転訛したもの。「こーぐり」は, これの訛語。

154 ザイフリボク (バラ科)

しらの※

(ノート)：佐渡で自生が確認されていない。

「しらの」は群がって咲く白色の花を木綿または白紙の四手に見立てたものか。

155 ササゲ (マメ科) 裙帯豆

ささぎ 徳和, 分布; 青森 岩手 秋田 埼玉 千葉 神奈川 岐阜 和歌山 山口 福岡 佐賀 長崎

じゅうろくささぎ※ 水津 片野尾, 分布; 関東

じゅうろくささげ※ 中興 大和田 吉井本郷 立野,

分布; 関東 愛知

(ノート)：「ささぎ」はササゲの訛り, 「じゅうろくささげ, じゅうろくささぎ」は十六ササゲで莢の長い品種。

156 サザンカ (ツバキ科) 山茶花

さざんか\* 水津, 分布; 高知

さんちゃか

(ノート): サザンカは茶梅→山茶花(サンサカ)→茶山花(ササンカ)→サザンカ(山茶花)と転訛したものという。

157 サツマイモ (ヒルガオ科) 甘藷

かんしょ\* 長木, 分布; 山口 熊本

さつまいも\* 二宮 水津, 分布; 東国

りゅうきゅういも\*◎ 片野尾, 分布; 畿内 和歌山

山口 福岡 石川 岐阜 滋賀 兵庫 鳥取 島根 岡山 広島 香川 徳島 愛媛 高知 佐賀 長崎 大分

(ノート): 「かんしょ」は甘藷の読み。「さつまいも」は薩摩地方から広まったのでその名がついたもの。「りゅうきゅういも」は琉球から薩摩地方へ渡来したので薩摩地方での呼び名。

158 サトイモ (サトイモ科) 里芋

くろいも※

とーのいも\*◎ 分布; 岐阜 滋賀 兵庫 島根

はいも※ 北小浦 水津 片野尾 赤泊 徳和 羽茂,

分布; 青森 岩手 山形 福島 群馬 長野 長崎

やーたいも※ 高千 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 畑野

やはたいも※ 金泉 二宮 沢根 北小浦

やわたいも※ 立野 下久知 新町

(ノート): 「やわたいも」の「やわた」は佐和田町八幡の元八幡村が野菜作りの盛んなところから付けられたもの。「くろいも」は芋の表面に黒褐色の毛が着いているので、「とうのいも」は唐芋で芋の品種。

159 サマツ (キシメジ科)

にぎりたけ◎

にせまつたけ 長木

(ノート): モミタケの別名, 大形のキノコで「にぎりたけ」に当てた。「にせまつたけ」は偽マツタケ。

160 サルスベリ (ミソハギ科) 百日紅, 紫薇花

はだかぎ※ 二宮 徳和, 分布; 茨城 山形 愛媛

はだかのき※ 加茂 中興 大和田, 分布; 山形 富山 滋賀

ひゃくじつこう◎

(ノート): 「サルスベリ, はだかぎ, はだかのき」はこの木の樹皮が滑らかなことによる。「ひゃくじつこう」は百日紅。佐渡ではこの木は社寺の庭に植えられ, 一般の家には植えない。これを植えると倒産して裸になるという伝説がある。しかしこの木は裸になっても生きているので目出たい木だという逆説もある。

161 サルトリイバラ (ユリ科) 菝葜 (土茯苓, 和山帰来),

根茎-解熱性利尿剤 (梅毒毒下し)

いばらば 片野尾

かないばら (古) ※◎

かんないいばら※

かんねいばら※ 中興 大和田

がないばら◎

がなっぱら 高千

がねずぼ 水津

がねっぱら 高千

がねばら

がんないいばら

がんないばら※□ 二宮

がんにゃーばら※ 羽茂

がねいばら 赤泊 徳和

ないばら※

(ノート): 佐渡独特の方言, 基本形は「ガネバラ」, サルトリイバラの実がブドウ (方言ガネブ) 状で, 茎に刺があり (イバラ) 「ガネブ+イバラ」から「ガネバラ」となったと思われる。他は基本形からの転訛。

162 サルナシ (マタタビ科)

こくわ※ 高千 中興, 分布; 北海道 青森 岩手 秋田 山形 和歌山

(ノート): サルナシは猿梨, 「こくわ」古名, 古久波。

「しらくち」之良久知, アイヌ語シラクッチがシラクチになったという。

163 サルノコシカケ (サルノコシカケ科) 樹雞

かたみみ※ 外海府 北小浦

しろみみ※

(ノート): 「かたみみ」は堅ミミ, 「しろみみ」は白ミミである。

164 サワオグルマ (キク科)

みずたんぼぼ 中興 大和田

(ノート): 「みずたんぼぼ」は水タンポポ, 山野の水湿地にはえる, 幼児がこの花茎を採って乾し, よく揉んで息を吹き込んで膨らませ, タンポポと同じように歯で噛んで音をだして遊んだ。

165 サワグルミ (クルミ科) 沢胡桃

くるび\* 徳和, 分布; 奈良

こーくるび※ 高千 沢根 中興 大和田 北小浦, 分布; 新潟 岐阜

こーくるみ※ 外海府, 分布; 富山 福井

こくろび 片野尾

やまぎり\* 中興 立野 北小浦, 分布; 岩手 山形 福島 群馬 神奈川 新潟 福井 岐阜 静岡 鳥取 島根 佐賀 熊本 大分

(ノート): この植物は一見オニグルミに似ているので「くるび, こうくるび, こうくるみ, こくろび」などというがコウクルミは川クルミの転かもしれない。しかしオニグルミのような実につけない, 材質が軟らかいので桐の代材として「やまぎり」と称し下駄などの材料にする。



166 サワヒヨドリ (キク科)

しろね

(ノート): 山野の水湿地に生える。ヒヨドリはひよ鳥の鳴く頃咲くからと言う。「しろね」はシソ科の植物にある。

167 サワフタギ (ハイノキ科)

そーふたぎ◎

ななかまど※◎ 中興 大和田 北小浦 水津 畑野  
分布; 茨城

にしこり\* 外海府, 分布; 青森 岩手 宮城 秋田  
福島 群馬 埼玉 新潟 山梨 長野

(ノート): 山地の湿地に繁茂し澤を覆うので澤蓋木であるという。「そうふたぎ」はサワフタギの転, 「ななかまど」はこの木が燃料として燃えにくいところから, 「にしこり」は「錦織り木」でこの木の灰を紫染めの媒染剤とするという。サワフタギは実から油を, 葉は糧として保存する。材は斧の柄にしたり (外海府), 喫煙道具の胴乱や炭壺をつくる。

168 サンカクヅル (ギョウジャノミズ) (ブドウ科) 紫葛, 野葡萄

すいび◎ 高千 中興 羽茂

すいぶ 片野尾

すいぶどー 長木 中興 大和田 立野 片野尾

やまぶどー 沢根, 分布; 千葉 静岡

(ノート): サンカクヅルは葉の形が三角形をしているので, ギョウジャノミズは山中の修験行者がこの莖を切り取り, 出てくる水液で渴を潤すと言う意。

「すいび, すいぶ, すいぶどう」は酸っぱいブドウの意  
「やまぶどう」は山のブドウの意。

169 サンシュユ (ミズキ科) 山茱萸, 果実-強壮剤

ぐみ□ 沢根 中興 大和田 立野 片野尾

(ノート): 中国原産, 「ぐみ」は赤熟する実をグミに見立てたもの。

170 サンショウ (ミカン科) 蜀椒, 果実-健胃刺激利尿殺虫剤

からかわ 二宮

(ノート): 加波波之加美, 「からかわ」は「辛皮」, 春, 雄木の幹を半分, 縦に剥ぎ採り, その木皮を細かく刻み食用にするという (京都, 鞍馬の名物という)

171 シオン (キク科) 紫菀, 根-鎮咳祛痰剤

おにのしこくさ◎

(ノート): 「おにのしこくさ」古名, 鬼の醜草で葉が大きくざらつくことから。

172 シキミ (シキミ科) 莽草, 果実-諸瘡

しきび 沢根 長木 水津

しきぶ\* 分布; 新潟 和歌山 兵庫 山口 愛媛 熊本  
鹿児島

(ノート): 「しきび, しきぶ」はシキミの転訛, シキミは実が一箇所に重なり集まる意という。又この実は有害で「悪しき実」の転であるという。

173 シシウド (ミチノクヨロイグサ) (セリ科)

独活, 羌活, (ウドタラシ, ウドモドキ 白芷), 根-神経痛リウマチの利尿剤

さいき\*◎ 分布; 新潟 静岡

せーき\* 大和田 北小浦 片野尾 徳和, 分布; 長野

(ノート): シシウドは大形のウドに似た植物でウドタラシ, セイキなどと呼ぶが佐渡に自生するものはミチノクヨロイグサと言うものである。「せいき, さいき」は精気であろうか。夏の頃刈り取ったものを三尺文 (肥溜め) に入れたり, 堆肥に積んで肥料にした。

174 シソ (シソ科) 紫蘇

ちそ\* 二宮 高千 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野 北小浦 下久知 水津 片野尾 畑野 新町 赤泊 徳和, 分布; 秋田 福島 埼玉 千葉 静岡 愛知 新潟 石川 和歌山 岡山 島根 広島 香川 愛媛 福岡 長崎 大分 宮崎

(ノート): 佐渡では「ちそ」と呼ぶのが普通である。

175 シダ (シダ類)

へびのだいはち※ 外海府 中興

へびのでーはち 片野尾

(ノート): 「へびのだいはち, へびのでいはち」は蛇の大八で大形のテンナンショウの名称である。シダの若芽の, 蕨手の形を, 蛇に見立てたものか。

176 シダレヤナギ (ヤナギ科)

すだれやなぎ 二宮

(ノート): シダレヤナギは中国原産。「すだれやなぎ」はシダレヤナギの訛り。

177 シチク (イネ科)

くろちく◎ 中興 大和田 畑野 徳和

(ノート): 「シチク」は紫竹, 「くろちく」は黒竹で両者は同種。

178 シバ (イネ科)

しだ※◎ 二宮 長木 吉井本郷 北小浦 片野尾 徳和 羽茂, 分布; 広島

しだくさ※

しら※ 二宮 大和田 長江 下久知

しらくさ※ 中興 立野

(ノート): 「しだ, しだくさ, しら, しらくさ」はシバの転訛, 普通はシラクサと訛る。

179 シモツケソウ (バラ科) 草下毛, 繡綿菊

こめざいばな※ 加茂

こめだいはな 水津

(ノート): 「こめざいばな, こめだいばな」は米碎花(コメゼイ花)で小さな花の集まりを砕け米に見立てたもの。

180 シャガ(アヤメ科) 著莖

からすおーぎ

(ノート): 「からすおうぎ」は本来ヒオウギ(射干)の別名。

181 ジャガイモ(ナス科) 馬鈴薯

あきいも※ 外海府, 分布; 山形 長野

しーだいも※

せーだいも※ 分布; 東京 神奈川 山梨 長野 岐阜

せーらいも※ 外海府

なついも※ 外海府 徳和 羽茂, 分布; 岩手 宮城 山形 福島 埼玉 千葉 新潟 富山 石川 山梨 長野 岐阜 島根 兵庫 岡山 広島

にどいも※ 外海府 高千 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野 平松 北小浦 下久知 水津 畑野 新町 赤泊, 分布; 北海道 青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島 栃木 埼玉 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 静岡 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 熊本 大分 宮崎

にろいも 沢根 大和田

(ノート): 南アメリカ原産, 日本へは1598年ジャガタラ(ジャカルタ)から移入, 「あきいも」は秋に収穫, 「なついも」は夏に収穫するので名付ける。「せーだいも, せーらいも, しいだいも」は甲州の代官「清太夫」がオランダから輸入し栽培を奨励したことによる。「にどいも」は二度芋で夏秋の二度収穫できるから。

182 シャクナゲ(ツツジ科) 石南花, 葉-強壮剤

しゃくなぎ 中興 大和田 立野 北小浦

とこあか※ 分布; 長野

なぎ※ 羽茂, 分布; 岩手 香川

(ノート): 「しゃくなぎ」は石南花(シャクナゲ)の転, 「とこあか」は常赤だろう, 花の色が赤いことによる。「なぎ」はシャクナゲの簡略形。

183 シャクヤク(ボタン科) 芍薬, 根-収斂剤, 學急緩解剤

かほよくさ◎

しくじゃく 二宮

(ノート): 中国北東部原産, 「かほよくさ」は容好草, 容好花, 「立てば芍薬, 座れば牡丹, 歩く姿は百合の花」に譽えられる。「しくじゃく」は「シャクヤク」の訛り。

184 ジャケツイバラ(マメ科) 雲実, 種子-止瀉剤

さるかきいばら※ 分布; 和歌山

(ノート): 「ジャケツイバラ」は蛇結茨で, この木の姿が, 蛇を絡めている姿からという。「さるかきいばら」はサルトリイバラ, サルカケイバラと同意で, 枝に沢山の刺をも

っていることによる。

185 ジャノヒゲ(リュウノヒゲ)(ユリ科) 麦門冬, 龍鬚草, 球根-粘滑性消炎剤, 鎮咳強心強壮剤

おにびえ 片野尾

じょーがひげ※◎ 分布; 関西 周防 四国 島根 岡山 山口 愛媛

たつのひげ※◎ 中興 大和田 羽茂, 分布; 奥州 紀伊 宮城 新潟 山口

やぶらん※□ 分布; 静岡 和歌山

やます

やますげ□ 二宮

りゅうのひげ※ 中興 赤泊, 分布; 東国 千葉 熊本 (ノート): ジャノヒゲは蛇の鬚, 「たつのひげ, りゅうのひげ」は龍の鬚, 「じょーがひげ」は能面の尉の鬚, 「おにびえ」は鬼稗, 「やぶらん」は藪蘭, 「やますげ, やます」は山菅である。

186 シャリンバイ(バラ科)

たまつばき 長木

(ノート): シャリンバイは枝葉が輪生状に出, 花が梅花に似るところから, 「たまつばき」は玉椿で葉の形から。

187 ジュウニヒトエ(シソ科)

ちちすいばな※

(ノート): ジュウニヒトエは花穂に花が重なって着くさまを昔の女官の十二単に譬えたもの。「ちちすいばな」はウツボグサやオドリコソウと同様花の蜜を吸うことによる。

188 ジュズダマ(イネ科) 薏苡仁, 種子-利尿鎮痛剤, 疔贅の薬

すずだま※◎ 分布; 和歌山 島根 山口 高知 長崎 鹿児島

(ノート): 「すずだま」は鈴球, この実で念珠やお手玉を作る。

189 シュロ(ヤシ科) 檳榔, 棕櫚, 焼き皮-止血剤

しよろ 加茂 二宮

(ノート): 「しよろ」はシュロの訛り。

190 シュンラン(ラン科)

ししのこ 徳和

ててっぴょ 吉井本郷 立野 長江

ほーくり※ 加茂 羽茂, 分布; 石川 岐阜 島根 岡山 広島 徳島

ほくろ※ 長木, 分布; 京都 兵庫 千葉 三重

やまらん※ 中興, 分布; 山形 千葉 石川 三重 奈良 島根 山口

(ノート): 「ししのこ」は猪の子の口を開けた形が花の形に似ることによるものか。「ててっぴょ」は花の形をキジバト(テテッピョ)が鳴くときの口の形に見立てたもの。「ほうくり, ほくろ」はシュンランの根茎をサイハイランと

同じ薬効にあてることによる。

191 シラキ (トウダイグサ科) 娑羅得

しらき※ 外海府 高千, 分布; 岩手 宮城 長野 静岡 愛知 岐阜 三重 和歌山 鹿児島

(ノート): 「いらき」は白木で材の色による。

192 シラネアオイ (シラネアオイ科)

やまぼたん\* 高千 中興, 分布; 秋田 岩手 山形 新潟

(ノート): シラネアオイは日光白根山に多くあり名付く, 「やまぼたん」は山牡丹でこの花の美麗なるさまから。

193 シラヤマギク (キク科)

やまくきたち◎□

(ノート): 「やまくきたち」をシラヤマギクに当てたが検討を要する。「くきたち」は春 薺のたつタネをさす。

194 シロウリ (ウリ科) 白瓜, 越瓜

かたうり※◎ 二宮 沢根 中興 吉井本郷 立野 平松 北小浦 下久知 水津 片野尾 畑野 新町 赤泊 徳和 羽茂, 分布; 神奈川 石川 福井 北海道 青森 岩手 秋田 山形 富山 三重

(ノート): 「かたうり」は外果皮の堅いので付けた名。奈良漬用。

195 シロダモ (クスノキ科)

うらじろ※◎ 長き 中興 大和田 吉井本郷 下久知 水津 片野尾 赤泊, 分布; 奥州 埼玉 広島 愛媛 だも\*□ 分布; 三重

(ノート): 「うらじろ」は葉の裏が白いことによる。「だも」は簡略形。

196 シロツメクサ (マメ科)

だんごばな\* 長木 中興 下久知 水津 片野尾 赤泊, 分布; 福島 島根

みつば\* 高千 長木 中興 大和田 吉井本郷 長江 赤泊 徳和 羽茂, 分布; 青森 岩手 秋田 山形 福島 群馬 新潟 石川 長野 岐阜 静岡 京都 島根 岡山 香川 広島 長崎 熊本 鹿児島

(ノート): シロツメクサは白花の詰め草で、昔荷造りに用いた。「だんごばな」は花が団子のように円いので、「みつば」は葉が三枚の複葉だから。

197 スイカ (ウリ科) 西瓜, 果肉, 種子-利尿剤

そーめんうり※ 中興

(ノート): 「そうめんうり」は実の中身がソウメンのように糸状でイトウリともいう、むしろ南瓜に近い、なにかの間違いか。

198 ズイキ (サトイモの葉柄)

いもだつ※ 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野 羽茂, 分布; 岐阜

だつ※ 沢根 中興 下久知 片野尾 新町 徳和,

分布; 岐阜 愛知

はいものだつ 水津

(ノート): 「いもだつ, だつ, はいものだつ」はサトイモの太い葉柄をいう。ヤツガシラという品種で食用にする。

199 スイシカイドウ (ハナカイドウ) (バラ科) 垂糸海棠 いとざくら◎

(ノート): 「いとざくら」は、本来はエドヒガンの枝垂れる品種のシダレザクラをいう。

200 スイセンノウ (ナデシコ科) 醉仙翁, フラネルソウ ねこのみみ 大和田

(ノート): 「ねこのみみ」はこの植物の葉が軟綿毛で覆われ猫の耳に似るところから。

201 スイバ (タデ科) 酸模, 根-諸瘡

きびすいこ※ 羽茂

すいか※ 加茂 二宮 中興 立野, 分布; 岐阜 島根

すいかのぼんぼん※ 中興 大和田

すいかんとー※ 大和田

すいこ※ 加茂 二宮 高千 赤泊, 分布; 石川 新潟 富山 長野 岐阜 静岡 愛知

すいこー 徳和

すいこんぼー\* 沢根, 分布; 長野

すいこんとー\* 水津, 分布; 長野

すかんぼ\* 沢根, 分布; 東京 岩手 山形 神奈川 新潟 山口 長崎

すび 沢根

(ノート): この植物は酸味があり、莖葉をたべる。この酸味によりいろいろの名が付いた。イタドリの方言と機を同じくするところが多い。「きびすいこ」は黍スイコで花莖が黍に似るところから。「すいかんとう」はスイカン莖である。「すいこんぼう」はスイコン坊か。「すいこんとう」はスイコン莖である。

202 スギナ (トクサ科)

つくつくし\* 沢根, 分布; 青森 東京

(ノート): スギナは杉葉で杉の葉を連想した名。「つくつくし」はスギナの胞子葉のツクシ (土筆) である。

203 ススキ (イネ科) 芒

かや\* 沢根, (佐渡全域), 分布; 青森 岩手 秋田 山形 埼玉 神奈川 静岡 長野 新潟 富山 三重 兵庫 奈良 和歌山 鳥取 島根 岡山 広島 香川 愛媛 福岡 長崎 熊本 宮崎 鹿児島

(ノート): ススキは一般に「かや」という。

204 スズサイコ (ガガイモ科) 徐長卿

がんがらび 外海府 片野尾

はまやなぎ※

(ノート): 「はまやなぎ」は濱柳で葉の形がヤナギの葉に

似るところから、「がながらび」この植物の実がガガイモの実に似るところから名付けられる。

205 スズメノテッポウ (イネ科)

びーびーぐさ\* 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷  
北小浦 分布; 山形 栃木 群馬 千葉 新潟 長野  
奈良 和歌山 島根 岡山 愛媛 高知 大分 宮崎  
鹿児島

(ノート): スズメノテッポウは小さな丸い穂を雀の鉄砲に見立てたもの。「びいびいぐさ」はこの草の穂を葉鞘から抜き去り、その抜き口を咥えて吹くとピピイ音をだすことによる。

206 スズメノヒエ (イネ科) 雀の穂

しだ※ 中興

しら※ 大和田 片野尾

(ノート): 「しだ、しら」はシバの転訛。

207 スズメノヤリ (イグサ科) 雀の槍

しだ※

しら※ 片野尾

(ノート): 「しだ、しら」はシバの転訛。

208 スベリヒユ (スベリヒユ科) 馬齒莧、葉茎-毒虫の刺傷、疣取り

すべらびょー (古) ※

すべりしょー\* 沢根 分布; 長野

すべりひゅー 下久知 赤泊

すべりひょー\*◎□ 中興 大和田 吉井本郷 羽茂,  
分布; 江戸 静岡

ずべりひゅ 長木

ひゅり※ 中興 長江 分布; 山口

(ノート): スベリヒユは滑り莧、畑の雑草、この草を茹でて食べるが粘滑なところから。各方言はスベリヒユの転訛。

209 ズミ (バラ科)

まめなし※

やまなし※ 沢根 中興 大和田 分布; 岡山 岩手  
山形 栃木 福井 静岡 三重

(ノート): ズミはそみ (染み) の意という、樹皮を染料に使ったことによる。「まめなし」は豆梨、「やまなし」は山梨である。

210 スミレ (スミレ科) 紫花地丁

あおばな

かきばな※

かぎのはな※ 二宮

かぎはな※ 分布; 宮城

かぎばな※□ 分布; 宮城 愛媛 香川 長崎

かけばな※ 分布; 長崎

かけはな※

かげばな\* 分布; 新潟 長崎

かげんばな※

がながんばな※

すみれ\* 水津 片野尾 分布; 江戸

ちょーちょーかんばん※

(ノート): スミレの名は花形が大工道具の墨壺に似るところからといわれる。また古代から摘み草の代表とされるところから摘み入れ草からの転訛であるともいわれる。「あおばな」は花の紫色から、「かきばな、かぎのはな、かぎはな、かぎばな、かけばな、かげはな、かげばな、かげんばな」などは花の萼の形が鉤状に曲がるので鉤花の転訛という。「がながんばな」は簪の幼児語カンカンの転訛で花を髪に挿して遊んだものか。「ちょうちょうかんばん」は錯誤による「ちゅーちゅーかんかん」の転訛。昔は蝶々を「ちゅーちゅー」と訛った。ところが幼児語で「ちゅーちゅー」は頭髪を、「かんかん」は簪 (かんざし) を言う。スミレの花を摘んで髪に挿したことによると思われる。

211 スモモ (バラ科) 李 根皮-利尿剤

あめんどー\*◎ 分布; 三重 熊本

すもも 片野尾

はたんきょー◎ (巴旦杏, アメンドウ, アーモンド)

沢根 長木 中興 吉井本郷 下久知 水津 両津 新  
町 赤泊

(ノート): 佐渡では果汁の少ない在来種をスモモ、果汁の多い改良種をハタンキョーと言う。

「あめんどー」はアーモンドの転訛。

212 セキショウ (サトイモ科) 菖蒲、石菖蒲、根-芳香健胃剤

しょーぶ\* 中興 北小浦 片野尾 両津 赤泊,  
分布; 和歌山

せきしょーぶ\*◎ 吉井本郷 分布; 和歌山 愛媛

(ノート): セキショウとショウブは別種である。セキショウは溪流の邊に生育し、またショウブは沼沢や湿地に生える。端午の節句の菖蒲湯に用いるのはこのショウブである。

213 セッコク (ラン科) 石斛、葉茎-健胃強壯剤

すくなひこのくすね (古) ◎□ (少名彦薬根)

(ノート): 「すくなひこ」は少彦名神、高皇産靈神の子。医、酒造、温泉の神である。「くすね」は薬根で薬である。

214 センニンソウ (キンポウゲ科)

せんニンそー 中興

ふつくさ※◎□ 分布; 群馬 神奈川 和歌山 山口 広島

(ノート): センニンソウは仙人草で花後の瘦果に着く毛の集まりが仙人の白頭に見立てたものか。「ふつくさ」は払子草の転訛で花後の瘦果の集まりを払子に見立てたもの。

215 センノウゲ (ナデシコ科) 仙翁花

せんのうげ 中興

(ノート): 「せんのうげ」はこの花が始めて京都嵯峨の仙翁寺 (今は廃寺) から広まったからという。仙翁花。

216 センブリ (リンドウ科) 胡黄連, 全草—苦味健胃剤

とうやく\* 沢根 分布; 岩手 長野 滋賀 山口 青森 宮城 山形 新潟 埼玉 静岡 長野 和歌山 香川

(ノート): センブリは千遍振っても薬効が出るという意。「とうやく」は当薬でこの植物は薬に当たる (である) という意。

217 ゼンマイ (ゼンマイ科) 薇, 狗脊, 紫萁

かくま※◎

かぐま※

ぜんまい 水津

ぜんめー\* 加茂 高千 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野 長江 北小浦 下久知 片野尾 畑野 新町 赤泊 徳和 分布; 長野 新潟

(ノート): ゼンマイは孢子葉の若く巻いている様が銭に似るところから、銭巻きがゼンマキ→ゼンマイに転訛したといわれる。「かくま、かぐま」はシダの名前に用いられるが、語源は不明としている。ところでチベットやネパールに棲む牛に似たヤク (牦牛) の毛はながく、それから採った毛の茶褐色をシャグマ (赤熊), 白色をハグマ (白熊), 黒をコクマ (黒熊) という。このコクマがカクマに転訛し、シダの葉軸に着生する毛の色によって名付けられたものではなかろうか。

218 ソクズ (スイカズラ科) 薊薊, 葉—腫痛に用う

すじわたし※

(ノート): ソクズはサクタク (薊薊) の転。別名クサニワトコ。「すじわたし」は筋渡して、骨折の傷を治し筋骨を接ぐ効ありという。

219 ソヨゴ (モチノキ科)

ふくらしば※ 吉井本郷 長江 分布; 山口 埼玉 富山 岐阜 愛知 三重 京都 奈良 和歌山 近畿 中国 島根 香川 愛媛 高知

(ノート): ソヨゴは葉が硬く風に戦ぎ音を立てるからという。「ふくらしば」は葉が火熱に逢えば葉内の水分が蒸気となって葉を膨らますことによる。

220 ソラマメ (マメ科) 空豆

とーまめ※ 吉井本郷 水津 分布; 岐阜 和歌山 山口 西国 福岡 八丈島 神奈川 愛知 三重 佐賀 長崎 大分 宮崎 鹿児島

おたふくめ 片野尾 分布; 青森 宮城 福島 茨城 栃木 埼玉 千葉 神奈川 新潟 石川 福井 長野 岐阜 静岡 京都 大阪 和歌山 島根 山口 香川 高知 長崎 熊本

(ノート): ソラマメは豆莢が空に向かって立つことによる、「とうまめ」は唐豆, 北アフリカ, 南西アジア原産。「おたふくめ」豆の形をお多福の顔に見立てたもの。

221 ダイコン (アブラナ科) 蘿蔔, 藥服, 種子—健胃, 祛痰剤, 乾し葉—浴湯料

でーこん\* 高千 沢根 長木 中興 吉井本郷 立野 長江 北小浦 下久知 片野尾 畑野 両津 新町 赤泊 徳和 分布; 静岡 長野 福岡 佐賀

でーんこ 金泉

でゃーこん\* 赤泊 (新保) 羽茂 分布; 静岡

でんこん 金泉

りゃーこん\* 分布; 熊本

れーこん

(ノート): 方言は何れもダイコンの転訛。

222 ダイコンソウ (バラ科) 水楊梅, 根—強壮利尿剤

ひきおこし◎

(ノート): ダイコンソウは葉の形がダイコンに似ることによる。「ひきおこし」は薬効によって倒れた病人が元気になるの意, これと同名の植物に弘法大師が教えてくれたと云われるヒキオコシ (延命草, シソ科) がある。

223 タイサイ (アブラナ科) 体菜

たいな\* 沢根 中興 水津 赤泊 畑野,

分布; 富山

てーな 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野 北小浦 下久知 片野尾 両津

(ノート): 方言はタイサイ (体菜, タイナ) の訛語。

224 ダイズ (マメ科) 大豆

しろまめ※ 沢根 長木 中興 立野 畑野 徳和,

分布; 富山 石川 福井 岐阜 三重 滋賀 大阪 兵庫 京都 奈良 山口 佐賀

まみ※ (古) ※

まめ\* 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野 長江 北小浦 下久知 水津 片野尾 徳和 羽茂,

分布; 青森 岩手 秋田 福島 群馬 埼玉 神奈川 長野 富山 長崎

(ノート): 方言は白豆, 豆の訛語。

225 ダイモンジソウ (ユキノシタ科)

いろうぼーき◎

いわじしゃ

いわだたら◎

いわぶき\*◎ 分布; 秋田 岩手 山形 長野 新潟

いわぼーき\* 分布; 新潟

いわぼき\* 分布; 新潟

ぎらな◎

(ノート): ダイモンジソウは花の形を大の字に見立てたもの, 「いろうぼうき, いわぶき, いわぼうき, いわぼき」は基本形イワブキ (岩路) の転訛, 「いわじしゃ」は岩ジシャ

(菖蒲), この植物の葉をチシャに見立てたもの。「いわだたら」は岩ダタラ, ダタラはタタラメで田枯らしすなわちタガラシ(石龍芮, キンボウゲ科)を云う, 根生葉の形が似る, この植物が岩に生えるのでイワ+タタラメであろう。「ぎらな」は光沢のある葉による。

226 タウコギ(キク科) 狼把草, 葉茎-健胃, 止瀉剤

ねつぎまし 畑野

やぐさ 大和田

(ノート): タウコギは水湿地, 水田の雑草, 「ねつぎまし」はこの草を民間薬として風邪, 解熱に用いる。

「やぐさ」は種子が矢じりのように尖り衣服に付着することから。

227 タカサブロウ(キク科) 早蓮草, 鱧腸草

いたちのひともとぐさ(古) ※◎

(ノート): タカサブロウは南方系の水田雑草。古名をウマキタシといい, その後タタラビとなり, タタラビソウ→タカサブロウとなったという。タガラシ(キンボウゲ科)もまたタタラビと云い両者は民間薬として眼病や止血薬になるという, タタラビの名は「爛れ眼」がタタラメ→タタラベ→タタラビと転訛したものという。「いたちのひともとぐさ」は「鼯の一本草」で「一本草」は靈験あらたかな弘法大師のヒキオコシ(シソ科)である。タカサブロウの薬効はヒキオコシほどではないのでイタチノヒトモトグサとなったものか。

228 タガラシ(キンボウゲ科)

からしぐさ※

かわがらし※

たねつけばな※

(ノート): タガラシはこの植物の辛味により「田辛し」という。「たねつけばな」は同名のものがアブラナ科にありタガラシの別名がある, 両者の錯誤か。

229 タケニグサ(ケシ科) 博落廻

ちゃんばぎく\* 分布; 新潟 千葉

(ノート): タケニグサは茎が竹に似るので竹似草とか, 竹細工の竹をこの草で煮て軟らかくしたり色を着けたりするの意という。博落廻は中国の玩具でこの果穂の音が似ているという。「ちゃんばぎく」は占城菊で, 占城(チャンペン, ベトナム)より渡来した菊の意, 葉が菊に似る。

230 タニウツギ(スイカズラ科)

かじばな\* 長木, 分布; 山形 新潟

かぶしばな※ 外海府 高千

さおとめばな\* 徳和, 分布; 能登

しょーからばな 高千

そーとめばな 水津

たにうつぎ\* 片野尾, 分布; 三重

はなうつぎ※ 中興 大和田

(ノート): 「たにうつぎ, はなうつぎ」は谷空木, 花空木

である。「かじばな」は真っ赤に花の咲いた様を火事に見立てたものか。「かぶしばな, しょうからばな」は若葉を採って糧にしたことによるものか。「さうとめばな」は早乙女花で, この花が咲く頃に田植えが始まるという意。

231 タネツケバナ(アブラナ科) 碎米薺

たがらし※ 高千

たねつけばな(古)

(ノート): 「たがらし」は水田雑草で田枯らし, 同名のタガラシ(キンボウゲ科) 田辛しがある。「たねつけばな」はこの花が咲く頃が種籾を水に漬ける目安となるの意。

232 タブノキ(クスノキ科) 鉋屑状木質-煮汁を女髪の癖直しに

だも※ 分布; 福井 京都 鳥取

(ノート): 「だも」はタブの転訛。タブは朝鮮語の丸木舟(tong-bai)からの転訛という。

233 タマガヤツリ(カヤツリグサ科)

すげ※ 中興 大和田 吉井本郷 立野 下久知 水津 片野尾 畑野 徳和 羽茂, 分布; 香川

(ノート): タマガヤツリは水田雑草, 一般にカヤツリグサを「すげ」菅という。

234 タムシバ(モクレン科) 辛夷, 花蕾-頭痛薬

こぶし\* 長木 中興 吉井本郷 長江 水津 両津 畑野 羽茂, 分布; 岩手 秋田 山形 新潟 富山 長野 愛知 岐阜 福井 三重 京都 奈良 和歌山 兵庫

(ノート): タムシバは葉を噛むと甘いのでカムシバといい, 転訛してタムシバとなる, また葉の表面にタムシ(田虫)状の模様があるからともいう。「こぶし」は実の形が拳状であるところから。

「コブシ」一葉はモクレンに似る, 花の萼に毛がある。花の基に幼葉がある。

「タムシバ」一葉はオオバクロモジに似る, 花の萼は無毛, 花の基に幼葉がない。

235 タラノキ(ウコギ科) 根皮-胃腸病

たらのき\* 水津 片野尾, 分布; 青森 福井 埼玉 高知 鹿児島

ほーだら\*◎ 長木, 分布; 富山 福井 三重

(ノート): タラノキの語源は朝鮮語起源という。

タラとウドの芽は山菜としてよく似るので, タラをキタラ(木たら), ポウダラ(棒だら), ウドをツチタラ(土たら)と区別する。

236 タンバノリ(紅藻類)

うしのひたい 中興

(ノート): 「うしのひたい」, 革状の植物体を牛の額に見立てたものか。

237 タンポポ (キク科) 蒲公英, 苦苣, 全草-健胃剤

おかんかん※ 吉井本郷

おかんかんかん※

おかんかんぞー※

おかんかんぼん※

おがんおがん※

おがんがん※

かんかん※

かんかんばな※ 吉井本郷

かんぞー※ 中興

くちくちな※

ぐちぐちな (古) ※◎□

くちな※ 分布; 奥州

ごやじ (古) ※◎□ 二宮, 分布; 兵庫

ごろーじ※ 豊田

こんこーじばな※

こんでん※

こんねんどー※

こんれんばな※

じりんどー※

じりんどばな※

たんぽこ※ 高千 立野, 分布; 静岡 愛知 新潟 三重 京都 和歌山 兵庫 島根 岡山 香川 高知 福岡

たんぽこりん※ 沢根

たんぽんぽん※ 金泉 中興

ちゃーぽんぽん※ 外海府

ちゃんちゃんぽ

ちゃんちゃんぽん※

ちゃんちゃんぽんぽ※

ちゃんちゃんぽんぽん※ 水津

ちゃんぽこ※ 分布; 群馬 愛知 岐阜 岡山 香川

ちゃんぽぽ※ 金泉 二宮, 分布; 山形 山梨 富山 香川

ちゃんぽんちゃんぽん※

ちゃんぽんぽ※ 分布; 山形

ちゃんぽんぽん※ 金泉

つんぶーばな※ 金泉

つんぽばな※ 分布; 大分

ぽぽじゃ※

ぽぽちゃ※

ぽぽちゃ※ 加茂

ぽやじ 二宮

ぽんぽこちやがま※

ぽんぽこちゃん※

ぽんぽんちゃ※

(ノート): タンポポの名は花茎を切り取って両端を裂いて水の中に入れると切れた端が外に巻いて鼓の形となりその音から名付けられたという。タンポポは早春の花で黄色い花は特に目に付き沢山の名前がある。「おかんかん, おかんかんかん, おかんかんぞう, おかんかんぽん, おがんおがん, おがんがん, かんかん, かんかんばな, かんぞう」は

簪の幼児語カンカンが基本であろう, 子供たちが花を頭に挿して遊んだことによる。「くちくちな, ぐちぐちな, くちな」は茹でて食べるときの軟らかい感触からおもわれる。「ごやじ, ごろうじ」は花後白毛を着けた円い頭花を爺さんに譬えたものか。「こんこうじばな」は花を金色に光る仏の後光に譬えたものか。「こんでん, こんねんどー, こんれんばな」は金蓮キンレンで, 花を金色のハスの花に見立てたものか。「じりんどう, じりんどばな」は花の頭花を車輪に見立て車輪草ジャリンソウ花の転訛か。「たんぽこ, たんぽこりん, たんぽんぽん」はタンポポの幼児語。「ちゃあぽんぽん, ちゃんちゃんぽぽ, ちゃんちゃんぽん, ちゃんちゃんぽんぽ, ちゃんちゃんぽんぽん, ちゃんぽこ, ちゃんぽぽ, ちゃんぽんちゃんぽん, ちゃんぽんぽ, ちゃんぽんぽん」などは, タンポポに鼓を打つ時のヒャーという掛け声を加えた幼児語。「つんぶうばな, つんぽばな」は冠毛を付けた種子が耳に入ると聾になるという伝説から。「ぽぽじゃ, ぽぽちゃ, ぽぽちゃ」は白い毛の円い頭花をボウボウ (坊々) という幼児語。「ぽやじ」は穂屋絮 (ぽやじょ) で冠毛の絮 (ワタ) 毛をススキの穂の毛に見立てたもの。「ぽんぽこちやがま, ぽんぽこちゃん, ぽんぽんちゃ」は幼児語である。

238 チガヤ (イネ科) 白茅, 根茎-利尿剤

つばな※◎□ 二宮 高千 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野 長江 水津 片野尾 赤泊 羽茂,

分布; 山形 茨城 神奈川 新潟 和歌山 山口 愛媛 福岡 熊本 大分 宮崎 鹿児島

のまき※

のまき※ 外海府

(ノート); チガヤの語源は千萱で沢山生えるから, また噛むと甘い汁が出るので乳 (チ) 萱である, また草の色が赤く血 (チ) 萱であるという。「のまき, のまぎ」は漁師の前掛け (野巻き) の材料にすることから。

239 チシャノキ (ムラサキ科)

じしゃのき※ 高千 中興 大和田 吉井本郷 立野 下久知 水津 片野尾 赤泊 羽茂, 分布; 福井

(ノート): ムラサキ科のチシャノキは佐渡で自生が確認されていない。エゴノキの「じしゃのき」との誤認と思われる。

240 チチコグサ (キク科)

すずめのちょーちん※ 下久知

すずめのちょんちょん※ 外海府

(ノート): 語源はよくわからない, チチコグサは地上茎を伸ばして繁殖する, 葉の細い小草であるので雀と言うものか。

241 チドメグサ (セリ科) 翠霧雲草

うずらそう◎

ちぐさ 吉井本郷

よろいぐさ※

(ノート): 「うずらそう」「よろいぐさ」は地面を這って茂る葉の模様をそれぞれに譬えたものか。「ちぐさ」は血草で血止め草の意。

242 チャンパギク (タケニグサ) (ケシ科) 黄芩, 根-消炎剤

わおーごん◎

(ノート): 「わおうごん」は和黃芩でコガネヤナギ (コガネバナ) (シソ科) の代用品として根を用いる。

243 チョウジタデ (アカバナ科)

なんばんぐさ※ 中興 大和田 立野

(ノート): 「なんばんぐさ」は水田, 水路などの雑草で葉の形がナンバン (唐辛子) に似る。

244 チョロギ (シソ科)

やまかい※

(ノート): 「やまかい」は塊茎の形が巻貝に似るところから山貝という。

245 ツクシ (トクサ科) 土筆, 筆頭菜, 茎葉-利尿剤

げんのまら※

すぎな※ 沢根 中興 大和田 立野 北小浦 下久知 水津 片野尾 畑野 赤泊 徳和 羽茂, 分布; 宮城 青森 秋田 岩手 福島 千葉 山梨 埼玉 岐阜 和歌山 兵庫 山口 香川 長崎

ずくし※ 沢根, 分布; 静岡 愛知

ずくずくし※ 沢根, 分布; 愛知 大阪

ずんぼこ※

つくしのぼーや\* 水津, 分布; 山口

つくしんぼ\* 長木 吉井本郷

つくずくし※ 中興, 分布; 長野 福岡 青森 山形 富山 静岡 大阪 兵庫 熊本 大分

つくつくし※ 中興, 分布; 東国 山口 青森 八丈島 岐阜 石川 京都 三重 大阪 熊本

(ノート): 「げんのまら」は玄のチンチンで, 玄は遊里で遊ぶ医者や僧侶をいう。「ずくし, ずくずくし, ずんぼこ, つくしのぼうや, つくしんぼ, つくずくし, つくつくし」は何れもツクシの転訛。

246 ツチグリ (バラ科) 翻白草

かわらさいこ◎

(ノート): 両者は別種であるが, 古代では混同していた。ツチグリは根が紡錘状に肥厚し食べられる。

247 ツノハシバミ (カバノキ科) 榛

かしまめ※ 長き 徳和, 分布; 長野 秋田 埼玉 新潟 岐阜

(ノート): 「かしまめ」は榎豆で食べる。

248 ツユクサ (ツユクサ科) 鴨跖草, 藍花, 茎葉-利尿剤

あおばな\*◎ 分布; 滋賀

あきはな※

かぎばな※◎

かたぐる※ 加茂 中興 羽茂

じんじくろ※

そめくさ\* 高千, 分布; 長野 新潟

だんぶりはな※ 分布; 青森 秋田

ちょーちょーばな※ 外海府, 分布; 島根 長崎

つきくさ\*□ 分布; 新潟 鹿児島

とつとつばな※

はながら※ 外海府, 分布; 長野 三重 群馬 埼玉 千葉 東京 山梨 静岡 島根 山口 福岡 長崎 熊本 大分 鹿児島

はなばら

ははしぐさ (古) ※

めぐすりばな※ 外海府 二宮 水津

(ノート): 古名「ツキクサ」, 色の着く草の意, 「あおばな」は花の色が青色, 「あきはな」は秋になっても成長し花を着ける, 「かぎばな」は花が鉤状に曲がっているところから, 「かたぐる」は花が曲がって咲くのでカタグルの転か。「じんじくろ」はわからない。「そめくさ」は花卉の絞り汁で青く染めることのよる。「だんぶりはな, ちょうちょうばな」は花の形をトンボや蝶に見立てたもの。「はながら, はなばら」は花後萎んだ花卉が苞に包まれて残るので。「ははしぐさ」は帽子草で二枚の苞に包まれた様をいう。「めぐすりばな」は茎葉の煎じ汁で眼を洗うことから。

249 ツリガネニンジン (キキョウ科) 沙参, 続断, 根-祛痰剤

うばがちち◎

うばがち□

ととき※◎□ 高千 長木 中興 羽茂, 分布; 山形 東京 神奈川 新潟 長野

(ノート): 「トトキ」の語源は朝鮮語起源, 「ウバガチチ, ウバガチ」は茎葉の切り口から白い乳液を出すことから乳母の乳になぞらえるもの。

250 ツルウメモドキ (ニシキギ科)

うめもどき※ 中興 吉井本郷 平松 下久知 片野尾 畑野 羽茂, 分布; 千葉

(ノート): 両者は別種であるが単に「うめもどき」という。

251 ツルニンジン (キキョウ科) 羊乳根, 根-祛痰剤

つりがねにんじん※◎ 吉井本郷

(ノート): 「つりがねにんじん」は釣鐘状の白緑色の花を着ける, 別名ジイソブという, 老爺のソバカスの意である。種名ツリガネニンジンとは別種。

252 ツワブキ (キク科) 藜苳, 葉-解毒剤

つやぶき\* 高千 沢根 長木 長江 平松 水津 羽茂, 分布; 福島 新潟 和歌山

つわ\*◎ 沢根 畑野, 分布; 静岡 兵庫 三重 和歌山 島根 山口 香川 高知 福岡 長崎 熊本 宮崎



鹿兒島

(ノート)：「ツワブキ、つやぶき、つわ」は何れも常緑で艶のある薔の意。

253 テイカカズラ (キョウチクトウ科) 絡石、石皿、葉茎  
—強壯剤

まさき\* 水津、 分布；八丈島 三宅島

まさきのかづら\*◎ 分布；三宅島 長崎

(ノート)：「テイカカズラ」は式子内親王(後白河天皇の第二皇女)の墓に絡む葛、それは藤原定家であるという故事から。「まさきのかづら、まさき」は古名であるという。またマサキのカズラはサンカズルであるという説もある。

254 テンナンショウ (サトイモ科) 天南星、根—鎮痙、祛  
痰剤

へびのだいおー※□ 中興

へびので—はち 加茂 長木 中興 片野尾 徳和 羽茂

(ノート)：「へびのだいおう、へびのだいはち」は蛇の大王、蛇の太八でテンナンショウを蛇に見立てたもの。

255 トウガラシ (ナス科) 蕃椒、果実—香味料、辛味料、鎮  
痛剤

からなんばん※ 高千 沢根 長木 中興 吉井本郷 水  
津 片野尾 赤泊 徳和、 分布；滋賀

たかのつめ\*◎ 分布；滋賀 大阪 兵庫 岡山 山口

なんばん※◎ 二宮 高千 沢根 中興 大和田 立野  
長江 平松 下久知 畑野 新町、 分布；東北 岩手  
宮城 山形 茨城 山梨 長野 静岡 愛知 北海道  
青森 秋田 福島 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神  
奈川 新潟 富山 石川 福井 岐阜 滋賀 京都 鳥  
取 島根 広島 香川 長崎 熊本

(ノート)：「からなんばん」は辛い南蛮、「たかのつめ」は唐辛子の栽培品種、辛味が強い。

256 トウキ (セリ科) 当帰、山蕨、根—貧血性瘀血、浴湯剤  
おーせり□

うしのめくすり※

(ノート)：「おうせり」は大きい芹の意、「うしのめくすり」は牛の眼薬。

257 トウギボウシ (オオバギボウシ) (ユリ科) 玉簪花  
いおーな

ぎしぎしな□

ぎぼし 水津

ぎりぎりな◎□

ぎんぼーし◎

めんば (古) ※ 二宮 長木 徳和 羽茂

(ノート)：トウギボウシは唐ギボウシである。「ぎぼし、ぎんぼうし」はギボウシの転、「いおうな」は医王菜、薬師如来の薬草の意。「ぎしぎしな、ぎりぎりな」は葉に多くの縦脈がありその様を表すものか。「めんば」は大きな葉に

眼鼻の穴をあけ面にして遊んだことによる。

258 トウダイグサ (トウダイグサ科) 沢漆、葉茎—水腫薬  
すずふりくさ※□ 分布；三重

すずふりばな※ 分布；三重

(ノート)：トウダイグサは草の形を灯火の代(燭台)に見立てたもの。「すずふりくさ、すずふりばな」は鈴振り花で実を鈴に見立てたもの。

259 トウモロコシ (イネ科)

かしきび※□ 外海府 加茂 二宮 高千 沢根 長木  
中興 大和田 吉井本郷 立野 北小浦 下久知 水津  
片野尾 新町 畑野 赤泊 徳和 羽茂、 分布；奥州  
新潟 山形 石川 長野 畿内

とうきび\* 二宮、 分布；茨城 福井 西国 福岡 山  
形 福島 群馬 山梨 愛知 岐阜 新潟 石川 兵庫  
島根 岡山 広島 山口 香川 愛媛 佐賀 長崎 熊  
本 大分 宮崎 鹿児島

(ノート)：中南米原産、16世紀に渡来、「かしきび」は菓子黍、「とうきび」は唐黍。

260 ドクウツギ (ドクウツギ科)

うまあらいうつぎ※

うまあらいくさ※

かわうつぎ※ 分布；岩手 宮城

かわらうつぎ※ 加茂、 分布；山形 長野 茨城

さるころし※ 分布；西国

さわうつぎ※

なべわりうつぎ※□ 分布；(なべわり 千葉 神奈川  
新潟 富山 石川 静岡)

ふろしきつつみ□

(ノート)：「うまあらいうつぎ、うまあらいくさ」は馬荒れウツギで馬がこれを食べると毒に当たって荒れるという意か。「かわうつぎ、かわらうつぎ、さわうつぎ」はこの植物が川岸や澤沿いに生えていることによる。「さるころし」はこの実は猛毒で食べると死ぬという意、「なべわりうつぎ」はこの猛毒の木を薪にすると鍋を割らすと言う意。「ふろしきつつみ」はこの実は多肉の宿存花卉が瘦果を包んでおりそれを風呂敷包みに見立てたもの。

261 ドクゼリ (セリ科) 馬薺

なべわりうつぎ (古) ※

(ノート)：ドクゼリは佐渡に自生の記録はない。

「なべわりうつぎ」はドクウツギ同様、燃料にするとその毒で鍋を割るという意。

262 ドクダミ (ドクダミ科) 葎菜、葉茎—瘡毒に用いる

じゅーやく※◎ 羽茂、 分布；滋賀 和歌山 宮城 秋  
田 山形 埼玉 東京 神奈川 福井 静岡 三重 京  
都 大阪 奈良 兵庫 島根 山口 岡山 香川 愛媛  
長崎 大分

どくまくり※□ 二宮 高千 沢根 中興 大和田 吉井

本郷 立野 北小浦 下久知 水津 片野尾 畑野 両津 赤泊 徳和 分布；島根

どくまり※

(ノート)：ドクダミは毒痛みの転という、また毒止めの転ともいう。「じゅうやく」は菰薬の音読み、または馬を飼うに十種の薬効があるので十薬という。「どくまり、どくまり」は海藻の「まり」は寄生虫の駆虫薬である。ドクダミは病気を治す効力があり、その名を模して「どくまり」としたものか。

263 トネリコ (モクセイ科) 椿、樹皮-消炎剤

たもぎ※ 中興 大和田 分布；新潟 長野

たまのき 中興

しろたもぎ 水津

くろたもぎ 水津

(ノート)：佐渡に自生するトネリコにはアオダモとヤマトアオダモがある。トネリコの語源は寄生するイボタロウ虫の分泌する白蠟を敷きに塗って戸の滑りを良くするのでトネリコの転という。「たもぎ」はこの木の材は強靱で撓む木の転訛であるという。「たまのき」はタモギの転。アオダモは樹皮が暗褐色で「くろたもぎ」、ヤマトアオダモの樹皮は淡褐色で「しろたもぎ」と区別する。

264 トビシマカンゾウ (ゼンテイカ) (ユリ科)

ようらみばな 小倉大納言実起佐渡配流 (元和元年) の際言われたという

(ノート)：トビシマカンゾウは山形県沖にある飛島に自生する海岸性のゼンテイカの変種に付けられた名。日本海側の飛島と佐渡島に分布する島嶼型である。

265 トリアシショウマ (ユキノシタ科) 鳥足升麻、粟穂、根-解熱剤

いぬのお□

いわんだいら (古) ※◎

いわんだら※

とりあし※◎ 二宮 高千 長木 大和田 畑野 羽茂、分布；岩手 秋田 山形 長野 新潟

とりあり 片野尾

みつまた 長木

もくだ (古) ◎ 分布；青森 栃木

(ノート)：「いぬのお」はサラシナショウマの花穂の形を犬の尾に見立てたものか。「いわんだいら、いわんだら」は岩場に生えるタラで、岩たらの転。「とりあし、とりあり」は鳥足で、トリアシショウマの茎を鳥の脚に見立てたもの。「みつまた」は複葉の三出三葉から。「もくだ」は植物が叢生するところから茂く朶であろうか。

266 トリカブト (キンポウゲ科) 草烏頭、烏頭 (母根)、附子 (子根)

かぶとばな※ 二宮 分布；長野 静岡 兵庫

ねやくさ※

ねやぐさ※

ぶす※◎□ 外海府 二宮 高千 長木 長江

(ノート)：トリカブトは花の形が舞楽の鶏冠 (トリカブト) に似ているところから。「かぶとばな」は花卉状の萼の上片が兜型に立つところから。「ねやくさ、ねやぐさ」はトリカブトの根茎の形が鎗矢に似るところから。「ぶす」は地下根の子球を附子というので。

267 ドングリ (ブナ科植物の実) 団栗、痢疾の止瀉剤

どんぐりべー※ 中興 大和田

よめのごき※

(ノート)：「どんぐりべい」は団栗平である。「よめのごき」は嫁の御器、穀斗 (杓子) をお椀に見立てたもの。

268 ナガイモ (ヤマノイモ科) 薯蕷、根-滋養強壮剤

えちごいも※

えどいも※ 徳和 分布；山形

だいこんいも※ 中興 北小浦

ながいも 片野尾

やまいも 水津

(ノート)：「えちごいも」越後薯、「えどいも」江戸薯、「だいこんいも」大根薯、「ながいも」長薯、「やまいも」山薯。

269 ナス (ナス科) 茄子、蒂-止血剤

なすび※□ 加茂 岩首 金泉 高千 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野 平松 北小浦 下久知 水津 片野尾 畑野 両津 新町 新穂 赤泊 徳和 羽茂、分布；静岡 愛知 岐阜 富山 石川 福井 京都 大阪 鳥取 島根 岡山 広島 徳島 愛媛 福岡 熊本 宮崎 鹿児島

(ノート)：佐渡では一般に「なすび」という、'び、は接尾語という。

270 ナズナ (アブラナ科) 蔊、蔊達菜、葉茎-止血解熱剤 かわらけな◎

なぞな◎

(ノート)：ナズナは撫づ菜で可愛い菜の意。「なぞな」はナズナの転。「かわらけな」は川柳「行灯にペンペン草の影は藤」にあるように、行灯にナズナを吊るせば夏になって虫が寄り付かないと言う迷信があり、このカワラケは行灯の火皿で行灯そのものを指し、行灯に吊るす草即ちカワラケナとなった。ところで方言カワラケナはタビラコの別名であり、また、タビラコはホトケノザ (コオニタビラコ) とキュウリグサの別名でもある。

271 ナツハゼ (ツツジ科)

かちかち 中興 吉井本郷 長江 下久知

かちはじき 徳和

しょーがま 水津

やまなし※ 沢根 長木 中興 大和田、分布；山口 福岡

(ノート)：ナツハゼは葉が夏季にハゼノキの葉のように紅葉するところから。「かちかち」はこの木材が硬いことに

よる。「かちはじき」はカチカチとハゼの合成語。「しょうがま」は塩釜で塩釜桜の略、その意は「葉まで（漬で）美しい」ナツハゼの紅葉の美しさを懸けている。「やまなし」は実を食べるので山梨である。

272 ナツミカン（ミカン科）

ざぼん 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野 北小浦 新町 畑野 徳和 羽茂

ずぼん※

（ノート）：ナツミカンが佐渡に入ってきた当時はこれをザボンと呼んでいた。ザボンはインドシナ付近の原産という、その名はポルトガル語の Zamboa からという。

273 ナデシコ（ナデシコ科）瞿麦、種子－通便利尿剤  
ところてんばな※ 分布；岐阜

（ノート）：ナデシコは撫子で可愛らしい花の意。「ところてんばな」は子供の遊びで花を摘み、萼筒をつまんでしごとと花卉がトコロテンのように押し出されるところから名付けられる。。

274 ナナカマド（バラ科）

ふじき※ 分布；岩手

（ノート）：「ふじき」は、ナナカマドの複葉の葉を藤の葉に見立てていう。

275 ナラタケ（キシメジ科）

あしもと 羽茂

もとあし 高千 沢根 長江 北小浦 徳和

（ノート）：ナラタケ採りは、次から次と足元で見つかる、それで「あしもと」の名がある。「もとあし」はその言葉の逆転。

276 ナルコユリ（ユリ科）黄精、根－滋養緩和剤

あまどころ※ 高千 沢根 中興 吉井本郷 徳和 羽茂

（ノート）：ナルコユリは一見「あまどころ」に似る。

277 ナワシロイチゴ（バラ科）茎葉－強壯剤

いばらいちご 沢根 中興 立野 北小浦 下久知 片野尾

くさいちご※◎ 分布；山形 岡山

つちいちご※ 大和田 水津 徳和、 分布；島根 山口 高知

（ノート）：「いばらいちご」は蔓に刺があることから、「くさいちご」は茎が樹状に立ち上がり地面を這うので。「つちいちご」は土イチゴで地面を這うので言われる。

278 ニガナ（キク科）黄花草

じしぱり◎ 中興 吉井本郷 下久知 水津 羽茂

（ノート）：「じしぱり」は地下茎が四方に這うことによる。

279 ニセアカシヤ（マメ科）

あかしや 沢根 中興 大和田 吉井本郷 長江 平松

下久知 水津 徳和 羽茂

（ノート）：ニセアカシア（ハリエンジュ）は単に「あかしや」というが、真の Acasia ではない。

280 ニラ（ユリ科）薺、葉茎－止血剤

きんさんにら※□

にんにく※ 中興 立野 北小浦

（ノート）：「きんさんにら」は金山ニラであろう。「にんにく」はこの植物の特有の臭気によりニンニク（大蒜）とよぶ。

281 ニリンソウ（キンボウゲ科）菟葵

いちりんそー※ 中興

ふくべら※◎ 分布；北海道 青森 山形

（ノート）：両者は四枚葉でよく似ているので「いちりんそう」と呼ぶ。「ふくべら」はアイヌ語起源といわれる。

282 ニワウメ（バラ科）郁李、子仁－水腫の薬

こんめ※□ 沢根 中興 吉井本郷 立野 長江 水津 片野尾 新町 羽茂、 分布；伊豆八丈島 兵庫 和歌山 島根 富山 山口

（ノート）：ニワウメはユスラウメと共に「こんめ」（小梅）といわれる。

283 ニワトコ（スイカズラ科）接骨木、花葉－発汗剤、煎液－打撲傷の外用

たずのき※◎ 分布；山口 広島 九州 福岡 宮崎 鹿児島

にわとこ※ 水津、 分布；青森 高知

（ノート）：「にわとこ」は庭ツ五加木がニワツウコギ→ニワツコギ→ニワトコと転訛したものという。「たずのき」は「田鶴の木、で複葉の葉の広がった様が鶴の広げた両翼に見立てたものという。

284 ニンジン（オタネニンジン、チョウセンニンジン）

（ウコギ科）人参、根－健胃強壮解熱利尿食欲不振消化不良嘔吐腹痛下痢

さとにんじん◎

にんじん 片野尾

（ノート）：「さとにんじん」は里ニンジンで園圃で栽培した事による名。

285 ヌルデ（ウルシ科）五倍子、塩麴子、虫嚙（五倍子）－収斂剤

ごまき※□ 分布；北海道 青森 岩手 秋田

ぬるで※ 水津、 分布；宮城 新潟 群馬 長野

ふしのき※◎ 外海府、 分布；青森 秋田 東京 愛知 三重 京都 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知 福岡 熊本 大分 鹿児島

ゆりて※

ゆりて※◎□ 大和田、 分布；高知 愛媛

（ノート）：「ぬるで」は乳木と称し白色の膠質を出し物を

塗ることが出来るので。「ゆりて、ゆりで」はヌルデの転訛。「ごまぎ」は護摩を焚く木の意。「ふしのき」は虫喫ができ五倍子のできる木。

286 ネギ (ユリ科) 葱, 感冒の頭痛薬

きなえ (ネギの苗) ◎ 高千 沢根 中興 大和田 水津 両津

ねぶか※□ 外海府 加茂 岩首 二宮 高千 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野 北小浦 下久知 水津 片野尾 両津 新町 赤泊 徳和 羽茂, 分布; 岩手 宮城 福島 愛知 岐阜 新潟 富山 石川 福井 滋賀 三重 奈良 和歌山 大阪 兵庫 鳥取 島根 岡山 広島 山口 香川 徳島 高知 愛媛 福岡 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島

(ノート): 「きなえ」は葱苗 (キナエ) で葱の苗。「ねぶか」は根深ネギの省略形。

287 ネコヤナギ (ヤナギ科) 水楊, 樹皮-解熱剤

いんによこにゅーにゅー※ 赤泊

いんによこによーによー 長江

いんによこによこ※ 徳和

いんねこ※ 沢根 羽茂

いんねこじょーじょー※ 立野 畑野

いんねこによーによー※ 沢根 平松 水津

いんねこねこ※

いんねこねこのこ※

いんねこばな※

いんのこ※ 二宮 沢根 中興 大和田 畑野, 分布; 鹿児島

いんのこじゅーじゅー※ 畑野

いんのこじょーじょー※ 加茂 中興 立野 高千

いんのこによーによー※ 二宮 沢根 長木 大和田 吉井本郷

いんのこぼーぼー※

いんのこやなぎ※ 分布; 鹿児島

えんここ※

えんころ※ 分布; 富山

おんによこによーによー※

かわやなぎ※◎ 分布; 三重 山口 徳島 香川 愛媛 高知 熊本

かわらやなぎ※ 分布; 三重 山口

にゃきゃん※

にゃんにゃんこ※

ねこねこ※ 高千 下久知 新町, 分布; 新潟 福井 岐阜

ねこねこにゃんにゃん※

ねこねこばな※

ねこねこやなぎ※ 中興 下久知

ねこのめ※ 分布; 新潟

ねこばな※ 分布; 三重

ねこぼぼ※

ねこまた※

ほほやなぎ※

やすもと◎

(ノート): 早春の川岸に芽吹くむネコヤナギの軟毛を着けた花蕾の感触を, ネコとするか犬の子とするかで色々な名前が作られている。「にょうにょう」は坊さんで幼児語, 丸い蕾を坊さんの頭に見立てたもの。「にゅうにゅう, じょうじょう, じゅうじゅう」はその転。「ぼうぼう」は蕾や実などの丸い物の表現。

標準的なものは「いんのこにょうにょう」である。「かわやなぎ」はネコヤナギの方言だが, 別にカワヤナギというヤナギの種類がある。「ねこのめ」はネコノ芽であろう。「ねこぼぼ」はネコの「ぼうぼう」で丸い花芽を指すもの。「ねこまた」は年老いたネコで, 尾が二つに分かれ, よく化かすといわれるが, このねこまたは単なるふざけであろう。「ぼほやなぎ」は花芽のボウボウを着けたヤナギの意。「やすもと」はよく分らないが, ヤナギの真っ直ぐな枝で矢を作ることによるものか, また, 川で魚を捕る際, ヤナギの枝を籍にしたことからか。

288 ネザサ (イネ科)

すずたけ◎

つつたけ (筍) ◎

(ノート): 「すずたけ」は単に細い竹の意。スズタケという笹の種類は, 佐渡に自生しない。「つつたけ」は筒タケ, 笹の竹の子の意。

289 ネズミサシ (ヒノキ科) 杜松, 鼠刺木, 果実-利尿剤 としよー\*◎ 長木 中興 大和田 徳和, 分布; 山形 新潟 静岡

ねず\* 長木, 分布; 岩手 静岡 岐阜 岡山 愛媛 ねずみさし※ 外海府 加茂 高千 沢根 中興 大和田 吉井本郷 立野 長江 平松 北小浦 下久知 水津 片野尾 両津 畑野 赤泊 徳和 羽茂

ひめすぎ※ 中興

(ノート): 「としょう」は杜松でネズミサシの別名。「ひめすぎ」は姫杉。

290 ネナシカズラ (ヒルガオ科) 菟糸子, 種子-強壮剤, 収斂剤

なつゆき※◎

(ノート): ネナシカズラは寄生植物, 「なつゆき」は夏雪で, 黄白色の萼が緑の植物の上に絡みつき雪を被ったように表現したもの。

291 ネムノキ (マメ科) 合歓木, 樹皮-神経性強壮剤

あさねこき 徳和

うしろし※ 外海府 高千 立野 水津

こーか※◎ 加茂 羽茂, 分布; 新潟 兵庫 埼玉 福井 岐阜 静岡 愛媛 愛知 滋賀 京都 大阪 兵庫 和歌山 鳥取 島根 岡山 広島 徳和 高知 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島

こーかのき※□ 中興 大和田 吉井本郷 新町 羽茂,

分布；島根 新潟 滋賀 香川 宮城 福井 岐阜 三重 和歌山 岡山 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島

ところてんばな※ 外海府 二宮

ねぶのき\*◎ 沢根, 分布；静岡 愛知 長野 福井 三重 和歌山 高知

ねんばのき

(ノート)：「あさねこき」はネムノキの葉が閉じて、朝開きがおそいということ。「うしろし」はこの木の枝で牛の鼻環を作ることから。「こうか、こうかのき」は合歓木の漢字の読みによる。「ところてんばな」は、この木の花の、総状の長いオシベをトコロテンに見立てたもの。「ねぶのき」はネムノキの転。「ねんばのき」は眠る葉の木の意。

292 ノウルシ (トウダイグサ科) 沢漆, 葉茎-水腫の薬  
すずふりぐさ※ 分布；三重

(ノート)：ノウルシは佐渡に自生の記録がない。「すずふりぐさ」は花房の状態を鈴に見立てたもの。

293 ノキシノブ (ウラボシ科) 金星草

うらぼし□

(ノート)：「うらぼし」は葉裏の胞子堆を星に擬したもの。

294 ノゲシ (ハルノゲシ) (キク科)

ぼやし※

(ノート)：「ぼやし」は穂屋絮(ホヤジョ)の転、花後の頭花の綿毛を、屋根に葺いたカヤの穂の絮(ワタ)に譬えたものか。

295 ノダケ (セリ科) 前胡, 土当帰, 根-祛痰剤

いおうぜり※◎□

(ノート)：「いおうぜり」は医王芹, 薬草の芹の意。

296 ノビル (ユリ科) 野蒜, 鱗茎-積塊の薬

ひる\* 高千 水津, 分布；関東 岩手 静岡 山口 長崎

のびる\* 片野尾, 分布；熊本

ひるどんぼう 赤泊

ひるどんぼう 羽茂

ひるのどんぼう※

(ノート)：「ひる, のびる」は野蒜。「ひるどんぼう, ひるどんぼう, ひるのどんぼう」は蒜のトンボで、ノビルの花序に着く紫色の珠芽をトンボの目玉に擬したもの。

297 ノブドウ (ブドウ科)

うますいび※ 加茂

ぶす※◎ 高千, 分布；山形 新潟 長野

ぶすぶどー 羽茂

へびぶどー\* 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野 長江 北小浦, 分布；新潟 山口

(ノート)：何れの方言も馬, 蛇, 附子などが付いており、この実は食べられないことを示す。

「ぶす, ぶすぶどー」は「ブス色」の実を着けるブドウの意, 「ブス色」は附子すなわち「トリカブト」の花色で紫青色をいう。内出血をして腫れた皮膚の色や、寒さにふるえる唇の色などで言う。

298 ノリウツギ (ユキノシタ科)

くさうつぎ※ 畑野

くそうつぎ※

(ノート)：「くさうつぎ, くそうつぎ」は草ウツギ, 糞ウツギで花は両性花が多くあまり美しくないことによるものか。

299 バイケイソウ (ユリ科) 藜蘆, 根茎-解熱剤

げりめき※

(ノート)：バイケイソウは梅蕙草, 花は梅の花に葉はシラン(蕙)の葉に似ることによる。有毒植物。「げりめき」は花の香りが人糞の臭気のように、蠅が花に沢山あつまることから。また誤って食べると下痢するの意か。

300 ハウチワカエデ (カエデ科)

もみじ※ 沢根 中興 北小浦 水津 片野尾 畑野 羽茂, 分布；青森 宮城 群馬 山梨 岐阜 広島

はなのき\* 中興 大和田 吉井本郷 立野 北小浦,

分布；青森 岩手 宮城 秋田 山形 新潟 福井

(ノート)：ハウチワカエデはモミジの一種であるが、一般にモミジの仲間を「はなのき」という、しかしハナノキという種類は佐渡に自生しない。

301 ハギ (マメ科) 萩

しょーりゃーばな※

ほんばな 沢根 水津 片野尾

みやぎの※□

(ノート)：「しょうりゃあばな」は精霊花の訛り, 「ほんばな」盆花として仏前に供える。「みやぎの」はミヤギノハギで萩の品種。

302 ハクモクレン (モクレン科) 玉蘭花

もくれん 沢根 中興 大和田 吉井本郷 立野 長江 平松 下久知 水津 畑野 新町 羽茂

もくれんげ※◎ 畑野, 分布；山口

(ノート)：ハクモクレンは白モクレン, 「もくれん, もくれんげ」は本蓮, 木蓮華である。

303 ハゲイトウ (ヒユ科) 老少草, 雁来紅

がんらいこう◎ 中興

がんらいそー

けーとん 水津 片野尾

げりめき※

(ノート)：ハゲイトウは熱帯アジア原産。「がんらいこう, がんらいそう」は秋鴈が飛来して来る頃紅葉して綺麗になるの意。「けいとん」はハゲイトウが鴈頭(ケイトウ)の仲間であることから。「げりめき」は分らない, ハゲイトウと

バイケソウの混同による誤植か。

304 ハコネシダ (ホウライシダ科) 石長生, 全草—産前産後の薬

くろはぎ※◎□ 分布; 石川

(ノート): 佐渡に自生の記録はない。「くろはぎ」は葉を取り除いた茎枝で小箒(玉箒)を作る, これがクロハハキ→クロハギと転訛したものか。または黒はぎは黒脛で葉茎の基部に黒褐色の鱗毛が密生していることによるものか。

305 ハコベ (ナデシコ科) 紫莢, 全草—諸瘡の薬

あさしらぎ※ 外海府 赤泊 羽茂, 分布; 秋田 山形 新潟 富山

あさしらげ※ 徳和, 分布; 山形 石川 愛知 秋田 新潟 福井

はこべ※ 水津 片野尾, 分布; 山口

(ノート): ハコベは古名ハクベラからの転という。漢名の紫莢の莢はよく茂り, 莢はよく伸びる意, そしてハクベラのハクは帛で麗な布, ベラは片で葉片を指し, 二股に分かれる茎の節ごとに對生の葉が着く, これが袴をつけている様でハクベラの名がついたという。「あさしらげ, あさしらぎ」はハコベを日出草といい, 朝, 日の出と共に花が開くのでかく言ふと。

306 ハゼノキ (ウルシ科) 黄櫨, 果実—木蠟, 膏薬の原料  
ちょーじゃのかし※◎ 羽茂

にしきぎ◎

はじ※◎ 分布; 福岡 長崎 鹿児島

はぜ◎ 中興 吉井本郷 下久知 水津

はぜのき 片野尾

(ノート): 佐渡に自生の記録がない。ヤマウルシを指しているものか。「ちょーじゃのかし」は長者の菓子でヤマウルシの実を指すもの。「にしきぎ」は秋の紅葉による名。「はじ, はぜ, はぜのき」はヤマウルシを指しているものと思われる。しかし, ハジの語源はハニ(黄土)またはハニシの転という。またハニシはハニシメ(填締)で木の樹皮を染色に用いることからハニシメ(黄土染)で, ハニシメ→ハニシ→ハジと転訛したものという。

307 ハッカ (シソ科) 薄荷, 葉—薄荷油, 薄荷腦

はっか 片野尾

みずたばこ※

めくすり※

(ノート): 「はっか」は漢名の薄荷のカクカから。「みずたばこ」は水タバコで, タバコに混ざると冷気を感じるので, また「めくすり」は薄荷の葉を臉の上にのせると眼の疲れを癒すと言う。

308 ハナイカダ (ミズキ科)

いばなのき※

いばな※◎ 分布; 滋賀

いばなのき※◎ 長木 徳和 羽茂

さいそーろー◎

(ノート): 葉の真中に花を着け実を結ぶので花筏という。「いばなのき, いばな, いばなのき」は葉の上に着いた丸い実を疣に擬したもの。「さいそろうろ」は採桑老(花屋の偽名という), 雅楽のひとつ, 採桑の翁が杖をついて老衰で歩行に苦しむ様を舞う。すなわち花びらが散って水面に浮かびそれが筏(花筏)のようによろよると続いて流れる様を舞いに擬したもの。ハナイカダとは別の義。

309 ハナズオウ (マメ科) 紫荊

つるむらさき※□

(ノート): 「つるむらさき」は「はなむらさき」の誤植とおもわれる。ハナズオウは花が紫色でハナムラサキの名がある。

310 ハナヒリノキ (ツツジ科) 葉茎—虫殺し

うじころし※ 長木 中興 長江 下久知 片野尾 羽茂, 分布; 山形 群馬 新潟 富山 長野

うまあれ—うつぎ※

(ノート): ハナヒリノキは有毒植物, 葉を揉んで鼻に入るとくしゃみが出る。「うじころし」はこの木を便所に入れて蠅のウジを殺した。「うまあれうつぎ」はドクウツギ同様これを食べた馬は毒に当たって荒れるの意。

311 ハハキモク (ホンダワラ科)

こてづつ

かいふもく

(ノート): 「こてづつ」は小手筒。「かいふもく」海府モクである。

312 ハハコグサ (キク科) 黄花蒿, 鼠麴草, 佛耳草, 葉茎—祛痰剂

おとこよもぎ※ 高千, 分布; 長野 島根

ごぎょう※□ 中興 畑野 羽茂, 分布; 岩手 山口 香川

ちち※

つづみくさ※□

つづみぐさ◎

ねこのみみ※ 羽茂, 分布; 東京 奈良 山口

ねずみのみみ※ 分布; 千葉 静岡 奈良

(ノート): ハハコグサは漢名の繁蒨蒿(ハンハンコウ)→ハハコの転という。「おとこよもぎ」は古くはハハコグサとチチコグサ(天青地白)は区別されなかった, それがオトコヨモギに変化したもの。「ごぎょう」は御形, 仁明帝母(文徳天皇の祖母, 父)の御像を具現したものという。「つづみくさ, つづみぐさ」は黄色い頭花をタンポポに見立てたもの。「ねこのみみ, ねずみのみみ」は白毛を密生した葉を猫や鼠の耳に擬したもの。

313 ハマゴウ (クマツヅラ科) 蔓荊, 果実—強壯清涼剂

はまつばき※

こうぎ 高千

(ノート): 「はまつばき」は濱椿で、常緑の葉を椿に見立てたもの。「こうぎ」は香木でこの木の葉でお香をつくる。

314 ハマスゲ (カヤツリグサ科)

すげ※ 中興 立野 下久知 片野尾, 分布; 岡山

(ノート): 佐渡に自生の記録がない。「すげ」は菅。塊根を肝臓病、婦人病の薬にする。

315 ハマゼリ (セリ科) 蛇牀, 種子-陰痿の薬

はまにんじん※◎ 羽茂, 分布; 山形

やぶじらみ※◎ 分布; 山口

(ノート): 「はまにんじん」は多肉な直根を出すのでニンジンに擬したもの。「やぶじらみ」は種子を虱に見立てたもの。

316 ハマダイコン (アブラナ科)

おこりだいこん◎

(ノート): 「おこりだいこん」は起こり大根で、自然に生じたと言う意。

317 ハマナス (バラ科) 玫瑰花

はまなし 沢根

(ノート): 「はまなし」は果実について濱梨の意。

318 ハマナデシコ (ナデシコ科) 角蒿, 根-発汗利尿剤

うめがえそー◎

なでしこ 片野尾

はまなでしこ※

やまなでしこ 水津

(ノート): ハマナデシコ (フジナデシコ) は佐渡に自生の記録がない。「うめがえそう」は梅が枝草で花のかたちを梅花にたとえたもの、ゲンノショウコの名でもある。栽培品の逸出がある。

319 ハマヒルガオ (ヒルガオ科) 全草-利尿剤

おこりばな※

(ノート): 「おこりばな」は起こり花で自然に萌芽して繁殖するもの。

320 ハマボウフウ (セリ科) 防風, 根-感冒薬, 屠蘇用

いおーにんじん◎

ぼーふー※◎ 長木 中興 大和田 赤泊 羽茂

(ノート): 「いおうにんじん」は医王人参で薬用になることから。「ぼうふう」は防風でハマボウフウ、海岸の砂地に深く根を張り強風に耐えて生育することからの名。

321 バラ (バラ科)

いばら※◎ 分布; 山口 山形 新潟 石川

ちょーしゅん※◎ 分布; 大分 沖縄

(ノート): バラの古名はウマラ, ウバラ, ハナウバラなど。「いばら」は茎に刺があるので。「ちょうしゅん」は長春花 (漢名; 月季花) で中国より渡来したもの。

322 ハリギリ (ウコギ科)

せりのき 中興 北小浦 片野尾

せんのか※ 長木 中興 吉井本郷 立野, 分布; 青森 秋田 静岡 高知

はりぎり 羽茂

(ノート): 「せりのき, せんのか」の語源はアイヌ語起源かといわれる。「はりぎり」は枝条に尖刺が多く、葉が大きく桐に似るところから。

323 ハンゲショウ (ドクダミ科) 半夏生, 三白草

かたしろ※◎ 分布; 山口

(ノート): ハンゲショウの名は半夏生の頃 (夏至から11日目, 7月2日頃) 白い葉を着けるので、また茎の上方2~3枚の葉の下半分が白くなるので半化粧の名がある。「かたしろ」は茎の上方2~3枚の葉が半分白くなるのでいう。

324 ハンゴンソウ (キク科) 劉寄奴草, 全草-産後の薬

おとぎりそう□

やまあさ※ 分布; 北国

(ノート): ハンゴンソウは反魂草で傷を治す薬効によるといわれる。「やまあさ」は葉の形が麻の葉に似るところから。「おとぎりそう」は傷を治す薬効が同じいのでいうものか。

325 ハンノキ (カバノキ科) 榛, 榎

しめばり※◎

はりのき※◎ 中興 大和田 吉井本郷, 分布; 伊豆八丈島 茨城 新潟 富山 石川 長野 静岡 三重 京都 奈良 和歌山 兵庫 山口 香川 愛媛 福岡

(ノート): ハンノキはハリノキの転。「はりのき」は壑 (ハリ) の木で開墾した土地や水田の周辺に植えた木の意といわれる。「しめばり」は湿地のハリノキの意、好んで湿地に生育する。

326 ヒイラギ (モクセイ科) 枸骨

ひいらげ◎ 吉井本郷

(ノート): ヒイラギは疼 (ヒイラゲ) で、葉に刺があり触れると疼痛を感じることによる。「ひいらげ」はその転。

327 ヒカゲノカズラ (ヒカゲノカズラ科) 胞子-石松子, 丸薬の衣

うしのすじわたし※

(ノート): ヒカゲノカズラは日陰の地に生える蔓の意。「うしのすじわたし」は中国では伸筋草, 牛の筋渡して、牛の脚の骨折をこの蔓で縛って治し筋肉を継ぐという意。

328 ヒガンバナ (ヒガンバナ科) 石蒜, 金燈花, 鱗茎-吐剤

きつねのかんざし※ 羽茂, 分布; 茨城 京都

しびとばな※ 高千 沢根 吉井本郷 水津 片野尾 畑野 赤泊, 分布; 宮城 愛知 京都 兵庫 山口 高知 山形 福島 埼玉 新潟 三重 滋賀 和歌山 広

島 徳島 大分

なつすいせん\*◎ 分布;山口

まんじゅしゃげ\*◎ 長木, 分布;京都 高知 茨城  
静岡 和歌山 愛媛

むいなばな※

ゆーれーばな\* 沢根, 分布;千葉 埼玉 広島 山口  
徳島 大分 岡山

(ノート): ヒガンバナはこの花が秋の彼岸の頃咲くことによる。「きつねのかんざし, むいなばな」はこの植物の異様な花形からの呼び名。「しびとばな, ゆうれいばな」はこの植物がよく墓地に生えることによる。「なつすいせん」は夏水仙である, しかし別種にナツズイセンと言うものがある。「まんじゅしゃげ」は曼珠沙華でヒガンバナの別称。

329 ヒサカキ (ツバキ科) 鈴

さかき\* 高千 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷  
立野 長江 北小浦 下久知 水津 片野尾 新町 畑  
野 赤泊 徳和 羽茂, 分布;新潟 石川 茨城 栃  
木 千葉 埼玉 神奈川 八丈島 岡山 山口 香川  
高知 福岡 長崎 熊本 鹿児島

(ノート): ヒサカキは実栄樹 (ミサカキ) の転という。一般に「さかき」といい, 神事に用いる。

330 ヒナギク (キク科) 雛菊

じゃりんそー 中興 大和田 吉井本郷

だるまそー※ 羽茂, 分布;長野

ときしらず※ 水津, 分布;青森 岩手 宮城 秋田  
富山 広島

(ノート): 「じゃりんそう」は車輪草で, 花の形を車輪に擬したもの。「だるまそう」は花茎が低くダルマに擬したもの。「ときしらず」は時知らずで, 花が実を結び種は年中発芽して殖えていくので。

331 ヒナゲシ (ケシ科)

ぐびじんそー\*□ 中興

(ノート): 「ぐびじんそう」は虞美人草でヒナゲシの別称。

332 ヒノキ (ヒノキ科) 檜, 材-扁柏油, 治淋剤

あすなろ 中興 大和田 下久知

ひば※◎ 沢根 中興 立野 畑野 徳和 羽茂,

分布;青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島 東京 和歌山

(ノート): ヒノキの語源は「火の木, (火を起こす木), または「日の木, 霊の木, (貴い最高の木) などがある。佐渡ではヒノキを一般に「あすなろ」また「ひば」(桧葉) という。

333 ヒマワリ (キク科) 向日葵

ひぐるま※ 中興 下久知, 分布;北海道 山形 富山

石川 福井 長野 静岡 滋賀 大阪 奈良 和歌山  
島根 広島 山口 徳島 香川 愛媛

ひまわり\* 水津 片野尾, 分布;江戸

(ノート: 「ひぐるま」は日車, ヒマワリの別称。

334 ピーマン (ナス科)

あまなんばん\* 高千 沢根 中興 大和田 吉井本郷  
立野 長江 北小浦 下久知 水津 畑野 赤泊 徳和  
羽茂, 分布;茨城 新潟 石川 山梨 長野 愛媛  
なんばん 片野尾

(ノート): ピーマンはpiement (仏), 西洋唐辛子。「あまなんばん」は辛味のないナンパンの意。「なんばん」は南蛮カラシ。

335 ヒメヤシャブシ (カバノキ科) 姫夜叉五倍子, 果実-染料

はげしぼり\* 分布;秋田 東京 富山 石川 福井 岐  
阜 静岡 近畿 愛知 兵庫 中国 愛知 高知 熊本  
大分

(ノート): 「はげしぼり」は禿げ縛りで, 山地の崩壊地などに生え, 土留めの役割をしている。

336 ヒメハギ (マメ科) 遠志, 根-祛痰剤

すずめはぎ\*◎ 分布;東国 東京

(ノート): 「すずめはぎ」は雀萩, 山野の草地に生える小草である。

337 ヒユ (ヒユ科) 莧

ひよくさ (古) ※

ひょー\*◎□ 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 立  
野 羽茂, 分布;東国 東京 京都 福井

(ノート): 「ひよくさ, ひょう」はヒユの転。畑の雑草として普通に見られるものはイヌビユである。古くはこれを採取して食糧とした。

338 ヒョウタン (ウリ科) 瓢箪

つぶろ※ 徳和

(ノート): 「つぶろ」は円ら (ツブラ) の転。

339 ヒョウタンボク (キンギンボク) (スイカズラ科)

うぐいすやぶ※

ふたごやぶ※

ふたごほづき◎

(ノート): 花は始め白色で後に黄色くなるのでキンギンボクという, 果実は二個接して成るのでヒョウタンボクという, 猛毒でドクウツギ (秋田), フタコロビ (越後, ふた粒で死ぬ) などの方言がある。

「うぐいすやぶ」は鶯薺, ウグイスカグラという近縁種があるがその名を模したもの。「ふたごやぶ」は双子薺で二個接している実を擬したもの。この木は枝が叢生し薺をなす。「ふたごほづき」は赤熟した双子の実をホウツキに模したもの。

340 ヒルガオ (ヒルガオ科) 鼓子花, 全草-利尿剤

あめふりばな※◎ 分布;青森 岩手 秋田 宮城 ※



群馬 栃木 新潟 山形 福島 埼玉 長野  
つんぶーばな中興 大和田  
つんぽーばな※ 沢根 赤泊 徳和  
つんぽばな※ 加茂 二宮 沢根 北小浦 水津 片野尾  
知野  
みみつんぽ※

(ノート): 「あめふりばな」はヒルガオは昼間に咲く花で雨降りでも咲くという意。「つんぶうばな, つんぼうばな, つんぽばな, みみつんぽ」は花の形が漏斗状であるがこれを壺形の花ツボバナとしてツンボバナに転訛したものか, または, この植物の蔓を切ると白い乳汁が出る, これを耳に入れると聾になるという謂われがあるものか。

341 ヒルムシロ (ヒルムシロ科) 眼子菜, 根-解毒剤  
くちあけ※

つばきば※ 吉井本郷 下久知  
ひるむしろ 片野尾, 分布; 畿内 北越

(ノート): 「ひるむしろ」は蛭筵で蛭の居場所とする説, また葉の形を蛭に見立てて筵を敷いたように生えているという意。「くちあけ」は葉の形を人の顔に見立て口を開けた様に擬したもの。「つばきば」は椿葉で光沢のある葉を椿に見立てたもの。

342 ヒロハノヘビノボラズ (メギ科) 小葉, 根皮-収斂強  
壯下剤

めっき※  
きはだいばら□

(ノート): 「めっき」はメギ, 目木の転, 眼病の薬にした。ヘビノボラズは葉柄の基部の托葉が鋭い刺になっており蛇が登れないと言う意。「きはだいばら」は幹の内皮が黄色いのでいう。

343 ビワ (バラ科) 枇杷, 葉-健胃剤, 消暑剤

びや 加茂 二宮 長木 中興 大和田 北小浦 片野尾  
赤泊 徳和 羽茂

(ノート): 「びや」はビワの転。

344 フキ (キク科) 款冬花, 葉-鎮咳剤

ふきんじーさん (花蕾) 加茂

やまぶき\*◎ 分布; 三宅島 長野 愛媛 熊本

(ノート): フキは古名フフキの省略形という。語源はハヒロクキ (葉広茎), ヒロハクキ (広葉茎), ハオホキ (葉大草) などの説がある。また大形の葉は傘代りになり葺くからフキに転化したとも謂う。また用便の拭きから名付けられたという説がある。「ふきんじいさん」は薔の花蕾すなわちフキの莖である。「やまぶき」は山路で, 山地に生える野生のもの。

345 フシスジモク (ホンダワラ科)

てんつ 外海府 高千  
てづつ

(ノート): 「てんつ, てづつ」は手筒 (テツツ), ホンダワ

ラの代用。

346 フジナデシコ (ナデシコ科) 角蒿, 種子-通経利尿剤  
うめがえそー◎

(ノート): 「うめがえそう」は梅が枝草で花が梅に似ることからいう。

347 フジマメ (マメ科) 藎豆

いんげんささげ (古) 中興 北小浦

ふじまめ 片野尾, 分布; 江戸

(ノート): 「ふじまめ」はインゲンマメの仲間で紫花品をいう, 種子は暗色で漢名を藎豆という。

348 フダンソウ (アカザ科)

なつな 加茂 中興 大和田 立野 片野尾 羽茂,

分布; 北海道 青森 岩手 秋田 山形 福島 栃木  
新潟 山梨 大阪 島根 岡山 徳島 愛媛

ふだんそー 中興

(ノート): 「ふだんそう」は不断草で年中収穫できると言う意。「なつな」は夏菜で真夏でも収穫できる意。

349 ブドウ (ブドウ科) 葡萄

ぶる 金泉

(ノート): ブドウの語源は西域土語のbudawに由来し, 漢字に葡萄を当てた。「ぶろ」はブドウの訛り。

350 ベンケイソウ (ベンケイソウ科) 景天, 弁慶草, 葉-  
腫瘍に貼付

いきくさ\*◎ 分布; 山口 山形

(ノート): ベンケイソウは弁慶草で多肉の葉が, なかなか枯死しないことから, 弁慶の立ち往生の故事に因んだものという。「いきくさ」は枯れてもまた生き返ることによる。

351 ホウキギ (ハハキグサ) (アカザ科) 地膚, 果実-利尿  
剤, 淋病の薬

ほーきぼ※ 長木, 分布; 北海道

ほーきぼー※□ 二宮 沢根 中興

(ノート): ホウキギは中国より渡来, 掃き葉木 (ハキハギ) の転という。「ほうきぼ, ほうきぼう」は箒穂で帚を作る穂の意。

352 ホウキタケ (ホウキタケ科)

ねずみたけ\* 中興 長江, 分布; 京都 栃木 山梨  
香川 岐阜 静岡 大分 鹿児島

(ノート): ホウキタケは菌体が箒状であるところから。「ねずみたけ」は箒状の菌体の先端が鼠色で鼠の足に似るからという。

353 ホオノキ (モクレン科) 厚朴。樹皮-膨満腹痛

ふー\* 分布; 福島 新潟 群馬

ふーのき※ 分布; 福島 大分 宮崎 佐賀 熊本

ほー\* 高千 分布; 岩手 秋田 新潟 栃木 静岡

岐阜 三重 奈良 広島 香川 大分 宮崎 熊本  
ほーのき 高千 沢根 中興 大和田 吉井本郷 立野  
北小浦 下久知 水津 片野尾 畑野 新町 赤泊 徳  
和 羽茂

(ノート): ホオノキの語源は漢名厚朴の中国名 “huo-po” からという。またホウは包で食物を盛ったから、または冬芽が頬を膨らませた様を言うといわれる。「ふう、ふうのき、ほう、ほうのき」はホオノキの訛語。

354 ボケ (バラ科) 木瓜, 果実-止瀉剤

やまもも※ 加茂 徳和

(ノート): ボケは漢名を木瓜, その読みのモクカの転でモケ→ボケであるという。「やまもも」はボケの花や果実を山桃としたもの。

355 ホザキノフサモ (アリノトウグサ科) 牛尾藪

かわも◎

きんぎょも

(ノート): 夏秋の頃、水面に穂状の花穂を出すのでホザキノフサモという。「かわも」は川藻, 「きんぎょも」は金魚藻で、生えている場所や用途で名付けたもの。

356 ホタルブクロ (キキョウ科)

ちょーちんばな※ 高千 中興 吉井本郷 下久知 水津  
片野尾 新町 赤泊 徳和, 分布; 青森 群馬 栃木  
千葉 東京 新潟 長野 岐阜 静岡 三重 奈良 岡山  
山口 愛媛 鹿児島

とーとーぶくろ 羽茂

(ノート): ホタルブクロは花筒に蛍を入れて遊んだもの、または火垂れ袋で、提灯を表すといわれる。「ちょうちんばな」は花の形を提灯に見立てたもの, 「とうとうぶくろ」は燈々袋で提灯をいう。

357 ボタンツル (キンボウゲ科)

もえんざ※

(ノート): ボタンツルは葉が三出の複葉で牡丹の葉に似るところから。「もえんざ」はよく分らない。茂右エ門左だろうか。若葉を採食したものか。

358 ホンダワラ (ヒバマタ科) 全草-解凝性利尿剤

ぎばさ(古)※ 片野尾 水津 畑野 赤泊 羽茂,

分布; 新潟 岡山

ぎんばそー\* 高千 沢根 吉井本郷 立野 長江 平松  
下久知 両津 畑野 新町, 分布; 山形 岡山

じんばそー\* 長木 中興 大和田, 分布; 島根 山口  
新潟

なのりそ

ほだわら(古)※

ほんだら(古)※ 沢根

(ノート): ホンダワラはホダワラ(穂俵)の転, 浮袋の形を俵に見立てる, また採取して乾燥したものを薬しべで米俵の形に作ると言う。「じんばそう」は神馬藻で, 神功皇后

が異国へ出兵の際, 船中, 馬の秣がなくなり, 海中より藻を採って飼料としたという故事による。「なのりそ」は“な乗りそ”で神馬だから乗ってはいけないと言う意。「ぎばさ, ぎんばそう」はジンバソウの転訛。「ほだわら, ほんだら」はホンダワラの語源の訛り。

359 マクワウリ (ウリ科) 真桑瓜, 甜瓜, 未熟果の蒂-甜瓜蒂(苦丁香)-催吐剤(瓜蒂散)

あじうり\*◎ 徳和, 分布; 北海道 青森 岩手 宮城  
秋田 山形 新潟 京都 滋賀 和歌山 鳥取 島根  
岡山 広島 山口 香川 福岡 佐賀 熊本 大分

あまうり\* 中興 大和田 立野 北小浦 下久知 水津  
片野尾 畑野 新町 羽茂, 分布; 北海道 岩手 宮城  
秋田 山形 福島 群馬 埼玉 新潟 富山 石川  
福井 長野 京都 兵庫 広島 福岡 佐賀 長崎 大分 宮崎

ちんみょー□ 分布; 山口 佐賀

(ノート): マクワウリの名称は生産地の岐阜県真桑村によると言われる。「あじうり, あまうり, ちんみょう」はそれぞれ味瓜, 甘瓜, 珍妙である。その味が優れていることによる。

360 マコモ (イネ科) 菰, 真菰墨(烏鬱)-油に混じり黒色顔料-眉毛を書く

かつぼー\* 中興 大和田, 分布; 新潟

こものみ

(ノート): マコモは真菰(菰)で, 菰を編むのに稲作をするようになってからは稲藁を材料にするが, それ以前はこのコモを用いた, それでマコモ(真こも)と言われるという。「こものみ」は菰の実で食用にする。「かつぼう」はこの実を食糧にするところから糧実カテミ→カツミと転訛し, 実をつける穂でカツホがカツボウとなったもの。マコモは実と共に若い茎の芯も食べる。

361 マダケ (イネ科) 苦竹

にがたけ◎ 二宮 中興 羽茂

(ノート): 「にがたけ」はマダケの筍には少々のかくがあって苦味があるので苦竹という。

362 マタタビ (マタタビ科) 藤天蓼, 木天蓼, 花の虫喰-疝氣強壯

またび

わたたび(古)※□ 北小浦

(ノート): マタタビは長旅で倒れた人がこの実を食べたら元気になってまた旅を続けたのでマタタビであるという, またこの実の形に長いものと平たいものの二形があるのでマタツミからマタタビになった, この他にアイヌ語の matatampu からマタタビとなるなどがある。「またび」はこの転。「わたたび」は古名で悪爛れ実(ワルタダレミ)の転という, “ワル” は辛い意, “タダレ” は蓼の意でこれがワタタビ→マタタビと転訛したものという。

363 マツバイ (カヤツリグサ科)

うしこーげ 中興

こーげ\* 大和田 北小浦 羽茂

(ノート): 「こうげ」は小毛で短小なマツバイが一面に密生している様を言う。「うしこーげ」はマツバイの密生している様を牛の毛に見立てたもの。

364 マツバボタン (スベリヒユ科)

かやぼたん 中興

からぼたん※ 吉井本郷 羽茂

(ノート): マツバボタンは南米原産、一年草、弘化年間に渡来。葉を松葉に花を牡丹に見立てたもの。「かやぼたん」はこの植物は乾燥に強いので茅葺の屋根などにも生える、それをカヤボタンとしたものか。「からぼたん」は唐ボタンである。

365 マツブサ (マツブサ科) 松房、北五味子、蔓莖-浴湯料

はつぶどー□

まつぶどー\*◎□ 新穂 長木 大和田 吉井本郷 立野 片野尾 羽茂、分布; 青森 長野 愛媛 高知

(ノート): マツブサは松房で松の匂いのする蔓植物で房状に紫黒色の実が着く。「はつぶどう」は髪葡萄酒でサネカヅラ (ビナンカヅラ) の代用品としてその樹液で髪を癖直しをしたものか。「まつぶどう」は松の匂いのある実の房を名付けたもの。

366 ママコノシリヌグイ (タデ科) 蝦蟇面搔、杜板帰

こんべとばな※ 高千 羽茂

(ノート): ママコノシリヌグイは逆刺のある莖で継子の尻拭いをするの意。「こんべとばな」は花序の形をコンペトウに擬したものの。

367 マムシグサ (サトイモ科) 根-鎮痙祛痰剤

へびのたつ 平松

へびのだいおー※◎

へびのでいはち\* 中興 片野尾 徳和 羽茂、分布; 長野 山形 三重

(ノート): マムシグサは莖の模様をマムシに見立てたもの。「へびのたつ、へびのだいおう、へびのでいはち」は擬人化してそれぞれ蛇の辰 (龍)、大王、大八である。

368 マメガキ (シナノガキ) (カキノキ科) 君遷子

めめがき※ 加茂 高千 長木 中興 大和田 平松 北小浦

めーめーがき 吉井本郷

(ノート): マメガキは豆柿で実が小さい。「めめがき、めーめーがき」はマメガキの転。

369 マユミ (オオバマユミ) (ニシキギ科) 衛矛、檀

しろおとこ※ 片野尾

しろこのき◎ 吉井本郷

(ノート): マユミはこの木で弓を作るところから真弓であると、また実が爆せて中から種が出てぶら下がる、その実の形が繭の形であるのでという。「しろおとこ、しろこのき」は樹皮が白っぽいところから。

370 マルメロ (バラ科) 樺梔、種子-粘漿剤

あんらく※ 長木 中興 羽茂

かりん※ 加茂 中興 吉井本郷 立野 水津 畑野、分布; 山形 山梨 長野

(ノート): マルメロは西アジア原産、寛永11年に渡来、カリン (檳榔、中国原産) とは別種。マルメロ、カリンを区別せずカリンと呼ぶ。マルメロの果実は、やや不整形で綿毛がある。「あんらく」は神社などに植えてあるカリンで、アンラン樹と称しこれが転化したもの。

371 マンサク (マンサク科)

ししはらい※ 分布; 新潟 長野

ししはり※

ししはれー※

ししゃらい※

ししゃれー 中興 大和田

(ノート): マンサクは早春の山地で咲く花木である。マンサクは沢山の花を着けるので豊年満作のマンサクであるという、また早春真っ先に咲くので、まずさくの転ともいう。「ししはらい」は (猪払い) で、これらの方言の基本形で、若い茎枝が強靱なことから名付けられる。山で薪を採取するとき、刈り取った 'ほえ' (穂枝) を束ねる 'ねじき' にする、ネジキにはこの外クロモジ、リョウブ、ヤマモミジ、ガマズミ、ムシカリ、ナツハゼ等も用いる。

372 ミクリ (ミクリ科) 黒三稜

つくも◎

(ノート): ミクリは実栗で、果球が栗のいがに似るところから。「つくも」はフトイ (莞) の別名。ミクリをフトイに見立てたもの。

373 ミズアオイ (ミズアオイ科) 浮蓐

かにかにくさ※

かにかにぐさ※

こなぎ 中興

さわぎきょー※◎

なぎ\*◎ 分布; 宮城 新潟

みずあおい\* 片野尾、分布; 東国

(ノート): ミズアオイは佐渡に自生の記録がない。コナギの錯誤であろう。「みずあおい」は水葵で水に生ずる葵葉の草の意。「なぎ」は菜薹 (ナギ)、この葉を茹でて食用にした。「こなぎ」は小菜薹。別種にコナギというものがある、方言ツバクサという。「さわぎきょう」は澤桔梗で、花を桔梗に擬したもの。「かにかにくさ、かにかにぐさ」の 'かにかに' はカンカンで響の幼児語、ミズアオイの花を響にして遊んだもの。

374 ミズナラ (ブナ科)

おーなら\* 分布;青森 岩手 秋田 新潟 石川 茨城  
東京 静岡 高知

はくなら 北小浦

みずなら\* 沢根 中興 大和田 吉井本郷 長江 下久  
知 片野尾 徳和 分布;北海道 宮城 新潟 栃木  
山梨 静岡 岐阜 岡山 広島 高知

(ノート):「みずなら」はその材に多量の水を含み燃えにくいことから。「はくなら」は老木になると樹皮が白っぽくなり薄く剥がれやすくなる。「おおなら」は葉も大きく大木になるので。

375 ミズバショウ (サトイモ科)

やまな※

(ノート): ミズバショウは水湿地に生え、葉が芭蕉の葉に似ている。「やまな」は山菜で軟らかい葉をいう。

376 ミズヒキ (タデ科) 毛蓼

みずひきしょうま◎ 水津

(ノート): ミズヒキはその花穂を水引に見立てたもの。「みずひきしょうま」は水引升麻で草丈が上に伸びるので升麻に擬えたもの。

377 ミスミソウ (ユキワリソウ) (キンポウゲ科)

樟耳細辛 葉茎-肝臓病

こぶしばな※

じざくらばな※ 外海府 高千

ちざくら※

ゆきわりそー 外海府 沢根 長木 中興 吉井本郷 立  
野 長江 平松 北小浦 片野尾 両津 畑野 赤泊  
羽茂

(ノート): ミスミソウは三角草でその葉形に基づくという。「ゆきわりそう」は早くも雪中に開花することによる。「こぶしばな」は花蕾の形を拳に見立てたもの。「じざくらばな、ちざくら」は地桜で地面で咲く桜のような綺麗な花の意。

378 ミゾソバ (タデ科) 牛面草、牛扁

うしのひたい※◎□ 中興 分布;山形 東京 新潟  
静岡 山口 長崎 鹿児島

うしぶたい※ 分布;新潟

(ノート): ミゾソバは水溝に咲く蕎麦の意。「うしのひたい、うしぶたい」は牛の額で葉の形を牛の顔に擬したものの。

379 ミソハギ (ミソハギ科) 天竺花、鼠尾草、莖葉-収斂  
剤、下痢止め

しょーりゃーばな 羽茂

ぼんばな\* 外海府 高千 沢根 長木 大和田 吉井本  
郷 北小浦 水津 畑野 赤泊 徳和

ぼんばら 片野尾

(ノート): ミソハギはお盆に仏に供える花である。ミソハギの語源はミソギハギ(禊祓)の転訛であるという。この

花穂で供物に水をかけミソギ(禊ぎ)に用いる。「しょうりゃーばな」は精霊花で仏に供える花の意。「ぼんばな、ぼんばら」は盆花でお盆に仏に供える花の意。

380 ミツバ (セリ科) 野蜀葵

みつばぜり\*◎ 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷  
立野 長江 赤泊 徳和 羽茂 分布;群馬 新潟  
福井 山梨 長野 和歌山 鳥取 島根 岡山 山口  
高知 長崎 熊本 大分 宮崎

(ノート): 葉は三枚の小葉からなるのでミツバ。「みつばぜり」は芹の香がするのでミツバゼリである。和名はミツバであるが一般にはミツバゼリという。

381 ミツバウツギ (ミツバウツギ科)

くろごめごめ※ 外海府

(ノート): 葉が三小葉の複葉でミツバウツギという。「くろごめごめ」は黒コメコメで沢山着ける白花を米粒に見立てたもの。ムラサキシキブは「しろごめごめ」と区別する。ミツバウツギは若葉を食糧にし、材は丈夫で箸、串、木釘の材料にする。

382 ミヤコグサ (マメ科) 百脈根

こがねばな◎

(ノート): ミヤコグサは都草で、昔、京の都の大仏前の耳塚あたりに、沢山あったので都草の名となったという。また百脈根のうちの脈根草ミヤコグサからミヤコグサに転訛したとも言う。「こがねばな」は黄金色の花色に基づく。

383 ミヤマビャクシン (ヒノキ科)

しんぱく 長木 中興 大和田 下久知

(ノート): ミヤマビャクシンは深山柏楨である。「しんぱく」は楨柏でこの別名。

384 ムクゲ (アオイ科) 木槿、白花-健胃利尿剤

はちす\* 長木 分布;東国 茨城 群馬 埼玉 東京  
神奈川 長野

むくで※ 二宮 羽茂 分布;石川 徳島

もくげ◎ 二宮 高千 沢根

(ノート): ムクゲは木槿の中国名mu-chin、朝鮮名mu-kun-hoaからという。「はちす」は古名のキハチス(木蓮)から、花が蓮の花と同様に一日で凋落するところからという。「むくで、もくげ」はムクゲの訛り。

385 ムクロジ (ムクロジ科) 無患子、木欒子、種子-口具  
をとる、羽根突きの黒球

くろもじ※ 沢根 平松 両津

くろもんじ□

つぶ\*◎ 分布;京都 奈良 和歌山 岡山 愛媛

もくげじ※

もくれんじ\* 中興 大和田 分布;秋田 栃木 群馬  
千葉 静岡

(ノート): ムクロジは漢名の無患子ムクロジから。「くろ

もじ、くろもんじ」は丸くて黒い種子による名。「つぶ」は種子が黒くて丸いところから。「もくげんじ、もくれんじ」は漢名の本欒子を誤用したためという。

386 ムラサキシキブ (クマツヅラ科)

ごめごめ※ 分布;三重 兵庫 和歌山 鹿児島

しろごめごめ※ 外海府

(ノート): ムラサキシキブは綺麗な紫果を着ける木を、才媛の紫式部の名を借りて美化したもの。「ごめごめ、しろごめごめ」は枝に着けている小さな実を米粒に擬したもの。シロゴメゴメはミツバウツギのクロゴメゴメとの区別による。材は箸、串、木釘の材料。

387 メギ (ヒロハノヘビノボラズ (メギ科) 根皮-収斂強 壯下剤

めっき※

(ノート): メギは目木で、煎汁で目を洗うので。「めっき」はメギの転。

388 メドハギ (マメ科) 若芽:利尿、解熱剤

いぬとりぎ※

いんとりぎ※

おとこはぎ※◎

(ノート): メドハギは筮 (メトギ) 萩にもとづく。本来ノコギリソウ (キク科) を箸占いの筮につかうが、これを代用品とする。「いぬとりぎ、いんとりぎ」は犬とりぎで偽のトリギの意。トリギはメトギをいう。

「おとこはぎ」は男萩で美しい花を着けないところから。

389 メハジキ (シソ科) 莞薺, 種子-痛経剤

やくもそー\*□ 分布;静岡 和歌山 鹿児島

やぐさ

(ノート): メハジキは目弾きで茎を短く切って脇に挟み目を閉じて弾き飛ばす遊びからという。「やくもそう」は益母草で全草を乾燥して産前産後を癒すのに用いる。「やぐさ」は茎葉が数個に裂け、矢じりの形をすることから。

390 メヒシバ (イネ科) 升馬唐, 拌根草

しじばり※ 中興 下久知

そーめんぐさ※ 分布;新潟

とーげ※ 大和田 沢崎 水津 片野尾

とーげぐさ※

ひー※

ひーぼーき

(ノート): メヒシバは雌日芝で陽地によく繁茂する。「しじばり」は繁張りて地面に隙間なく繁茂する意。「そうめんぐさ」は数個の細い穂をソウメンに見立てたもの。「とーげ、とーげぐさ」は莖毛で、細い数本の穂を着けた花茎の伸びた草をいうものか。「ひい、ひいぼうき」は稗箒でこの草の穂を稗に模したもの。

391 モクレン (モクレン科) 玉蘭花

もくれんげ※ 分布;山形

(ノート): 「もくれんげ」は木蓮花である。

392 モチノキ (モチノキ科) 冬青, 樹皮-烏もち

あおき◎ 沢根 中興 下久知

もちのき\* 二宮, 分布;八丈島 高知

(ノート): 「もちのき」は樹皮から烏もちを作ることによる。「あおき」は常緑の葉を着けるので。

393 モッコク (ツバキ科) 木斛

たまつばき※ 沢根 中興 吉井本郷 下久知 両津

(ノート): モッコク (木斛) は花の匂いがセッコク (石斛) に似るところから木斛となづける。

394 モミ (マツ科) 樅

とがまつ※ 沢根

もみ\* 水津 片野尾, 分布;岩手 宮城 栃木 三重

奈良 大分 宮崎

(ノート): 「もみ」は樅、その語源は不明という。「とがまつ」はトガ (ツガマツ) で別種。両者名を錯誤している。

395 モミジイチゴ (バラ科)

きいちご\* 高千 沢根 中興 平松 下久知 水津 畑

野 赤泊, 分布;岩手 山形 栃木 群馬 埼玉 東京 静岡 長野 福井 三重 和歌山 岡山 高知 愛媛 福岡 大分 熊本 鹿児島

さがりいちご※ 北小浦 羽茂, 分布;青森 埼玉 新潟 富山 石川 福井 静岡 愛知 奈良 島根 山口 愛媛 高知

やまほーずき※ 片野尾 畑野

(ノート): モミジイチゴは葉がモミジ葉で付けられた名。「きいちご」はその別名。「さがりいちご」は実が垂れ下って着くから。「やまほうずき」は実をホウヅキに擬したもの。

396 モミタケ (キシメジ科) 樅茸

さまつ 高千 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 立野 下久知 畑野

にぎりたけ◎

(ノート): 「さまつ」はマツタケに似た大形の茸。香りが無いのでアサマツ→サマツである。「にぎりたけ」は茸が太い菌柄をもつので名付ける。

397 モモ (バラ科) 白毛の蕾-下痢, 種子-瘀血の薬

けもも\*◎ 立野 新町

ふげもも 大和田

(ノート): モモの語源は「百」また「実実」だという。モモは果実の総称とすることもある。「けもも」は果実の皮に沢山の毛が生えているので、桃はケモモ、李はスモモと言いつ方を区別していた。「ふげもも」フゲはヒゲ (鬚) である、即ち毛モモである。

398 モロコシ (イネ科) 蜀黍

たちきび※ 長木, 分布; 山形 新潟

とーきび※ 分布; 北海道 秋田 神奈川 新潟 長野  
岐阜 静岡 愛知 三重 滋賀 大阪 京都 奈良 兵  
庫 和歌山 鳥取 岡山 広島 山口 香川 福岡 佐  
賀 長崎 宮崎

(ノート): 「たちきび」は立ち黍で稈高2m内外, 高黍の  
名がある。「とうきび」は唐黍, 天正年間に渡来する。原産  
地アフリカ。

399 ヤクシソウ (キク科)

つばくらな※◎

(ノート): ヤクシソウ 朝鮮語の野苣菜(ヤクチャイ)の  
転訛という。「つばくらな」は葉の基が二つに分かれて茎  
を抱く様をツバクロ(ツバメ)の尾に見立てたもの。

400 ヤダケ (イネ科)

しのだけ◎ 二宮 高千 沢根 長木 中興 大和田 吉  
井本郷 北小浦 下久知 水津 片野尾 新町 赤泊  
徳和

(ノート): ヤダケは矢を作る竹の意。この竹で矢を作る。  
シノダケは別種であるが佐渡ではヤダケをシノダケとよ  
ぶ。

401 ヤツガシラ (サトイモ科)

とーいも※ 沢根 長木 中興 吉井本郷 立野 長江  
水津 片野尾 両津 新町

(ノート): ヤツガシラはサトイモの一種である。「とうい  
も」もサトイモの一種であり, 別物であるが混同する。

402 ヤブガラシ (ブドウ科) 五爪龍, 根-癰腫

びんぼーづる\*◎ 分布; 大阪

(ノート): ヤブガラシは蔓植物で他物に絡んで成長する,  
それで蔓枯らしである。「びんぼうづる」もこの植物が繁  
茂すると他の植物が枯れ貧乏するの意。

403 ヤブカンゾウ (ユリ科) 萱草

かんぞー\* 長木 水津 片野尾, 分布; 宮城 福島  
岡山 山口 福岡 鹿児島

きぼきな

きぼきな※□

(ノート): 「かんぞう」は萱草。「きぼきな, きぼきな」は  
擬宝葱葉で花蕾をネギ坊主に見立てたもの。

404 ヤブコウジ (ヤブコウジ科) 平地木, 紫金牛

ちょーじゃのかし※◎□ 赤泊 羽茂

やまたちばな\*◎ 分布; 石川

(ノート): ヤブコウジは藪柑子で赤い実を柑子(甘い実)  
に擬したもの。「ちょうじゃのかし」は赤い実を長者の菓  
子とした。「やまたちばな」は山橋でカラクチバナ(唐橘)  
に擬えたもの。

405 ヤブソテツ (オシダ科) 貫衆, 根茎-婦人病

きじのお

(ノート): 「きじのお」は雉の尾に擬したシダの種類, し  
かし別種である。

406 ヤブタバコ (キク科) 天名精, 葉-祛痰剤

うらじろ※◎ 中興 下久知 水津 畑野

(ノート): 「うらじろ」はヤブタバコの葉裏が細毛で白い  
ことによる。

407 ヤブラン (ユリ科) 麦門冬, 根球-粘滑性消炎剤, 鎮  
咳強心強壯利水剤

じょーがひげ\* 分布; 関西 四国 泉州

やぶらん□

やます

やますげ□

(ノート): 「じょーがひげ」は能面の尉の顎毛にたとえた  
もの。「やぶらん」は藪蘭でランの花に見立てたもの。「や  
ます, やますげ」は山菅でスゲに見立てたもの。

408 ヤマアジサイ (ユキノシタ科)

あずきうつぎ※

あんさうつぎ※

あんさばな※ 水津

(ノート): ヤマアジサイは太平洋側に分布するもので, 佐  
渡に自生するものは, 日本海側に分布する変種のエゾアジ  
サイというものである。「あずきうつぎ」は繖房花序の両  
性花を小豆に見立てたものか。「あんさうつぎ, あんさば  
な」のアンサはアジサイの転訛。

409 ヤマウルシ (ウルシ科)

きうるし※ 高千 大和田 立野 長江

くさうるし 水津

やまうるし\* 片野尾, 分布; 岩手 宮城 神奈川 愛  
知 三重 奈良

(ノート): 「やまうるし」は山漆。漆液は経済的には採れ  
ない。「きうるし」は本漆。「くさうるし」は草漆で本漆で  
ないという意。

410 ヤマゴボウ (ヤマゴボウ科) 商陸, 根-利尿剤, 下痢,  
水腫

とーごぼー※◎ 分布; 岩手 長野 山形

(ノート): 「とうごぼう」は唐ゴボウの意。

411 ヤマザクラ (バラ科)

かんば※ 下久知 水津, 分布; 青森 岩手 秋田 岐  
阜 静岡 高知

(ノート): 「かんば」はカニハの転。ヤマザクラの別名。

412 ヤマトアオダモ (モクセイ科)

しろたもぎ※

(ノート): 「しろたもぎ」は樹皮が淡褐色のヤマトアオダ  
モを灰褐色のアオダモと区別する名前。

413 ヤマナラシ (ヤナギ科) 白楊

こぶやなぎ◎

どろ\* 高千 大和田, 分布;新潟 茨城 栃木 埼玉  
長野 兵庫 鳥取 岡山 島根

どろやなぎ\* 片野尾, 分布;山形 栃木 新潟 長崎  
やなぎ◎

(ノート): ヤマナラシは葉が風でヒラヒラ動き、互いに触れて音を立てる意。「こぶやなぎ」は老木の樹皮に瘤状の模様が生じる。「どろ、どろやなぎ」はドロヤナギ (別種) に似るので名付けるもの。材は両者共に軟弱。「やなぎ」はヤナギ (楊)。

414 ヤマノイモ (ヤマノイモ科) 薯蕷, 根—滋養強壮剤

いもご (むかごいも) 二宮

じねんじょ\* 長木, 分布;千葉 富山 和歌山

だいこんいも 二宮

やまいも\* 高千 沢根 中興 大和田 吉井本郷 立野  
長江 平松 北小浦 下久知 水津 畑野 新町 赤泊  
徳和 羽茂, 分布;岩手 宮城 千葉 東京 神奈川  
静岡 奈良 島根 山口 福岡 長崎 熊本

(ノート): 「いもご」はムカゴ薯, 薯の肉牙。「じねんじょ」は自然薯。「だいこんいも」は大根薯。「やまいも」は山薯。

415 ヤマハンノキ (カバノキ科)

はりのき※ 中興 大和田 吉井本郷 北小浦 下久知,  
分布;長野 静岡 大阪 兵庫 和歌山 徳島 愛媛 高知

(ノート): 「はりのき」はハンノキの古名。

416 ヤマボウシ (ミズキ科) 鳥ノ足

いつき\* 吉井本郷, 分布;新潟 富山 石川 福井  
岐阜 三重 京都 兵庫 和歌山 鳥取 愛媛 高知

いっつき\* 平松 赤泊 徳和, 分布;石川 福井

(ノート): ヤマボウシは山法師。白い花を法師に見立てたもの。「いつき、いっつき」は古名。語源不明という。

以前、畑野町猿八で「この木は餅搗きの杵の材料に最良でいっつきと言う」と聞いたことがある。

417 ヤマボクチ (キク科)

やまごぼ一※ 長木 中興 大和田 立野 下久知 水津  
片野尾 徳和 羽茂, 分布;長野 滋賀 静岡

やまごんぼ\* 高千 赤泊, 分布;福井 岡山 鹿児島

(ノート): 「やまごぼう、やまごんぼ」は山牛蒡。葉の形が牛蒡に似るところからいう。ボクチは火口で、葉裏の綿毛を採り着火の火口にした。佐渡に自生する種類をオヤマボクチという。

418 ヤマラッキョウ (ユリ科) 山韭

しぜんにら※

やまらっきょ一 水津 片野尾

(ノート): 「やまらっきょう」は山ラッキョウ。「しぜんに

ら」は自然韭。

419 ユウガオ (ウリ科) 壺盧

ふくべ※ 分布;秋田 滋賀

ゆうご一\* 沢根 長木 中興 大和田 吉井本郷 長江  
下久知 畑野 新町 赤泊 徳和 羽茂, 分布;山口  
山梨 新潟

(ノート): 「ふくべ」は朝鮮語起源の脹袋 (フクレベ) の転訛という。「ゆうごう」はユウガオの訛り。

420 ユウガギク (キク科) 鵝蒿

のぎく\* 長木 中興 下久知, 分布;岩手 秋田 山  
形 神奈川 千葉 新潟

よめがはき◎

(ノート): ユウガギクは柚香菊。路傍、原野などに生える。「のぎく」は野菊。「よめがはき」は嫁が萩でヨメナの別称、また嫁が薺蒿 (ウハギ) でヨメナの古名。

421 ユキノシタ (ユキノシタ科) 虎耳草, 葉茎—諸瘡、凍傷に用いる

いしだん\* 分布;新潟

きじんそ一\*◎ 分布;宮城 秋田 山形 茨城 山梨  
新潟 兵庫 香川 福岡 山口 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎

ちょーちょーばな\* 分布;山形 新潟

(ノート): ユキノシタは葉の表は緑で裏は紫色である、昔の装束の襷 (カサネ) に表が白で裏が紅色の「雪ノ下」というものがありこの名を当てたものという。「いしだん」は石段で、この植物はよく石垣上に生えるので名付けたもの。「きじんそう」は葉の表面が細毛で金銀色に輝いて見えるので金銀草が転訛したもの。「ちょうちょうばな」は花の形を蝶に擬したもの。

422 ユキワリソウ (サクラソウ科)

こぶしばな※

じざくらばな※

ちざくら※

(ノート): サクラソウ科の「ユキワリソウ」は佐渡に自生の記録がない。おそらく「ミスミソウ」の方言の「ユキワリソウ」との錯誤であろう。

423 ユスラウメ (バラ科) 野桜桃、山桜桃

こんめ\*◎ 長木 中興 大和田 吉井本郷, 分布;岩  
手

にわざくら◎

(ノート): 「こんめ」は小梅。「にわざくら」は庭桜。

424 ヨモギ (キク科) 艾, 葉裏の毛—灸点のモグサ

もぐさ\* 高千 中興 畑野, 分布;山形 新潟 群馬  
岐阜 愛知 島根 山口 香川 長崎 大分 宮崎 鹿  
児島

もちぐさ※□ 二宮 高千 沢根 長木 中興 大和田

吉井本郷 立野 平松 北小浦 下久知 水津 片野尾  
両津 畑野 新町 新穂 赤泊 徳和 羽茂 分布;  
秋田 山形 福島 群馬 栃木 埼玉 千葉 東京 静  
岡 愛知 岐阜 長野 新潟 富山 山口 香川  
(ノート): 「もぐさ」はこの植物の葉の綿毛を集めて灸の  
モグサを作ることから。「もちぐさ」は若芽を摘んで草餅  
の材料にするのでいう。

425 ラッカセイ (マメ科) 脂肪油, 軟膏の原料, 食用  
かんとまめ※ 高千 沢根 中興 水津 分布; 北海道  
青森 秋田 山形 岡山  
じごくまめ\* 大和田 分布; 京都 島根 岡山 愛媛  
高知 宮崎  
なんきんまめ\* 高千 沢根 長木 中興 大和田 吉井  
本郷 立野 北小浦 下久知 畑野 赤泊 徳和 羽  
茂 分布; 岩手  
(ノート): ラッカセイは南米原産, 中国より渡来。花は地  
中に入って結実するので落花生という。  
「かんとまめ」は関東豆, 特産地の関東地方を名称にしたも  
の。「じごくまめ」は地獄豆で, 地中で結実することとい  
う。「なんきんまめ」は南京豆で中国より渡来したことによ  
る。

426 リョウブ (リョウブ科) 令法, 山茶科  
きゅーこーのは◎  
はたつもり□  
りょーぼー\*◎□ 吉井本郷 長江 赤泊 羽茂,  
分布; 茨城 埼玉 新潟 鳥取 島根 愛媛 宮崎  
りょーぼ※ 高千 北小浦 分布; 福井 三重 奈良  
和歌山 兵庫 岡山 山口 高知 愛媛 大分 福岡  
長崎  
ろーぼー\* 二宮 長木 中興 分布; 栃木  
(ノート): 植物名の「リョウブ」はこの植物の葉を救荒植物  
として幕府が採取備蓄を命じたことから付けられた (令  
法)。「はたつもり」は畑積もりで, 採取量が畑の耕作面積  
に応じて決められたことによる。また「きゅーこーのは」  
は「救荒の葉」である。「りょうぼう, りょうぼ, ろうぼう」  
は何れもリョウブの訛り。

427 リンゴ (バラ科) 柰, 林檎, 苹果  
りんき※ 水津 分布; 北海道 秋田  
(ノート): 「りんき」は林檎の読み「リンキン」による。  
往時の林檎は和林檎といわれるものである。

428 レンゲツツジ (ツツジ科) 羊躑躅, 花一痛風薬, 神経  
痛リュウマチ薬  
つつじ 高千 長木 中興 大和田 立野 平松 北小浦  
畑野 赤泊 徳和  
ててっぴょ  
やまつつじ 高千 沢根 中興 長江 下久知 水津 片  
野尾 新町 徳和 羽茂  
(ノート): レンゲツツジは花を蓮華の花に擬したもの。

「やまつつじ」は山ツツジで, 佐渡にはヤマツツジという種  
類は自生せず, 山野のツツジは全てレンゲツツジである。  
「ててっぴょ」は山鳩 (キジバト) をいう, 幼児の遊びでこ  
の花をつまんだ形を, この鳩の鳴くときの姿に擬したもの。

429 ワスレグサ (カンゾウ) (ユリ科) 萱草  
きぼきな※  
(ノート): 「きぼきな」は擬宝葱菜で葱坊主, 新芽を葱に  
見立てたもの。

430 ワタ (アオイ科) 木綿, 脱脂綿, 種子-催乳剤  
ばんや※ 中興  
わたぼーし 片野尾  
(ノート): 「ばんや」は熱帯産の木綿科の植物, ガガイモ  
に似た実を着ける。中の綿毛は布団綿にする。「わたぼう  
し」は綿帽子で裂開して出てきた綿毛の塊をいうもの。

431 ワラビ (コバノイシガマ科) 蕨, 根茎-澱粉, 食料  
たまぎり※◎  
(ノート): ワラビの語源は茎がくるくる巻いて穂のように  
出るという意という。「たまぎり」はワラビの幼茎の先の  
小さく巻いている若芽をいう。

### 3 おわりに

ここに記載されている植物は431点で, これらにふくま  
れる方言名は1,156点に上る。しかし記載されている植物  
のうち佐渡に自生の記録のないものが16点ある。このこ  
とは「方言集成」が方言を採取するに当たって引用した原  
典を編集した当時すでに錯誤があったものと考えられる。  
例えば「チシャノキ (ムラサキ科)」と「エゴノキ」の「ジ  
シャノキ」や, 「ユキワリソウ (サクラソウ科)」と「ミス  
ミソウ」の「ユキワリソウ」との錯誤などがある。また誤  
植と思われる方言名も若干あった。

方言名は人々の生活に密着していた植物ほど数が多い。  
例えばイタドリ, スミレ, タンポポ, ネコヤナギなどはず  
ば抜けてその数が多い。これらの植物で遊んだ遠い昔を懐  
かしく思い出す。また樹木の方言について「アオダモ」は  
「クロタモギ」, 「ヤマトアオダモ」は「シロタモギ」と, ま  
た「ミツバウツギ」は「クロゴメゴメ」, 「ムラサキシキブ」  
は「シロゴメゴメ」と厳密に区別するなど, その観察眼に  
は敬服するものがある。

全体を通じて佐渡の植物方言をみるに, 佐渡特有のもの  
はそんなに多くはない。むしろ日本全国に共通し, しかも  
古方言と思えるものが多く目につく。これらの方言の全て  
が佐渡の人々に使われていたとは考えにくい。佐渡志や佐  
州産物志に記載されている植物名を見ても随所に難しい名  
前がある。このことは江戸時代に奉行所の役人や商人, ま  
た金山の鉱夫などの交流があり, よその国の文化が入って  
きたものであろう。佐渡方言辞典 (広田貞吉) によれば佐  
渡方言は本州西部方言の北陸方言域に含まれるという。こ  
れらの事情が佐渡の植物名を記録した古典に影響し佐渡の



植物方言の原典になっているものと思われる。

戦後、工業立国の政策が進められ経済大国になった日本ではあるが、その結果として自然破壊が進み公害に苦しむ時代を経てきた。そしてまた貴重な動植物が乱獲され絶滅の危機に瀕している。現在その反動として自然への回帰が叫ばれ、自然保護の機運が高まってきている。この際我々は折に触れ山野の植物に親しみ、植物の名前を覚えたりその方言を味わい、豊かな心を養いたいものである。この植物方言の語源私考は先賢の諸説に従ったが、難解のものは筆者の偏見と独断に依った。若干の不明のものもあり、ここに諸賢のご教示とご叱正を頂ければ幸いである。

### 参 考 文 献

- 日本植物方言集成 八坂書房 2001  
日本植物方言集(草本類篇) 日本植物友の会 1972  
樹種名方言集 農林省山林局 1932 大日本山林会  
享保. 元文 諸国産物帳集成 第三卷 安田 健 1994  
江戸諸国産物帳 丹羽正伯の人と仕事 安田 健 1987  
佐渡志 佐渡叢書 第二卷 山本修之助 1973  
佐渡博物館々報 第三号 1959  
佐渡民俗ことば事典 山本修之助 1987  
佐渡海府方言集 倉田一郎 1977  
樹木と方言 倉田 悟 1974  
大和本草 貝原益軒 白井光太郎考証 1975  
樹木和名考 白井光太郎 1973  
本草辞典 清水藤太郎 1977  
本草の植物 北村四郎選集Ⅱ 1985  
民族と植物 武田久吉 1999  
木の名の由来 深津 正, 小林義雄 1997  
古典の植物を探る 細見末雄 1992  
植物名の由来 中村 浩 1981  
日本植物記 本田正次 1981  
植物の名前の話 前川文夫 1981  
私の植物散歩 木村陽二郎 1987  
植物和名語源新考 深津 正 1980  
植物和名の語源 深津 正 1989  
植物和名の語源探究 深津 正 2000  
草木の話 春夏 宇都宮貞子 1977  
草木の話 秋冬 宇都宮貞子 1977  
草木ノート 宇都宮貞子 1982  
語源辞典 植物編 吉田金彦 2001  
佐渡方言辞典 広田貞吉 1974  
古名録 日本古典全集複刻版 1978  
牧野日本植物図鑑 改訂版 1949  
日本野生植物 草本Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ 平凡社 1982  
日本野生植物 木本Ⅰ, Ⅱ 平凡社 1989  
日本野生植物 シダ 平凡社 1992  
佐渡島の植物(羊歯. 種子植物) 本間建一郎 2002  
新編大言海 大槻文彦 1982  
広辞苑 第五版 新村 出  
大辞林 第二版 松村 明  
高千村史 1957 金泉郷土史 加茂村誌 1963  
二宮村志 岩首郷土史 1991

## 方言名索引

あ／部

あいばかま	ギョウジャンニク	13
あおき	モチノキ	37
あおさ	アオサ	1
あおさ	アオミドロ	1
あおのり	アオサ	1
あおばな	スマレ	20
あおばな	ツユクサ	24
あかしや	ニセアカシヤ	27
あかまんま	ガマズミ	11
あかめかしわ	キササゲ	12
あかめのき	アカメカシワ	2
あかよのみ	エノキ	6
あきいも	ジャガイモ	18
あきはな	ツユクサ	24
あきほこり	クサネム	13
あくび	アケビ	2
あさしらぎ	ハコベ	30
あさしらげ	ハコベ	30
あさねこき	ネムノキ	28
あしもと	ナラタケ	27
あじうり	ウリ	6
あじうり	マクワウリ	34
あすなろ	ヒノキ	32
あずきいちご	ウグイスカグラ	5
あずきうつぎ	ヤマアジサイ	38
あずさ	キササゲ	12
あぜまめ	エダマメ	6
あてび	アスナロ	2
あづさい	アジサイ	2
あまうり	マクワウリ	34
あまちゃ	アマチャズル	2
あまどころ	ナルコユリ	27
あまなんばん	ピーマン	32
あまのり	アオサ	1
あまも	アオサ	1
あまも	アカモク	2
あまも	イワノリ	4
あまんぜー	ギボウシ	12
あめふりばな	ヒルガオ	32
あめんどー	スモモ	20
あらめ	アラメ	3
あわさ	アオミドロ	1
あんさ	アジサイ	2
あんさうつぎ	ヤマアジサイ	38
あんさばな	ヤマアジサイ	38
あんちく	カリン	11
あんらく	カリン	11
あんらく	マルメロ	35

41

いおーぜり	ノダケ	29
いおーな	トウギボウシ	25
いおーにんじん	ハマボウフウ	31

いきくさ	ベンケイソウ	33
いしえんどー	カラスノエンドウ	10
いしだん	ユキノシタ	39
いせじろ	アセビ	2
いたちのしりかけ	ゴマギ	15
いたちのひととぐさ		
	タカサブロウ	22
いたちのへっぴり	ゴマギ	15
いたや	イタヤカエデ	3
いちじく	イチジク	3
いちょうのき	イチヨウ	4
いちりんそー	ニリンソウ	27
いっかき	ウコギ	5
いっかきのきのは	ウコギ	5
いっかきのは	ウコギ	5
いっつき	ヤマボウシ	39
いつき	ヤマボウシ	39
いとあおさ	アオサ	1
いとざくら	スイシカイドウ	19
いぬえび	エビズル	7
いぬとりぎ	メドハギ	37
いぬのお	トリアシショウマ	26
いのみ	クログワイ	14
いばなのき	ハナイカダ	30
いばら	バラ	31
いばらいちご	ナワシロイチゴ	27
いばらのみ	キイチゴ	11
いばらば	サルトリイバラ	16
いぼな	ハナイカダ	30
いぼなのき	ハナイカダ	30
いもご	ヤマノイモ	39
いもだつ	ズイキ	19
いやなぎ	オノエヤナギ	8
いやなぎ	カワヤナギ	11
いわうな	ギボウシ	12
いわうぼ一き	ダイモンジソウ	21
いわじしゃ	ダイモンジソウ	21
いわだたら	ダイモンジソウ	21
いわぶき	ダイモンジソウ	21
いわぼ一き	ダイモンジソウ	21
いわぼき	ダイモンジソウ	21
いわまつ	イワヒバ	5
いわゆり	イワユリ	5
いわんたいら	イヌショウマ	4
いわんだいら	トリアシショウマ	26
いわんだら	トリアシショウマ	26
いんげんささげ	フジマメ	33
いんとりぎ	メドハギ	37
いんによこにゅーにゅー		
	ネコヤナギ	28
いんによこによーによー		
	ネコヤナギ	28
いんによこによこ	ネコヤナギ	28
いんねこ	ネコヤナギ	28
いんねこじょーじょー		
	ネコヤナギ	28

いんねこによーによー	
ネコヤナギ	28
いんねこねこ	ネコヤナギ 28
いんねこねこのこ	ネコヤナギ 28
いんねこばな	ネコヤナギ 28
いんのこ	ネコヤナギ 28
いんのこじゅーじゅー	
ネコヤナギ	28
いんのこじょーじょー	
ネコヤナギ	28
いんのこによーによー	
ネコヤナギ	28
いんのこぼーぼー	
ネコヤナギ	28
いんのこやなぎ	ネコヤナギ 28
いんのを	エノコログサ 7
いんびき	オオバコ 7

うノ部

うぐいすやぶ	ヒョウタンボク	32
うしこーげ	マツバイ	35
うしこごろし	カマツカ	10
うしころし	カマツカ	10
うしころし	ネムノキ	28
うしごろし	カマツカ	10
うしずいか	ギシギシ	12
うしずいこー	ギシギシ	12
うしのすじわたし		
	ヒカゲノカズラ	31
うしのひたい	タンバノリ	22
うしのひたい	ミゾソバ	36
うしのめくすり	トウキ	25
うしぶたい	ミゾソバ	36
うじころし	クララ	14
うじころし	ハナヒリノキ	30
うずらそう	チドメグサ	23
うたうたいな	ウワバミソウ	6
うばがち	オドリコソウ	8
うばがち	ツリガネニンジン	24
うばがちち	ツリガネニンジン	24
うまあらいうつぎ	ドクウツギ	25
うまあらいくさ	ドクウツギ	25
うまあれーうつぎ		
	ハナヒリノキ	30
うますいび	ノブドウ	29
うまずいか	ギシギシ	12
うまぜり	ウマノアシガタ	5
うまぜり	キツネノボタン	12
うまのくそたけ	オニフスベ	8
うまのほこりたけ	オニフスベ	8
うみがま	アマモ	3
うめがえそー	ハマナデシコ	31
うめがえそー	フジナデシコ	33
うめもどき	ツルウメモドキ	24
うらじろ	シロダモ	19
うらじろ	ヤブタバコ	38

うらぼし ノキシノブ 29  
うりのき ウリハダカエデ 6  
うるき ウツボグサ 5

# えノ部

えちごいも ナガイモ 26  
えどいも ナガイモ 26  
えのみのき エノキ 6  
えんここ ネコヤナギ 28  
えんころ ネコヤナギ 28  
えんどー カラスノエンドウ 10

# おノ部

おーかたばみ ウマゴヤシ 5  
おーしゅくばい オウバイ 7  
おーせり トウキ 25  
おーづちな オトコエシ 8  
おーなら ミズナラ 36  
おーば オオカメノキ 7  
おかんかん タンポポ 23  
おかんかんかん タンポポ 23  
おかんかんぞー タンポポ 23  
おかんかんばん タンポポ 23  
おがたまのき カンボク 11  
おがんおがん タンポポ 23  
おがんがん タンポポ 23  
おこりだいこん ハマダイコン 31  
おこりばな ハマヒルガオ 31  
おしょのき コシアブラ 15  
おたふくめ ソラマメ 21  
おとぎりす オトギリソウ 8  
おとぎりそー オトギリソウ 8  
おとぎりそう ハンゴンソウ 31  
おとこはぎ メドハギ 37  
おとこまつ クロマツ 14  
おとこよもぎ ハハコグサ 30  
おにのしこくさ シオン 17  
おにびえ ジャノヒゲ 18  
おにまつ クロマツ 14  
おまつ クロマツ 14  
おみなめし オミナエシ 8  
おんこ イチイ 3  
おんなまつ アカマツ 1  
おんにょこにょーにょー  
ネコヤナギ 28  
おんばくろー オオバコ 7  
おんばこ オオバコ 7

# かノ部

かいねぐさ カキドオシ 9  
かいねだわら カキドオシ 9  
かいふもく ハハキモク 30  
かきばな スミレ 20  
かぎのはな スミレ 20  
かぎはな スミレ 20  
かぎばな スミレ 20

かぎばな ツユクサ 24  
かくま ゼンマイ 21  
かぐま ゼンマイ 21  
かけばな スミレ 20  
かげはな スミレ 20  
かげばな スミレ 20  
かげんばな スミレ 20  
かしきび トウモロコシ 25  
かしまめ ツノハシバミ 24  
かしやぎ カシワ 9  
かしやぎ カシワ 9  
かしわぎ カシワ 9  
かじばな タニウツギ 22  
かじめ アラメ 3  
かたうり シロウリ 19  
かたくりな アマナ 2  
かたぐろ ツユクサ 24  
かたこ カタクリ 10  
かたし クマノミズキ 13  
かたしろ ハンゲショウ 31  
かたばな カタクリ 9  
かたばみ ウマゴヤシ 6  
かたみみ サルノコシカケ 16  
かちかち ナツハゼ 26  
かちはじき ナツハゼ 26  
かつへしそー クガイソウ 13  
かつぼー マコモ 34  
かないばら サルトリイバラ 16  
かなびき カラムシ 11  
かにかにくさ ミズアオイ 35  
かにがにくさ ミズアオイ 35  
かぶしばな タニウツギ 22  
かぶとばな トリカブト 26  
かぶな カブ 10  
かぶら カブ 10  
かほよくさ シャクヤク 18  
かみなりささげ キササゲ 12  
かや カヤ 10  
かや ススキ 19  
かやぼたん マツバボタン 35  
かやむぐり コウゾリナ 15  
かやもり コウゾリナ 15  
からかわ サンショウ 17  
からしきび アセビ 2  
からしぐさ タガラシ 22  
からすうり キカラスウリ 11  
からすおーぎ シャガ 18  
からすのきんたま キカラスウリ 11  
からすびな キカラスウリ 11  
からなんばん トウガラシ 25  
からぼたん マツバボタン 35  
かりやす コブナグサ 15  
かりん マルメロ 35  
かわうつぎ ドクウツギ 25  
かわがらし タガラシ 22  
かわも ホザキノフサモ 34

かわやなぎ ネコヤナギ 28  
かわらうつぎ ドクウツギ 25  
かわらけな キュウリグサ 12  
かわらけな ナズナ 26  
かわらさいこ ツチグリ 24  
かわらやなぎ ネコヤナギ 28  
かわらよもぎ カワラニンジン 11  
かんいちご オランダイチゴ 9  
かんかん タンポポ 23  
かんかんばな タンポポ 23  
かんざしばな カヤツリグサ 10  
かんしょ サツマイモ 16  
かんぞー タンポポ 23  
かんぞー ヤブカンゾウ 38  
かんとまめ ラッカセイ 40  
かんどころ オニドコロ 8  
かんないいばら サルトリイバラ 16  
かんねいばら サルトリイバラ 16  
かんば ヤマザクラ 38  
がぜつな エンレイソウ 7  
がないばら サルトリイバラ 16  
がなっばら サルトリイバラ 16  
がねずぼ サルトリイバラ 16  
がねずみ ガマズミ 10  
がねっばら サルトリイバラ 16  
がねばら サルトリイバラ 16  
がますいび ガマズミ 10  
がますいび ガマズミ 10  
がますいぶ ガマズミ 10  
がますび ガマズミ 10  
がますみ ガマズミ 10  
がますめ ガマズミ 10  
がまんずいぶ ガマズミ 10  
がんがらび スズサイコ 19  
がんがらべ ガガイモ 9  
がんがんばん スミレ 2  
がんないいばら サルトリイバラ 16  
がんないばら サルトリイバラ 16  
がんにゃーばら サルトリイバラ 16  
がんねいばら サルトリイバラ 16  
がんらいこう ハゲイトウ 29  
がんらいそー ハゲイトウ 29

# きノ部

きーとん ケイトウ 14  
きいちご モミジイチゴ 37  
きうるし ヤマウルシ 38  
きささぎ キササゲ 12  
きざわし アマガキ 2  
きしきし ギボウシ 12  
きじのお オシダ 8  
きじのお ヤブソテツ 38  
きじんそー ユキノシタ 39  
きつねのかおつき イワカガミ 4  
きつねのかんざし ヒガンバナ 31  
きなえ ネギ 28

きはだいばら	ヒロハノヘビノボラズ	33
きびすいこ	スイバ	19
きぼきな	ヤブカンゾウ	38
きぼきな	ワスレグサ	40
きやき	ケヤキ	14
きゅーこのは	リョウブ	40
きりきりな	ギシギシ	12
きわら	キハダ	12
きんぎょも	ホザキノフサモ	34
きんさんなら	ニラ	27
きんのき	キリノキ	13
きんぼーし	ギボウシ	12
ぎしぎし	ギボウシ	13
ぎしぎしな	トウギボウシ	25
ぎじぎじ	ギシギシ	12
ぎばさ	ホンダワラ	34
ぎほき	ギボウシ	12
ぎぼき	ギボウシ	12
ぎぼきな	ヤブカンゾウ	38
ぎぼし	ギボウシ	12
ぎぼし	トウギボウシ	25
ぎよくせい	ウケザキオオヤマレンゲ	5
ぎらな	ダイヤモンドソウ	22
ぎりぎりな	ギシギシ	12
ぎりぎりな	トウギボウシ	25
ぎりめき	ギボウシ	12
ぎりりす	ギボウシ	12
ぎんなん	イチョウ	4
ぎんぼそー	ホンダワラ	34
ぎんぼーし	トウギボウシ	25

# くノ部

くさいちご	ナワシロイチゴ	27
くさうつぎ	ノリウツギ	29
くさうるし	ヤマウルシ	38
くさぎ	クサギ	13
くさぎ	コクサギ	15
くそうつぎ	ノリウツギ	29
くちあけ	オモダカ	9
くちあけ	ヒルムシロ	33
くちくちな	タンポポ	23
くちさけ	オモダカ	9
くちな	タンポポ	23
くぬぎ	クヌギ	13
くらら	クララ	14
くるび	クルミ	14
くるび	サワグルミ	16
くるみ	オニグルミ	8
くろいも	サトイモ	16
くろえのき	エゾエノキ	6
くろごめごめ	ミツバウツギ	36
くろたもぎ	アオダモ	1
くろたもぎ	トネリコ	26
くろちく	シチク	17
くろはぎ	ハコネシダ	30
くろぶどう	エビズル	7

くろもじ	クロモジ	14
くろもじ	ムクロジ	36
くろもんじ	クロモジ	14
くろもんじ	ムクロジ	36
くろもんじゃ	クロモジ	15
くろよのみ	エゾエノキ	6
くろんぼー	エンレイソウ	7
くわらつ	オモダカ	9
ぐちぐちな	タンポポ	23
ぐびじんそー	ヒナゲシ	32
ぐみ	サンシュユ	17

# けノ部

けーとーげ	ケイトウ	14
けーとぎ	ケイトウ	14
けーとん	ケイトウ	14
けーとん	ハゲイトウ	29
けーとんぎ	ケイトウ	14
けーとんじ	ケイトウ	14
けいば	カシワ	9
けしのみ	ケシ	14
けとんげ	ケイトウ	14
けとんじ	ケイトウ	15
けもも	モモ	37
けんぶんなし	ケンボナシ	14
けんぼなし	ケンボナシ	14
げじげじ	ギシギシ	12
げりめき	ハゲイトウ	29
げりめき	バイケイソウ	29
げんのまら	ツクシ	24
げんれんぼーず	イワユリ	5

# こノ部

こーか	ネムノキ	28
こーかのき	ネムノキ	28
こーくり	クルミ	14
こーくるび	クルミ	14
こーくるび	サワグルミ	16
こーくるみ	サワグルミ	16
こーぐり	サイハイラン	15
こーげ	マツバイ	35
こーぼーぐさ	ゲンノショウコ	14
こーやまつ	コウヤマキ	15
こうぎ	ハマゴウ	30
こがねばな	ミヤコグサ	36
こくろび	クルミ	14
こくろび	サワグルミ	16
こくわ	サルナシ	16
こしきみ	アセビ	2
こてづつ	ハハキモク	30
こなぎ	ミズアオイ	35
このてがえし	コノテガシワ	15
こびえにんにく		
	ギョウジャニンニク	13
こぶし	タムシバ	22
こぶしばな	ミスミソウ	36

こぶしばな	ユキワリソウ	39
こぶやなぎ	ヤマナラシ	39
こめざいばな	シモツケソウ	17
こめだいばな	シモツケソウ	17
こものみ	マコモ	34
これきみ	アセビ	2
こんこーじばな	タンポポ	23
こんでん	タンポポ	23
こんねんどー	タンポポ	23
こんぺとばな	ママコノシリヌグイ	35
こんめ	ニワウメ	27
こんめ	ユスラウメ	39
こんれんばな	タンポポ	23
ごぎょう	ハハコグサ	30
ごまぎ	ヌルデ	27
ごめごめ	ムラサキシキブ	37
ごやじ	タンポポ	23
ごろーじ	タンポポ	23
ごわじ	アマナ	3
ごんぼー	ゴボウ	15

# さノ部

さいかし	サイカチ	15
さいかちいばら	サイカチ	15
さいかちばら	サイカチ	15
さいき	シシウド	17
さいそーろー	ハナйкаダ	30
さおとめばな	タニウツギ	22
さかき	ヒサカキ	32
さがりいちご	エンレイソウ	7
さがりいちご	キイチゴ	11
さがりいちご	モミジイチゴ	37
ささぎ	インゲンマメ	5
ささぎ	ササゲ	15
ささげ	インゲンマメ	5
さざんか	サザンカ	16
さつまいも	サツマイモ	16
さとにんじん	ニンジン	27
さはいいちご	エンレイソウ	7
さまつ	モミタケ	37
さるかきいばら		
	ジャケツイバラ	18
さるころし	ドクウツギ	25
さわうつぎ	ドクウツギ	25
さわぎきょー	ミズアオイ	35
さんちゃか	サザンカ	16
ざぼん	ナツミカン	27

# しノ部

しーだいも	ジャガイモ	18
しーびー	カラスノエンドウ	10
しきび	アセビ	2
しきび	シキミ	17
しきぶ	シキミ	17
しくじゃく	シャクヤク	18
しこのへ	キハダ	12

しころのき	キハダ	12	じしばり	ニガナ	27	すずふりばな	トウダイグサ	25
ししのこ	シュンラン	18	じしゃ	エゴノキ	6	すずめぐさ	カタバミ	9
ししはらい	マンサク	35	じしゃのき	エゴノキ	6	すずめのあいきよー	カタバミ	9
ししはり	マンサク	35	じしゃのき	クロモジ	14	すずめのちょーちん	カタバミ	9
ししはれー	マンサク	35	じしゃのき	チシャノキ	23	すずめのちょーちん	チチコグサ	23
ししゃらい	マンサク	35	じぞうのみみ	キリンソウ	13	すずめのちょんちょん	チチコグサ	23
ししゃれー	マンサク	35	じねご	カラスムギ	11	すずめのはかま	カタバミ	9
しじばり	メヒシバ	37	じねんじょ	ヤマノイモ	39	すずめはぎ	ヒメハギ	32
しずくさ	ウワバミソウ	6	じゃりんそー	ヒナギク	32	すだれやなぎ	シダレヤナギ	17
しずくち	ウワバミソウ	6	じゅーやく	ドクダミ	25	すっこんこん	イタドリ	3
しずくな	ウワバミソウ	6	じゅーろくささぎ	ササゲ	15	すっぼん	イタドリ	3
しずしずな	ウワバミソウ	6	じゅーろくささげ	ササゲ	15	すっぼんすいか	イタドリ	3
しぜんにな	ヤマラッキョウ	39	じょーがひげ	ジャノヒゲ	18	すっぼんぼん	イタドリ	3
したどり	イタドリ	3	じょーがひげ	ヤブラン	38	すび	エビズル	7
しだ	シバ	17	じょろーな	ウツボグサ	5	すび	スイバ	19
しだ	スズメノヒエ	20	じょろさんばな	ウツボグサ	5	すべらびよー	スベリヒユ	20
しだ	スズメノヤリ	20	じりんどー	タンポポ	23	すべりしょー	スベリヒユ	20
しだくさ	シバ	17	じりんどばな	タンポポ	23	すべりひゅー	スベリヒユ	20
しのだけ	ヤダケ	38	じんじくろ	ツユクサ	24	すべりひょー	スベリヒユ	20
しば	カヤ	10	じんばそー	ホンダワラ	34	すみれ	スミレ	20
しばとばな	ヒガンバナ	31	すノ部			すもーとりぐさ	オオバコ	7
しほこ	カラスムギ	11	すいか	スイバ	19	すもとり	オオバコ	7
しめっぱり	クロウメモドキ	14	すいかっぼん	イタドリ	3	すもと	オオバコ	7
しめばり	ハンノキ	31	すいかのぼんぼん	スイバ	19	すもも	スモモ	20
しゃくなぎ	シャクナゲ	18	すいかんとー	スイバ	19	ずくし	ツクシ	24
しょーからばな	タニウツギ	22	すいかんぼー	イタドリ	3	ずくずくし	ツクシ	24
しょーがま	ナツハゼ	26	すいかんぼん	イタドリ	3	ずべりびゅ	スベリヒユ	21
しょーび	イヌガヤ	4	すいかんぼんぼん	イタドリ	3	ずぼん	ナツミカン	27
しょーぶ	セキショウ	20	すいこ	イタドリ	3	ずんぼこ	ツクシ	24
しょーりゃーばな	ハギ	29	すいこ	スイバ	19	せノ部		
しょーりゃーばな	ミソハギ	36	すいこー	スイバ	19	せーき	シシウド	17
しょう	シュロ	18	すいこんとー	スイバ	19	せーだいも	ジャガイモ	18
しょうーな	ウツボグサ	5	すいこんぼー	スイバ	19	せーよーえちご	オランダイチゴ	9
しら	シバ	17	すいじんのて	カナムグラ	10	せーらいも	ジャガイモ	18
しら	スズメノヒエ	20	すいじんのら	カナムグラ	10	せかいそー	オキナグサ	8
しら	スズメノヤリ	20	すいすいばな	ウツボグサ	5	せがいそー	オキナグサ	8
しらき	シラキ	19	すいばな	ウツボグサ	5	せきしょーぶ	セキショウ	20
しらくさ	シバ	17	すいび	エビズル	7	せきりばな	ゲンノショウコ	14
しらの	ザイフリボク	15	すいび	サンカクヅル	17	せりのき	ハリギリ	31
しろおとこ	マユミ	35	すいぶ	サンカクヅル	17	せんだん	オウチ	7
しろこのき	マユミ	35	すいぶどー	エビズル	7	せんにんそー	センニンソウ	20
しろごめごめ	ムラサキシキブ	37	すいぶどー	サンカクヅル	17	せんのーげ	センノウゲ	21
しろたもぎ	トネリコ	26	すえび	エビズル	7	せんのき	ハリギリ	31
しろたもぎ	ヤマトアオダモ	38	すかんぼ	スイバ	19	せんぶり	クララ	14
しろね	サワヒヨドリ	17	すぎな	ツクシ	24	せんぼんすぎ	クサスギカズラ	13
しろまつ	クロマツ	14	すくなくひこのくすね	セッコク	20	ぜんまい	ゼンマイ	21
しろまめ	ダイズ	21	すげ	タマガヤツリ	22	ぜんめー	ゼンマイ	21
しろみどり	クロマツ	14	すげ	ハマスゲ	31	そノ部		
しろみみ	サルノコシカケ	16	すじわたし	ソクズ	21	そーとめばな	タニウツギ	22
しろよもぎ	カワラハハコ	11	すすめげさ	カタバミ	9	そーふたぎ	サワフタギ	17
しんぱく	ミヤマビャクシン	36	すずかけ	コデマリ	15	そーめんうり	スイカ	19
じごくのかまのふた	キランソウ	13	すずたけ	ネザサ	28	そーめんぐさ	メヒシバ	37
じごくまめ	ラッカセイ	40	すずだま	ジュズダマ	18			
じざくらばな	ミスミソウ	36	すずふりくさ	トウダイグサ	25			
じざくらばな	ユキワリソウ	39	すずふりぐさ	ノウルシ	29			

そくず	クサニワトコ	13	ちゃんちゃんぽぽ	タンポポ	23	つるひろえんどー		
そくぞ	クサニワトコ	13	ちゃんちゃんぽん	タンポポ	23	カラスノエンドウ	10	
そめくさ	ツユクサ	24	ちゃんちゃんぽんぽ	タンポポ	23	つるむらさき	ハナズオウ	30
			ちゃんちゃんぽんぽん			つわ	ツワブキ	24
たノ部			タンポポ	23		つんぶーばな	タンポポ	23
たいな	タイサイ	21	ちゃんばぎく	タケニグサ	22	つんぶーばな	ヒルガオ	32
たかー	アキカラマツ	2	ちゃんぽこ	タンポポ	23	つんぽーばな	ヒルガオ	33
たかのつめ	トウガラシ	25	ちゃんぽぽ	タンポポ	23	つんぽばな	タンポポ	23
たがらし	タネツケバナ	22	ちゃんぽんちゃんぽん			つんぽばな	ヒルガオ	33
たけすいこ	イタドリ	3	タンポポ	23				
たけずっぽん	イタドリ	3	ちゃんぽんぽ	タンポポ	23	てノ部		
たずのき	ニワトコ	27	ちゃんぽんぽん	タンポポ	23	てーな	タイサイ	21
たちきび	モロコシ	38	ちょーしゅん	バラ	31	ていそー	イノコズチ	4
たつのひげ	ジャノヒゲ	18	ちょーじゃのかし	ハゼノキ	30	ていそく	イノコズチ	4
たにうつぎ	タニウツギ	22	ちょーじゃのかし	ヤブコウジ	38	てづつ	フシスジモク	33
たねつけばな	キクザキイチゲ	11	ちょーじゃのかま	カンアオイ	11	ててっぴょ	シュンラン	18
たねつけばな	タガラシ	22	ちょーちょーかんばん	スマレ	20	ててっぴょ	レンゲツツジ	40
たねつけばな	タネツケバナ	22	ちょーちょーばな	ツユクサ	24	てまりばな	オオデマリ	7
たまぎり	ワラビ	40	ちょーちょーばな	ユキノシタ	39	てんつ	フシスジモク	33
たまつばき	シャリンバイ	18	ちょーちんばな	ホタルブクロ	34	てんぽなし	ケンボナシ	14
たまつばき	モッコク	37	ちんじ	オキナグサ	8	でーこん	ダイコン	21
たまのき	トネリコ	26	ちんちんもぐさ	カタバミ	9	でーんこ	ダイコン	21
たもぎ	アオダモ	1	ちんちんもげき	カタバミ	9	でゃーこん	ダイコン	21
たもぎ	トネリコ	26	ちんみょー	マクワウリ	34	でんこん	ダイコン	21
たらのき	トラノキ	22	ちぼこり	オニフスベ	8			
たんちく	エノコログサ	7				とノ部		
たんぽこ	タンポポ	23	つノ部			とーいも	ヤツガシラ	38
たんぽこりん	タンポポ	23	つきくさ	ツユクサ	24	とーがき	イチジク	3
たんぽんぽん	タンポポ	23	つきみそう	オオマツヨイグサ	7	とーがんうり	カボチャ	10
だいこんいも	ナガイモ	26	つくしのぽーや	ツクシ	24	とーきび	モロコシ	38
だいこんいも	ヤマノイモ	39	つくしんぽ	ツクシ	24	とーげ	メヒシバ	37
だつ	ズイキ	19	つくずくし	ツクシ	24	とーげぐさ	メヒシバ	37
だも	シロダモ	19	つくつくし	スギナ	19	とーごぼー	ヤマゴボウ	38
だも	タブノキ	22	つくつくし	ツクシ	24	とーとーぶくろ	ホタルブクロ	34
だらり	カキ	9	つくも	ミクリ	35	とーのいも	サトイモ	16
だるまそー	ヒナギク	32	つぐろえ	カラスビシャク	10	とーのき	クサギ	13
だんごばな	シロツメクサ	19	つた	キツタ	12	とーまめ	ソラマメ	21
だんぷりはな	ツユクサ	24	つちいちご	ナワシロイチゴ	27	とうきび	トウモロコシ	25
			つつじ	レンゲツツジ	40	とうやく	センブリ	21
ちノ部			つつたけ	ネザサ	28	とが	イチイ	3
ちぐさ	チドメグサ	23	つづみくさ	ハハコグサ	30	とがまつ	モミ	37
ちざくら	ミスミソウ	36	つづみぐさ	ハハコグサ	30	ときしらず	ヒナギク	32
ちざくら	ユキワリソウ	39	つばきぐさ	コナギ	15	とこあか	シャクナゲ	18
ちしゃのき	エゴノキ	6	つばきば	コナギ	15	ところ	オニドコロ	8
ちすいばな	オドリコソウ	8	つばきば	ヒルムシロ	33	ところ	ガガイモ	9
ちそ	シソ	17	つばくさ	コナギ	15	ところてんばな	カワラナデシコ	11
ちち	ハハコグサ	30	つばくらな	ヤクシソウ	38	ところてんばな	ナデシコ	27
ちちくさ	イワニガナ	4	つばな	チガヤ	23	ところてんばな	ネムノキ	29
ちちすいばな	ウツボグサ	5	つぶ	ムクロジ	36	としょー	イワヒバ	5
ちちすいばな	オトギリソウ	8	つぶろ	ヒョウタン	32	としょー	ネズミサシ	28
ちちすいばな	オドリコソウ	8	つぶろこ	カラスビシャク	11	とっとばな	ツユクサ	24
ちちすいばな	ジュウニヒトエ	18	つやぶき	ツワブキ	24	ととき	ツリガネニンジン	24
ちちのき	イチョウ	4	つりがねにんじん			ととら	クマヤナギ	13
ちちばな	オドリコソウ	8	ツルニンジン	24		ととらふじ	クマヤナギ	13
ちとめぐさ	オミナエシ	8	つるはな	イカリソウ	3	とめも	アカモク	2
ちゅーぽんぽん	タンポポ	23	つるばな	イカリソウ	3	とりあし	トリアシショウマ	26

とりあり	トリアシショウマ	26
とんがき	イチジク	4
どーぐり	クヌギ	13
どくまくり	ドクダミ	25
どくまり	ドクダミ	26
どろ	ヤマナラシ	39
どろやなぎ	ヤマナラシ	39
どんぐり	クヌギ	13
どんぐりべー	ドングリ	26

### なノ部

ないばら	サルトリイバラ	16
ながいも	ナガイモ	26
ながも	アカモク	2
なぎ	シャクナゲ	18
なぎ	ミズアオイ	35
なすび	ナス	26
なぞな	キュウリグサ	12
なぞな	ナズナ	26
なついも	ジャガイモ	18
なつすいせん	ヒガンバナ	31
なつな	フダンソウ	33
なつゆき	ネナシカズラ	28
なでしこ	カワラナデシコ	11
なでしこ	ハマナデシコ	31
ななかまど	サワフタギ	17
ななとーぐさ	オモダカ	9
ななばけ	アジサイ	2
なのりそ	ホンダワラ	34
なべわりうつぎ	ドクウツギ	25
なべわりうつぎ	ドクゼリ	25
ならのき	カシワ	9
なんきんまめ	ラッカセイ	40
なんばん	トウガラシ	25
なんばん	ピーマン	32
なんばんぐさ	チョウジタデ	24

### にノ部

にがたけ	マダケ	34
にぎりたけ	サマツ	16
にぎりたけ	モミタケ	37
にしきぎ	ハゼノキ	30
にしこり	サワフタギ	17
にせまつたけ	サマツ	16
にどいも	ジャガイモ	18
にゃんにゃんこ	ネコヤナギ	28
にやきちゃん	ネコヤナギ	28
にろいも	ジャガイモ	18
にわざくら	ユスラウメ	39
にわとこ	ニワトコ	27
にんじん	ニンジン	27
にんにく	ニラ	27

### ぬノ部

ぬるで	ヌルデ	27
-----	-----	----

### ねノ部

ねこじゃらし	エノコログサ	7
ねこねこ	ネコヤナギ	28
ねこねこにゃんにゃん	ネコヤナギ	28
ねこねこばな	ネコヤナギ	28
ねこねこやなぎ	ネコヤナギ	28
ねこのみみ	スイセンノウ	19
ねこのみみ	ハハコグサ	30
ねこのめ	ネコヤナギ	28
ねこばな	ネコヤナギ	28
ねこぼぼ	ネコヤナギ	28
ねこまた	ネコヤナギ	28
ねず	ネズミサシ	28
ねずみさし	イワヒバ	5
ねずみさし	ウコギ	5
ねずみさし	クコ	13
ねずみさし	ネズミサシ	28
ねずみたけ	ホウキタケ	33
ねずみのみみ	ハハコグサ	30
ねつぎまし	タウコギ	22
ねぶか	ネギ	28
ねぶのき	ネムノキ	29
ねやくさ	トリカブト	26
ねやぐさ	トリカブト	26
ねんば	カマツカ	10
ねんばのき	ネムノキ	29

### のノ部

のえんどー	カラスノエンドウ	10
のぎく	ユウガギク	39
のびる	ノビル	30
のまき	チガヤ	23
のまぎ	チガヤ	23
のり	イワノリ	5

### はノ部

はいも	サトイモ	16
はいものだつ	ズイキ	19
はきだめかぶら	ウバユリ	5
はぎ	エゾミソハギ	6
はくなら	ミズナラ	36
はげしぱり	ヒメヤシャブシ	32
はこべ	ハコベ	30
はじ	ハゼノキ	30
はぜ	ハゼノキ	30
はぜのき	ハゼノキ	30
はたつもり	リョウブ	40
はたんきょー	スモモ	20
はだかぎ	サルスベリ	16
はだかのき	サルスベリ	16
はちす	ムクゲ	36
はっか	ハッカ	30
はつぶどー	マツブサ	35
はなうつぎ	タニウツギ	22
はながら	ツユクサ	24

はなのき	カエデ	9
はなのき	ハウチワカエデ	29
はなばら	ツユクサ	24
ははしぐさ	ツユクサ	24
はまぐみ	アキグミ	2
はまつばき	ハマゴウ	30
はまなし	ハマナス	31
はまなでしこ	ハマナデシコ	31
はまにんじん	ハマゼリ	31
はまやなぎ	スズサイコ	19
はりぎり	ハリギリ	31
はりのき	ハンノキ	31
はりのき	ヤマハンノキ	39
はんげ	カラスビシャク	10
はんや	ガガイモ	9
ばっと	ゴマギ	15
ばっとー	ゴマギ	15
ばめき	ギボウシ	12
ばんや	ワタ	40

### ひノ部

ひー	メヒシバ	37
ひーぼーき	メヒシバ	37
ひいなのおぶら	カワラマツバ	11
ひいらげ	ヒイラギ	31
ひきおこし	ダイコンソウ	21
ひぐるま	ヒマワリ	32
ひのき	アスナロ	2
ひば	アスナロ	2
ひば	イワヒバ	5
ひば	ヒノキ	32
ひまわり	ヒマワリ	32
ひめすぎ	ネズミサシ	28
ひゃくじつこう	サルスベリ	16
ひゅーび	イヌガヤ	4
ひゅ	イヌビユ	4
ひゅー	イヌビユ	4
ひゅり	スベリヒユ	20
ひょー	イヌビユ	4
ひょー	ヒユ	32
ひょーび	イヌガヤ	4
ひょーぶ	イヌガヤ	4
ひよくさ	イヌビユ	4
ひよくさ	ヒユ	32
ひられやなぎ	オノエヤナギ	8
ひる	ノビル	29
ひるどんぼー	ノビル	29
ひるのどんぼ	ノビル	29
ひるむしろ	ヒルムシロ	33
ひるんどんぼー	ノビル	30
びや	ビワ	33
びんかか	イヌツゲ	4
びんかかず	イヌツゲ	4
びんかが	イヌツゲ	4
びんぼーづる	ヤブガラシ	38
びーびーぐさ	スズメノテッポウ	20

ふノ部		
ふー	ホオノキ	33
ふーのき	クサギ	13
ふーのき	ホオノキ	33
ふきんじーさん	フキ	33
ふくべ	ユウガオ	39
ふくべら	ニリンソウ	27
ふくらしば	ソヨゴ	21
ふげもも	モモ	37
ふしのき	ヌルデ	27
ふじき	ナナカマド	27
ふじまめ	フジマメ	33
ふたごほーづき		
	ヒョウタンボク	32
ふたごやぶ	ヒョウタンボク	32
ふだんそー	フダンソウ	33
ふつくさ	センニンソウ	20
ふろしきつつみ	ドクウツギ	25
ぶす	トリカブト	26
ぶす	ノブドウ	29
ぶすぶどー	ノブドウ	29
ぶろ	ブドウ	33
ぶんだいゆり	カタクリ	9
ぶんぶくちがま	カンアオイ	11

へノ部		
へびえんどー	カラスノエンドウ	10
へびすいこ	ギシギシ	12
へびのたつ	ウラシマソウ	6
へびのたつ	マムシグサ	35
へびのだいおー	ギシギシ	12
へびのだいおー	テンナンショウ	25
へびのだいおー	マムシグサ	35
へびのだいはち	シダ	17
へびのでーはち	アマドコロ	2
へびのでーはち	ウラシマソウ	5
へびのでーはち	シダ	17
へびのでーはち	テンナンショウ	25
へびのでーはち	マムシグサ	35
へびぶどー	ノブドウ	29
へびんでち	ウラシマソウ	5
べっちょぐさ	イボクサ	4

ほノ部		
ほー	ホオノキ	33
ほーきぼ	ホウキギ	33
ほーきぼー	ホウキギ	33
ほーくり	サイハイラン	15
ほーくり	シュンラン	18
ほーのき	ホオノキ	33
ほうずき	エンレイソウ	7
ほくろ	シュンラン	18
ほこりたけ	オニフスベ	8
ほしくさ	イボクサ	4
ほそくみ	カラスビシャク	10
ほたるそう	キランソウ	13

ほだわら	ホンダワラ	34
ほんだら	ホンダワラ	34
ぼーだら	タラノキ	22
ぼーふー	ハマボウフウ	31
ぼーふら	カボチャ	10
ぼほやなぎ	ネコヤナギ	28
ぼぼじゃ	タンポポ	23
ぼぼちゃ	タンポポ	23
ぼやじ	タンポポ	23
ぼやじ	ノゲシ	29
ぼんばな	エゾミソハギ	6
ぼんばな	ハギ	29
ぼんばな	ミソハギ	36
ぼんばら	ミソハギ	36
ぼんぼこちがま	タンポポ	23
ぼんぼこちゃん	タンポポ	23
ぼんぼんちゃ	タンポポ	23
ぼんぼん	イタドリ	3
ぼんぼんすいか	イタドリ	3
ぼんぼんずい	イタドリ	3
ぼんぼんずいか	イタドリ	3
ぼんぼんずいきょ	イタドリ	3
ぼんぼんずいこ	イタドリ	3
ぼんぼんずいこん	イタドリ	3
ぼんぼんまいか	イタドリ	3

まノ部		
まさき	テイカカズラ	25
まさきのかづら	テイカカズラ	25
またび	マタタビ	34
まつぶどー	マツブサ	35
まとりぐさ	クララ	14
まびゅー	イヌビユ	4
ままっこえちご	オランダイチゴ	9
まみ	ダイズ	21
まめ	エダマメ	6
まめ	ダイズ	21
まめなし	ズミ	20
まんじゅしゃげ	ヒガンバナ	32

みノ部		
みずあおい	ミズアオイ	35
みずあか	アオミドロ	1
みずたばこ	ハッカ	30
みずたんぼぼ	サワオグルマ	16
みずな	ウワバミソウ	6
みずなら	ミズナラ	36
みずひきしょーま	ミズヒキ	36
みずぶき	ウワバミソウ	6
みずぼーき	ウワバミソウ	6
みそはぎ	エゾミソハギ	6
みちしば	カゼクサ	9
みっば	カタバミ	9
みつば	シロツメクサ	19
みつばぜり	ミツバ	36
みつまた	トリアシショウマ	26

みみ	キノコ類	12
みみつんぼ	ヒルガオ	33
みやぎの	ハギ	29

むノ部		
むいなばな	ヒガンバナ	32
むくで	ムクゲ	36
むしかり	オオカメノキ	7
むじなのたばこ	オニフスベ	8
むじなのち	ガガイモ	9
むじなのふとん	イワカガミ	4

めノ部		
めーめーがき	マメガキ	35
めくすり	ハッカ	30
めぐすりばな	ツユクサ	24
めっき	ヒロハノヘビノボラス	33
めっき	メギ	37
めまつ	アカマツ	2
めめがき	マメガキ	35
めんば	ギボウシ	12
めんば	トウギボウシ	25

もノ部		
もえんざ	ボタンツル	34
もくげ	ムクゲ	36
もくげじ	ムクロジ	36
もくだ	トリアシショウマ	26
もくれん	ハクモクレン	29
もくれんげ	ハクモクレン	29
もくれんげ	モクレン	37
もくれんじ	ムクロジ	36
もぐさ	ヨモギ	39
もざえむな	クサボタン	13
もちぐさ	ヨモギ	39
もちのき	モチノキ	37
もとあし	ナラタケ	27
もみ	イチイ	3
もみ	モミ	37
もみじ	カエデ	9
もみじ	ハウチワカエデ	29

やノ部		
やーたいも	サトイモ	16
やくもそー	メハジキ	37
やぐさ	タウコギ	22
やぐさ	メハジキ	37
やすもと	カワヤナギ	11
やすもと	ネコヤナギ	28
やなぎ	ヤマナラシ	39
やはたいも	サトイモ	16
やぶぐるま	コウゾリナ	15
やぶじらみ	ハマゼリ	31
やぶたまご	オニフスベ	8
やぶらん	ジャノヒゲ	18
やぶらん	ヤブラン	38



やまあさ	ハンゴンソウ	31
やまいも	オニドコロ	8
やまいも	ナガイモ	26
やまいも	ヤマノイモ	39
やまうるし	ヤマウルシ	38
やまかい	チョロギ	24
やまかぶら	ウバユリ	5
やまぎり	サワグルミ	16
やまくきたち	シラヤマギク	19
やまごぼー	ヤマボクチ	39
やまごんぼ	ヤマボクチ	39
やます	ジャノヒゲ	18
やます	ヤブラン	38
やますげ	ジャノヒゲ	18
やますげ	ヤブラン	38
やまそ	アマ	2
やまそ	カラムシ	11
やまたちばな	ヤブコウジ	38
やまだけ	イタドリ	3
やまつつじ	クガイソウ	13
やまつつじ	レンゲツツジ	40
やまつつみ	クガイソウ	13
やまな	ミズバショウ	36
やまなし	イワナシ	4
やまなし	ズミ	20
やまなし	ナツハゼ	26
やまなでしこ	ハマナデシコ	31
やまぶき	フキ	33

やまぶどー	サンカクヅル	17
やまほーずき	エンレイソウ	7
やまほーずき	モミジイチゴ	37
やまぼたん	シラネアオイ	19
やまもち	オオカメノキ	7
やまもも	ボケ	34
やまゆり	オニユリ	8
やまらっきょー		

	ヤマラッキョウ	39
やまらん	シュンラン	18
やまわら	カリヤス	11
やむぐり	コウゾリナ	15
やわたいも	サトイモ	16

#### ゆノ部

ゆーごー	ユウガオ	39
ゆーれーばな	ヒガンバナ	32
ゆきわりそー	ミスミソウ	36
ゆり	オニユリ	8
ゆりて	ヌルデ	27
ゆりで	ヌルデ	27
ゆりのき	ウリハダカエデ	6

#### よノ部

よーのみ	エゾエノキ	6
よーのみ	エノキ	6
ようらみばな	トビシマカンゾウ	26
よのき	エゾエノキ	6

よのき	エノキ	7
よのみ	エゾエノキ	6
よのみ	エノキ	7
よのみのき	エゾエノキ	6
よのみのき	エノキ	6
よめがはき	ユウガギク	39
よめのごき	ドングリ	26
よろいぐさ	チドメグサ	23

#### リノ部

りゃーこん	ダイコン	21
りゅーきゅーいも	サツマイモ	16
りゅーのひげ	ジャノヒゲ	18
りょーぼ	リョウブ	40
りょーぼー	リョウブ	40
りんき	リンゴ	40

#### れノ部

れーこん	ダイコン	21
------	------	----

#### ろノ部

ろーぼー	リョウブ	40
------	------	----

#### わノ部

わおーごん	チャンパギク	24
わかな	アブラナ	2
わたたび	マタタビ	34
わたぼーし	ワタ	40